

ふじの教育

令和8年度

2026

富士市教育委員会

目 次

・富士市の位置……………	1
・富士市のすがた……………	2

I 令和8年度 教育行政の方針及び施策

1 教育行政の方針……………	3
2 施策……………	5
(1) 方針1……………	5
(2) 方針2……………	12
(3) 方針3……………	22

II 教育委員会と事務局概要

1 教育長・教育委員……………	30
2 歴代教育委員等……………	31
3 令和7年度教育委員会会議及び 教育委員研修実績……………	32
4 教育委員会の自己点検・評価……………	35
5 教育委員会行政組織機構……………	36

III 令和8年度教育予算

1 歳出当初予算額……………	38
2 一般会計歳出予算と教育費予算……………	38
3 教育費当初予算額内訳……………	39
4 職員数……………	41
5 教育費決算額の推移……………	41
6 教育施設整備事業予算……………	41

IV 主要事業

1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

(1) ふじの教育懇談会……………	42
(2) 施設整備事業……………	42

2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を育成する学校教育

(1) 小・中学校……………	43
(2) 特別支援学校……………	65
(3) 高等学校……………	65

【(関連事業) 幼稚園】…………… 70

3 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

(1) 社会教育……………	72
(2) 図書館……………	77
(3) 少年教育……………	81
(4) 青年教育……………	84
(5) 青少年教育センター……………	86
(6) 青少年相談センター……………	88
(7) 少年自然の家……………	93
(8) 文化財の保護……………	98
(9) 博物館……………	109
(10) 教育文化スポーツ奨励賞……………	116

V 資料編

1 富士市教育行政のあゆみ(略記)……………	117
2 富士市教育委員会委嘱の各種名簿……………	124
3 富士市の社会教育関係団体一覧表……………	131



市 章



市民の木 くすの木



市民の花 バラ

富士市民憲章

富士に生きるわたくしたちは

歴史と伝統をうけつぎ 明日にむかって

豊かな産業と文化のまちづくりをすすめるため

一、富士山のように 広く

思いやりの心をもち たがいに助け合います

一、富士山のように 美しく

自然を愛し きれいな環境をつくります

一、富士山のように 高く

教養を深め 視野のひろい市民となります

一、富士山のように たくましく

働くよろこびをもち 健康な家庭をつくります

一、富士山のように 強く 正しく

きまりを守り 平和で安全な社会をつくります

(昭和五十八年十一月一日制定)

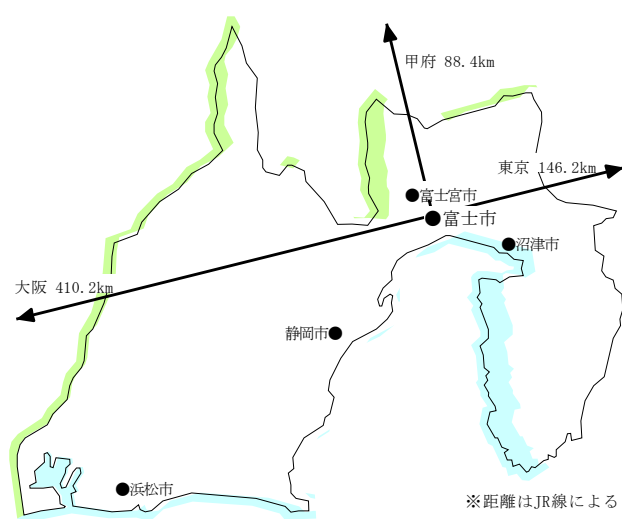
富士市の位置

富士市は、「世界遺産 富士山」の広大な南麓に位置し、標高 3,680mの富士山 9 合目付近から南へ進むにつれ低くなり、日本最深の駿河湾に続いています。市の西部には、日本 3 大急流の一つである富士川が流れています。

鉄道は、東海道本線と東海道新幹線が東西を結び、身延線が富士駅を起点に山梨県までを結んでいます。また、市街地と市の東部地区を結ぶ岳南電車が吉原駅を起点に運行しています。

道路は、日本の東西を結ぶ大動脈である東名高速道路、新東名高速道路、国道 1 号が通り、これらが南に位置する田子の浦港や北の山梨方面へ続く国道 139 号に接続し、日本の物流において重要な役割を担っています。

県庁所在地の静岡市街へは約 34km、また、東京まで約 146km、大阪まで約 410km の位置にあります。西は静岡市（政令指定都市）と富士宮市、東は沼津市、長泉町、裾野市、御殿場市と接しています。



広がり	東西	23.2 km
	南北	27.1 km
面積	244.94 km ²	
人口	243,614 人	
世帯数	113,428 世帯	

令和 8 年 5 月 1 日現在



富士市のすがた

「田児之浦従 打出而見者 真白衣
不尽能高嶺爾 雪波零家留」と、万葉の
歌人、山部宿禰赤人にうたわれた富士
市・・・

富士市の起こりは古く、6千年ないし
7千年前から人類が住んでいたことが、
市内に点在する縄文時代の遺跡、古墳群
等によって分かります。



歌川広重 『東海道五十三次』 吉原 左富士

鎌倉時代に、源頼朝は要路政策により、現在の田子の浦港の東に「見付」をつくり
ました。

その後も「見付」は吉原湊（現田子の浦港）を控えた交通の要衝として、戦国大名
（今川氏、北条氏、武田氏）の保護を受け、大変にぎわいました。「見付」が「吉原」
と改称されたのは4百年くらい前と推定されております。江戸時代には東海道五十三
次の宿場「吉原宿」として、景勝「左富士」とともに旅人の心を癒してきました。

明治維新とともに、地域の経済及び生活条件も大きく変わり、「吉原宿」は宿場と
しての使命をなくし、衰退のきざしを見せました。そこで先覚者たちは植樹、茶業、
養蚕、あるいは「駿河半紙」の伝統を生かし、製紙業を興しました。中でも製紙工業
は富士山麓から湧き出る豊富な地下水と富士山麓の森林資源によって発達し、全国一
の“紙の都”といわれるまでに成長しました。

都市形態も、昭和4年以降数回にわたる隣接町村との合併を重ね、昭和41年11月
1日に吉原市、富士市、鷹岡町が合併し、新生「富士市」が誕生しました。また、平
成20年11月1日に富士川町と合併し、現在静岡県で第3の人口を有する市となっ
ています。現在、人口は243,614人（令和8年5月1日現在）、事業所数は11,310事
業所（令和3年経済センサス活動調査）、年間製造品出荷額等は1兆5,875億8,883
万円（2024年経済構造実態調査）で、県内第5位の工業都市として発展を続けており
ます。

I 令和8年度 教育行政の方針及び施策

1 教育行政の方針

【第二次富士市教育振興基本計画 基本目標】

あす ひら 明日を拓く 輝く「ふじの人」づくり

富士市教育委員会では、「第二次富士市教育振興基本計画（令和4年度～令和13年度）」において、富士市民憲章の「共助・環境・学び・健康・平和」の精神を兼ね備えた「ふじの人」を育成するため、上記基本目標を掲げて、教育施策を推進します。

令和8年度も、「一緒に学ぶ 一生学ぶ」の理念を一層深化させ、児童生徒と市民がともに成長し続ける豊かな学びの実現に向けて、施策を推進します。

方針1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

1 新たな時代に対応する取組の推進

- ・ GIGA タブレット活用と生成AI時代に対応できる情報活用能力育成の推進
- ・ 小中学校の児童生徒・教職員の協働活動を通じた、各中学校区の特色ある小中一貫教育の推進
- ・ 幼児期の遊びを小学校への学びへつなぐ「幼保小の架け橋期のカリキュラム」の推進
- ・ 学校と地域が連携するコミュニティ・スクールの発展に向けた、学校運営協議会での熟議の充実
- ・ 小中学校適正規模・適正配置基本方針の改定及び学校再編計画の策定
- ・ 部活動の地域連携・地域展開の推進及び認定地域クラブ活動の整備による持続可能な活動環境の構築
- ・ 第二次富士市教育振興基本計画後期実施計画の策定
- ・ 富士地区の公立高校再編を見据えた富士市立高等学校在り方審議会の設置

2 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

- ・ 通級指導教室の新設・増設（富士中・岩松北小・伝法小）
- ・ 全ての児童が安心して過ごせる支援体制強化に向けた、校内教育支援センターの増設（吉原小、青葉台小）
- ・ 児童生徒への適切な支援を行うための、特別支援教育の理解深化と担当者研修の充実
- ・ 巡回学習相談員による、通常学級に在籍する特別な支援を要する子どもへの支援の充実
- ・ 外国にルーツを持つ児童生徒への、在籍校や国際教室（吉原小・富士見台小・田子浦小）における日本語指導や教科指導の支援の充実
- ・ 安心できる居場所と多様な学びを通じ、主体的な社会的自立を支援する「ステップスクール・ふじ」の運営
- ・ 若者相談窓口「ココ☆カラ」を通じ、地域と連携した切れ目のない包括的支援の継続と、若者が自分らしく社会参画し活躍できる環境の推進

3 安全・安心で充実した教育環境の提供

- ・ 給食室へのエアコン設置の段階的实施（岩松北小、吉原第一中、吉原第三中、富士中）
- ・ 校舎等の長寿命化改修の実施（今泉小、吉原第二中ほか）
- ・ 田子浦小学校の田子浦中学校敷地内への統合に向け、基本設計を実施
- ・ 吉原第一中学校に武道場を新築するため、南校舎を解体
- ・ 小学校1・2年生が利用するトイレの完全洋式化を実施
- ・ 児童生徒用トイレの洋式化・乾式化を計画的に実施（富士南小、吉原第一中ほか）
- ・ 誰もが利用できるバリアフリー対応のトイレを設置（富士第二小、富士南小ほか）

方針2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

1 豊かな心の育成

- ・ 一人一人の個性や多様性を尊重し、自分の意見を自由に表し意思決定の過程に関与する機会の確保
- ・ 全ての教育活動で自他の価値を尊重しようとする意欲や態度の育成
- ・ 教科の学習や特別活動を通して「子どもの権利」について学ぶ機会の確保
- ・ 「ほっとデジタル相談・ふじ」の活用等、児童生徒支援のための学校と関係機関の連携の強化
- ・ スクールソーシャルワーカーや生徒指導アドバイザー等を活用した諸課題に対する校内体制の充実

2 確かな学力の向上

- ・ 子どもが課題に魅力を感じ、自分らしさを発揮しながら、課題解決に向かう中で、資質・能力が育まれる授業実践
- ・ 学びに向かう意欲や粘り強さ、協働する姿勢などの非認知能力の基礎を育み、主体的な学びにつながる土台づくり
- ・ 習得・活用及び探究を意識した単元構想・授業づくりの推進
- ・ 「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現」に向けた授業づくり、学級づくり（研究指定校：青葉台小）
- ・ 自分に合った学び方が身に付いた、自立した学習者の育成（研究指定校：吉原小、吉原第三中）
- ・ 子どもの権利を尊重した学びの充実（研究指定校：富士見台小、富士川第一中）

3 健やかな体づくり

- ・ 基本的な生活習慣や心身の健康の保持増進を目指す取組の推進
- ・ 体育と保健との関連を図った授業づくり、ICTの効果的な活用等、体育（保健体育）の授業改善の促進
- ・ 部活動地域連携・地域展開に向けたスポーツ活動の実証的モデル事業の実施
- ・ 自助・共助の意識を高め、実践力を高める防災教育・安全教育の推進
- ・ 水泳授業の民間委託を試行し、その効果と課題を検証した上で、今後の水泳授業と学校プールの在り方を検討

4 頼もしい教職員の育成

- ・ 富士市子どもの権利条例に基づく、人権を尊重した教育環境づくりの研修の推進
- ・ 不祥事根絶研修の継続実施による、コンプライアンス（法令順守）意識と実践力の向上
- ・ 授業力・生徒指導力の向上、特別支援教育への理解等、キャリアステージに応じた研修機会の充実
- ・ 富士市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の実施による、教職員の時間外業務等の適切な把握・管理及び働き方改革の推進
- ・ 共同学校事務室による取組の充実と、学校事務の効率化による教職員の働き方改革の推進

5 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校

- ・ 「究タイム」及び各教科を通じた、主体的・対話的で深い学びの実践
- ・ ウェルビーイングの視点を意識したキャリア教育や探究学習を通した、生徒の夢実現への支援
- ・ アジア圏を研修地とする海外探究研修の実施
- ・ 「市役所プラン」や地域との交流事業など、地域住民や地元事業所、市役所等と連携した学習の推進
- ・ ウェブ出願システムによる高等学校入学者選抜のデジタル化
- ・ 勤怠管理システムの導入による教職員のワーク・ライフ・バランスの推進

方針③ 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

1 人生 100 年時代を豊かに生きる学びの推進

- ・ 小学校1年生から3年生までを対象とした少年教育講座の実施（教育プラザ）
- ・ まちづくりセンター講座等の身近な場所における、幅広い世代への多様な学びの提供
- ・ 地域の資源や魅力を知ることにより、地域の課題に対し自ら行動することにつながる学習機会の充実（地区まちづくりセンター）
- ・ 青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」を長野県で実施
- ・ 地域・家庭と学校との連携・協働を推進していく地域学校協働活動の在り方についての検討

2 市民の学びの場である図書館の充実

- ・ 電子図書館や移動図書館、オーディオブック等を活用した多様な読書環境の充実
- ・ 「第三次富士市子ども読書活動推進計画」における進捗状況の検証と施策の見直し
- ・ 市民の学びを広げるための本や読書に関する講座や講演会の開催
- ・ ボランティアの育成及びスキルアップを目的とした講座や勉強会の実施

3 こころ豊かな市民文化の創造

- ・ 国指定史跡「浅間古墳」の発掘調査への着手（5か年計画）
- ・ 国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」の移築復原に向けた解体工事の実施
- ・ 国重要文化財「古谿荘」の修復事業への継続支援
- ・ 「しずおか遺産」に認定されたストーリー「駿河湾のめぐみと行き交う船」を構成する歴史や文化財の啓発事業の実施
- ・ 市指定史跡「千人塚古墳」の整備完了に伴う維持管理・活用の実施
- ・ 市制60周年及びリニューアル10周年記念展「富士山へ帰るかぐや姫」をはじめとする展示会及び各種体験講座の開催

2 施策

第二次富士市教育振興基本計画で掲げる方針に基づき行う本年度の取組について記載しています。

【方針１】 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

【方針２】 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

【方針３】 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

（１）方針１ 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

〔施策の柱１〕新たな時代に対応する取組の推進

本年度は、第二次富士市教育振興基本計画（令和４年～令和１３年度）に基づく教育行政の実施５年目に当たり、重点施策を確実に前進させる重要な年となります。AI 技術の急速な発展、進行する少子化、国際情勢の不安定化など、社会は一層予測困難となり、いわゆる VUCA^１の時代と言われています。同時に、誰一人取り残さない教育の実現、少子化による学校規模の縮小、老朽化施設への対応など、教育現場が直面する課題は多岐にわたり複雑化しています。こうした状況の中で、子どもたちが主体的に未来を切り拓き、幸せに生き抜くために必要な力を育むことは、教育に課せられた大きな使命であり、本市として「今、できること」を確実に実行していく必要があります。

新たな時代を生き抜く子どもたちには、自分のよさや可能性を理解し、他者を尊重しながら協働し、ウェルビーイング^２を創り出す力が必要です。また、これからの社会では生涯にわたって自ら学び続ける姿勢も不可欠です。本市では、こうした資質・能力の育成につながる教育基盤の強化に、引き続き取り組んでいきます。

このため、各学校では昨年度更新した GIGA タブレットをはじめとする ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図ります。また、各学校での良い実践を共有して、教職員の ICT 指導力を高め、教職員が生成 AI を活用するための基礎知識を習得し、段階的に情報活用能力を育む授業の研究を進めます。

小中一貫教育^３については、令和６年度から全中学校区で取組が本格的に開始され、着実に根付いてきています。本年度も引き続き、小中の学びを切れ目なくつなぎ、小小連携を一層充実させ、学校・家庭・児童生徒・教職員が協働する豊かな教育活動を推進します。子どもの成長を支えるため、発達段階に応じた適切な支援を行うことで、幼児教育から小学校、そして中学校へと滑らかに繋がうようにします。

学校と地域の連携では、コミュニティ・スクール^４全校導入から３年目を迎え、制度への理解を深めるために、CSD^５（コミュニティ・スクール・ディレクター）や教職員、学校運営協議会委員への研修の充実を図ります。地域の声を生かした学校づくりや地域との協働活動について研究し、CSD 定例会で地域の特色を踏まえた活動についての情報を共有し、よりよい連携を目指します。また、子どもや地域、学校の様々な実践を積み重ね、その成果を確かめながら、地

^１ VUCA とは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語で、社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のことを意味する。

^２ 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念のこと。

^３ 小・中学校同士で情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す小中連携教育のうち、小・中学校で目指す子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を行う教育

^４ 学校と地域住民、保護者の協働による学校運営が可能となる「地域とともにある学校」を実現するための仕組み

^５ コミュニティ・スクールの運営や学校種間の調整、分野横断的な活動の総合調整など統括的な立場で調整等を行う地域人材

域とともにある学校づくりを推進していきます。

一方で、少子化による学校規模の縮小や施設の老朽化への対応は喫緊の課題です。持続可能な教育環境の確保に向け、本年度は小中学校の適正規模・適正配置の基本方針を見直し、学校再編に関する議論を進めていきます。このことについては、地域の意見を踏まえつつ、将来を見据えた検討を丁寧に行っていきます。

また、市立高校についても、「富士市立高等学校在り方審議会」を設置し、今後の在り方についての検討を進めます。

部活動の地域連携・地域展開については、令和7年度に策定した基本方針に沿って、中学生が自分がやりたいことに参加できる環境を段階的に整備していきます。本年度は、認定地域クラブの認定を推進し、休日の活動について、準備が整った種目・活動から地域に展開していきます。

さらに、第二次富士市教育振興基本計画の後期実施計画の策定に向け、これまで積み重ねてきた成果を確認しつつ、今後の5年間で形づくる計画を着実にまとめていきます。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】 Society5.0⁶に対応する教育の充実
・ GIGA タブレットをはじめとした ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、深い学びにつながる授業を実践する。 ・ 各学校の実践を共有する場を設け、教職員の ICT を活用した指導に関する資質向上を図る。 ・ 教職員が生成 AI を活用するための基礎知識を理解するとともに、児童生徒が生成 AI を学習に利用しメディアリテラシーを育成するための研究を進める。
【指標に関する取組】 <u>教員のニーズに応じた情報教育研修会の充実</u> 【指標】 教員の ICT 活用指導力の状況において、「できる」「ややできる」と回答した教員の割合 【R7 実績/ R8 目標】 88.4%/ 100%
【施策②】 学びの連続性を意識した教育の推進
・ 各中学校区で特色ある小中一貫教育を進めるため、授業づくりの他、小中学校で一緒にできる共通の取組（軸となる取組）で協働を図る。 ・ 児童生徒・教職員の小中の協働活動や小中合同行事など、施設分離型での取組や成果を学校だよりやウェブサイト等で広報し、小中一貫教育の周知につなげる。 ☆「富士市の架け橋プログラム」⁷について教職員の理解が進むよう、研修会などを通してリーフレットを周知し、園小の連携の充実を図る。
【指標に関する取組】 <u>教職員同士の協働による、連続性や系統性のある学習支援や生徒支援の充実</u> 【指標】 小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる連携推進員の割合 【R7 実績/ R8 目標】 100%/ 100% 【追加指標】 小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる教職員の割合 【R7 実績/ R8 目標】 89.4%/ 100%

⁶ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、国の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

⁷ 子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間を指し、幼児教育と小学校教育をつなげる時期）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すもの

【施策③】地域とともにある学校づくり	
・コミュニティ・スクールへの理解を深め、制度をより有効に活用するために、学校運営協議会会長をはじめ、学校運営協議会委員や教職員への研修を充実させる。 ・地域の声を生かした学校づくりや地域の力を学校の教育活動に活かすこと、子どもの地域行事への参画等、地域学校協働活動の促進について研究を進める。 ・CSD 定例会を開催し、地域の特色に応じた取組等の情報を共有し、学校運営協議会の円滑な運営や熟議の充実、地域と学校の連携・協働の在り方について研究を深める。 ・地域とともにある学校の子どもや地域、教職員の具体的な姿の記録を蓄積し、成果の実感を積み重ねる。	
【指標に関する取組】	
<u>コミュニティ・スクールの充実</u>	
【指標】「コミュニティ・スクール等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まったか」に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合	
小学校【R7 実績/ R8 目標】100%/ 100%	
中学校【R7 実績/ R8 目標】100%/ 100%	
その他の事業	
☆小中学校適正規模・適正配置基本方針の改定及び学校再編計画の策定	
☆部活動地域連携・地域展開に向けた体制整備等	
☆第二次富士市教育振興基本計画後期実施計画の策定	
☆富士地区の高校再編を見据えた「富士市立高等学校在り方審議会」の設置	
・教育委員研修（今日的な課題研究、学校・教育視察等の視察）の実施	
・教育委員会広聴事業「ふじの教育懇談会」の実施	



教育委員研修
(学校訪問)



教職員と語る会

〔施策の柱２〕 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

私たちを取り巻く社会情勢や教育環境は、急速なデジタル化や生成 AI の普及、国際化の進展などにより大きく変化し、より良い社会を多様な他者との協働の中で創り出していくことが求められる時代へと移り変わってきました。このような中、一人一人が未来を拓く力を身に付け、誰一人取り残さない社会を目指した質の高い教育の実現が重要となっています。

そこで、SDGs⁸未来都市である本市では、輝く未来を拓く人を育むため、民間企業と教職員が協議を行い、共同で作成した「子ども社会体験科『しくみ～な ふじ⁹』」を導入し、社会の仕組みを体系的に学ぶ学習活動を通して、「自分と社会の幸せを両立し、しなやかに生きる力」、「地域社会・経済の担い手となる意欲」などを育てていきます。本年度は、導入校を増やし小学校 5 校、中学校 5 校で実践予定です。

特別支援教育については、発達に課題がある子どもやその保護者の困り感に寄り添い、きめ細かな支援を行うため、特別支援教育センターを拠点に、専門職による学校訪問支援や保護者相談、巡回学習相談員による保護者・学校支援、関係機関との連携の充実を図っていきます。また、通常学級に在籍する個別の支援を必要とする児童生徒が、通級指導教室¹⁰での指導をより受けやすくなるよう、計画的に自校通級¹¹を拡充していきます。さらに、特別支援に関する専門的知識や指導法等を学ぶ研修を充実させることにより、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援ができるようにしていきます。今後も特別支援サポート員¹²や生徒指導サポート員¹³を学校の規模や児童生徒の状況を考慮して配置していきます。

多様性を尊重する社会意識の高まりや外国にルーツを持つ児童生徒の増加を受け、在籍校での支援を一層充実させるとともに、吉原小、富士見台小、田子浦小に設置した国際教室については、週 5 日の開級を継続します。さらに、昨年度までのポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、中国語、フィリピン語の支援に加え、本年度は新たにフィリピン語支援員を 1 人増員し、個別指導を実施することで、一人一人に応じたきめ細かな日本語指導や教科指導の充実を図っていきます。併せて、来日間もない児童生徒への初期支援を行い、どの子どもも不安なく安心して学校生活を送れるよう努めていきます。

また、近年、子どもの数は減少している一方で、不登校児童生徒数は増加しており、こうした子どもへの支援が急務となっています。

すべての子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、富士第二小学校に開設した校内教育支援センター「ほっとルーム」が有効に機能していることが検証できたため、本年度は、吉原小学校と青葉台小学校にも新たに校内教育支援センターを設置し、子どもが校内で安心して過ごせる環境づくりを進めていきます。

さらに、家庭内で孤立した子どもへの支援も重要な課題です。このため「ステップスクール・ふじ」では、安心して過ごせる居場所と多様な学びの機会を保障し、自分のペースで社会的自

⁸ SDGs とは持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のこと。2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際社会共通の目標

⁹ 校内授業と学外体験施設での社会活動を通して世の中の仕組みを学習すること。

¹⁰ 通常学級に在籍し、授業の中で困難さを感じている子どもに対して、一部の授業を別の教室で個に応じた教育課程に基づいた内容で受ける制度のこと。

¹¹ 通級指導教室が設置された学校に在籍する子どもが、自分が在籍する学校の通級指導教室に通う形態

¹² 通常学級で特別な支援を必要とする児童生徒の対応に当たる特別支援教育サポート員と、特別支援学級に配置される特別支援学級サポート員のこと。看護師資格や介助員の資格を持ったサポート員も含む。

¹³ 主として中学校に配置されるサポート員。不登校生徒の対応や通常学級で困り感を持っている生徒の対応などにあたる。

立を目指せるよう支援していきます。若者相談窓口「ココ☆カラ」では、困難を抱える若者とその家族に対し、医療・教育・福祉が連携した切れ目のない支援を行い、主体的な社会参加を後押ししていきます。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】SDG s 達成に向けた取組の推進 - SDGs に関するテーマを教科等横断的にカリキュラムへ組み込み、持続可能な開発目標への理解を深め、実践に結びつけていく。 - 子どもたちが SDGs を「自分ごと」として捉えられるよう、各教科等において積極的に取り組む。 - 地元企業と連携し、SDGs の視点を取り入れた学習を深めることで、持続可能な社会の担い手を育成する。 - 民間企業と協働で、社会の仕組みを体系的に学ぶ「子ども社会体験科『しくみ～な ふじ』」の実践を広げる。 - 学校図書館において、SDGs 関連の資料の整備し、探究学習で活用できる環境をつくる。
【指標に関する取組】 <u>SDG s の達成に向けた教育活動の充実</u> 【指標】「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合 小学校【R7 実績/ R8 目標】79.9%/ 90% 中学校【R7 実績/ R8 目標】72.5%/ 80%
【施策②】特別支援教育の充実 ☆自校における通級指導教室（自校通級）を計画的に拡充し、通常学級に在籍する児童生徒の困り感に寄り添い、適切な支援を行う。（R 8 から開設の自校通級：富士中、岩松北小、伝法小）（既存との合計：言語通級¹⁴が3校、発達通級¹⁵が小学校13校、中学校10校） - 特別支援学級担任、通級指導教室担当者を対象とした研修の充実を図る。夏季研修会では、小中学校教員の特別支援教育に関する理解を深める。 - 巡回学習相談員を配置し、通常学級に在籍する個別の支援が必要な児童生徒に、それぞれの状況に応じた教育的支援の充実を図る。 - 特別支援教育サポート員・特別支援学級サポート員等の適切な配置や研修による個別支援体制の充実を図る。 - 特別支援教育センター専門職による小1訪問支援や、ひらがな音読支援（1年生）における指導の充実を図る。
【指標に関する取組】 <u>特別支援サポート員の研修の充実</u> 【指標】特別支援サポート員等の研修満足度（5段階評価の平均値） 【R7 実績/ R8 目標】4.7/ 4.7

¹⁴ 言葉の発達が遅かったりや吃音があったりなど、話し言葉に困り感をもつ児童が、個々の実態に応じた個別の指導を受けることができる教室

¹⁵ 人とうまく関われなかったり、漢字がなかなか覚えられなかったりなど、生活面や学習面の一部に困り感をもつ児童生徒が、個々の実態に応じた個別の指導を受けることができる教室

【施策③】外国人等の児童生徒への支援 ・外国にルーツを持つ児童生徒が安心して学校生活を送り、中学校卒業後の進路にも前向きな希望を抱けるよう、特に日本語指導を必要とする児童生徒への支援の充実を図る。 ・初期支援や訪問支援、国際教室での支援がより温かく質の高いものとなるよう、外国人児童生徒支援員への研修を進める。 ☆新たにフィリピン語支援員を1人増員し、支援を必要とする児童生徒への個別指導を実施することで、一人一人に応じたきめ細かな日本語指導や教科指導支援の充実を図っていく。 ・外国語翻訳機の拡充により、外国籍等の児童生徒への支援をさらに充実させる。
【指標に関する取組】 <u>個に応じた日本語指導、学習指導の充実</u> 【指標】日本語指導が必要な児童生徒に対する「特別の教育課程」実施の割合 【R7実績/ R8目標】79.5%/ 80%
【施策④】学びのセーフティネットの充実 ・「ほっとデジタル相談・ふじ」により、多様な悩みや不安を丁寧に受け止め、寄り添う相談体制の充実を図る。 ・「ステップスクール・ふじ」では、居場所と多様な学びの権利を保障し、最善の利益を尊重した支援を通じて、主体的な社会的自立を目指せるよう支援する。 ☆昨年度、富士第二小学校に設置した校内教育支援センターに加え、吉原小学校、青葉台小学校に校内教育支援センターを増設する。
【指標に関する取組】 <u>「ステップスクール・ふじ」の相談業務や運営の充実</u> 【指標】ステップスクール・ふじを利用した中学3年生のうち、自分なりの進路が見いだせた割合 【R7実績/ R8目標】100%/ 100%
その他の事業
・保護者教室、合同相談会の開催
・富士市若者相談窓口「ココ☆カラ」の運営
・困難を抱える若者やその家族を支援する人材「若者サポーター」の育成



「ステップスクール・ふじ」スプリングコンサート



「ステップスクール・ふじ」ブーメラン作り

〔施策の柱3〕 安全・安心で充実した教育環境の提供

学校施設の延床面積の約6割が、築40年以上の建物で、かつ、改修を要する状況であり教育面・安全面での老朽化対策が急務となっています。また、小中学校の施設は、災害発生時の避難場所など地域防災の拠点的功能としての重要性が年々高まっており、学校施設には地震や豪雨などの自然災害発生後も使うことのできる強靱さと高機能化が求められています。

一方で、厳しい財政状況を踏まえ、財政負担を平準化し、中長期的な維持管理費の削減を図るため、「富士市学校施設長寿命化計画¹⁶」に基づき、長寿命化改修等を確実に進めているところです。

本年度も、引き続き校舎の屋上防水、外壁改修、トイレ改修、校舎内部改修及び屋内運動場のリニューアル改修などの長寿命化改修を実施していくほか、衛生的な環境を確保するため、給食室へのエアコン設置を段階的に進めていきます。また、老朽化した田子浦小学校の校舎については、令和7年度に検討した基本構想を基に、田子浦中学校敷地内へ統合するための基本設計をしていきます。

また、吉原第一中学校では、老朽化した南校舎を解体し、武道場を新築するための準備を進めています。

なお、本年度以降における学校施設長寿命化の実施計画については、「富士市公共施設マネジメント基本方針¹⁷」と整合性を図りながら見直していきます。

さらに、誰もが安全に安心して学校施設を利用できるように、段差解消のためのスロープ整備やバリアフリースイールを設置していきます。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】安全・安心な学校施設整備の充実 ・避難場所である学校の屋内運動場にバリアフリースイールを設置する。 ・小学校1・2年生用トイレの洋式化を行う。 ・児童生徒用トイレの洋式化、乾式化、非接触型水栓の設置等の改修を行う。
【指標に関する取組】 <u>トイレの洋式化やバリアフリースイールの設置推進</u>
【指標】バリアフリースイールの設置率 【R7実績/ R8目標】95.0%/ 100%
【施策②】より良い教育環境の維持・整備
☆衛生的な環境を確保するための給食室へのエアコン設置を段階的に実施する。（岩松北小、吉原第一中、吉原第三中、富士中） ・校舎や屋内運動場の屋上・屋根防水や外壁改修を行う。 ・教室の床・壁・天井などの内部改修を行う。 ・学校施設長寿命化計画について見直しを行う。
【指標に関する取組】 <u>学校施設ごとの長寿命化計画に基づいた施設の維持改修</u>
【指標】長寿命化計画の進捗率 【R7実績/ R8目標】80.8%/ 100%
その他の事業
☆令和12年4月の供用開始を目指し、田子浦小学校校舎の改築基本設計を実施
☆吉原第一中学校に武道場を新築するため、南校舎を解体
・遠距離通学をしている子どもたちへの通学支援（スクールタクシー等）の実施

¹⁶ 学校施設の長寿命化に必要な改修等の内容、時期、費用等を示し、長期的な財政負担の軽減・平準化を図り、施設整備を実施するための計画

¹⁷ 本市における公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本的な指針として位置付けるとともに、地方における行動計画である「公共施設等総合管理計画」に相当するものであり、「富士市学校施設長寿命化計画」の上位計画である。

（２）方針２ 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

〔施策の柱１〕 豊かな心の育成

各学校では、「みんなが学びの主人公」となる授業を目指し、子ども一人一人の個性や多様性を尊重しつつ、その子の持てる良さを伸ばしていきます。

そして、「富士市子どもの権利条例¹⁸」に基づき、授業だけでなく、学校生活全体を通して、子どもが自由に意見を表現し、意思決定のプロセスに関与できる機会を確保していきます。このことにより、社会の一員として認められる経験を積むことで、子どもたちの自己肯定感を高めていきます。併せて、各学校で児童生徒が授業や特別活動を通して、「子どもの権利」について学ぶ機会を設け、理解の深化を図ります。

特別支援教育では、インクルーシブ教育の充実を図るため、特別支援学校や特別支援学級との交流を積極的に行っていきます。また、様々な人との触れ合いの中で、互いを尊重することの大切さを学び、相手を思いやる豊かな心を育んでいきます。

さらに、タブレット端末の使用に際し、情報モラル教育の充実を図ることで、ネット上においても他者の人権を尊重する態度を育てていきます。タブレット端末を使って、気軽に悩みを相談できる「ほっとデジタル相談・ふじ」を活用し、子どもの悩みや不安を幅広く把握し、関係機関が連携して、安心して学校生活が送れるようにしていきます。加えて、多様な価値観の存在を認め合う「考え、議論する道德」の授業を推進していきます。

令和7年11月に公表された「いじめ¹⁹の重大化を防ぐための留意事項集」「いじめの重大化を防ぐための研修用事例集」を活用し、いじめの未然防止に向けた学校体制の強化やいじめの定義の周知徹底を図ります。さらに、令和6年8月に改訂された「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」をもとに、いじめを受けた子どもに寄り添った丁寧な対応を心掛けるなど、いじめ問題へのすばやく組織的な対応を充実させていきます。

教職員は、子どもの行動の意味や心情を把握するだけでなく、発達段階や生活環境、必要な支援についての理解を深め、その子のよさや可能性を引き出す「子ども理解」を深化させます。学年・学級では、発達支持的生徒指導²⁰を基盤に、「居場所づくり」や「絆づくり」を計画的に進め、生徒指導上の諸課題の未然防止に努めます。不登校の増加やSNSを契機としたトラブル、多様性への配慮等に対しては、これらを早期に察知し、積極的に先手を打った支援・援助を行います。また、問題が起こった際には、必要に応じてスクールソーシャルワーカー²¹（SSW）や生徒指導アドバイザー²²等を活用し、ケースに応じた組織的で迅速かつ丁寧な対応ができる体制を整えていきます。

¹⁸ 全ての子どもが命を守られ、自分らしく生き、成長し、及び発達していくことができるよう、子どもの権利を保障するとともに、子どもにやさしいまちづくりを推進することを目的に、子どもの権利や各主体の役割、権利を保障する仕組み等を規定するために、令和4年4月に富士市で施行された条例

¹⁹ 当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの

²⁰ 児童生徒自身が自発的・主体的に自らを成長・発達させる過程を支える生徒指導の在り方

²¹ いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待等生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識・技能を用いて、課題を抱えた児童生徒本人に対する支援や、関係機関とのネットワークの構築、連携、調整など、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけながら支援を行う専門の非常勤職員

²² 生徒指導に関するアドバイスや指導を行う役割を担う職員。主に、不登校児童生徒の対応や通常学級で困難さを抱えている児童生徒の対応、管理職への相談支援・当該児童生徒への直接支援等を行う。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】個性を尊重する人間関係づくり ・教職員の「子ども理解」を深め、子どもの思いに寄り添い、それぞれの個性が尊重される環境づくりを推進する。 ・生徒指導上の諸課題に対応するため、スクールソーシャルワーカー（SSW）を増員し、校内体制の構築と充実を一層推進する。 ☆自己理解、他者理解を含む対人関係スキル等を育成するために、「静岡県版 SEL²³」の活用を推進する。 ・「ほっとデジタル相談・ふじ」の活用等、学校と関係機関との連携の強化を図る。
【指標に関する取組】 <u>学校訪問等を通じた、「子ども理解」の重要性に係る教職員への周知</u> 【指標】「自分には良いところがあると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合 小学校【R7実績/ R8目標】85.3%/ 90% 中学校【R7実績/ R8目標】85.9%/ 85%
【施策②】人権感覚の醸成と道徳的実践力の育成 ・各学校で児童生徒が、教科の学習や特別活動を通して「子どもの権利」について学ぶ機会を設ける。 ・多様な視点から話し合い、自己のよりよい生き方を考えることができる「考え、議論する道徳」の授業について、研修を充実する。 ・情報モラル教育、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育成する人権教育の充実を図る。
【指標に関する取組】 <u>教育活動全体を通じた計画的・組織的な人権教育と道徳教育の推進</u> 【指標】「人が困っているときは、進んで助けている」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合 小学校【R7実績/ R8目標】93.4%/ 100% 中学校【R7実績/ R8目標】91.0%/ 100%



豊かな心の育成（道徳）

²³ 静岡県版 SEL（Social and Emotional Learning）は、静岡県教育委員会が社会情動的スキルの育成を目的として、人間関係づくりプログラムを改訂し策定した教育プログラムである。変化の大きい社会を生きる児童生徒のウェルビーイング向上を重視している。

〔施策の柱 2〕 確かな学力の向上

各学校では、社会に開かれた教育課程²⁴や確かな学力の育成、体験活動や ICT を活用した学習活動の充実等、学習指導要領に基づいた実践を進めます。

令和 8 年度の「授業づくりの重点」（詳細は P 48～49）として掲げている、「子どもと教材をつむぐ単元構想を構想する」、「見取りを生かし、仕掛ける」、「学びの実感を次へつなぐ」を意識し、みんなが学びの主人公になる授業づくりを推進していきます。

併せて、学びに向かう意欲や粘り強さ、協働する姿勢などの非認知能力²⁵の基礎を育むことにも力を入れていきます。これらは、主体的な学びと深い学びを支える土台となる力であり、日々の授業や学校生活の中で意図的に育てていきます。

昨年度は、特別支援教育の研究指定校の実践発表が行われ、子ども一人一人の学びの様子を丁寧に見取り、個を大切にした指導を行う意識が高まっています。「主体的・対話的で深い学び²⁶」の視点のもと、子どもが各教科の「見方・考え方」を働かせながら、学びのつながりや学ぶことの良さを実感できるよう、授業改善を進めていきます。

自立した学習者の育成を目指し、子ども自身が問いを持ち、自分で計画を立て、自分に合った方法を選択して課題解決を目指すなど、振り返りや自己調整を行うことができる授業を推進します。令和 7・8 年度研究指定校（吉原小、吉原第三中）では、さらに研究を深め、成果の発表を行います。

また、本年度からは、新たに指定した研究指定校（富士見台小、富士川第一中）において、子どもの権利を尊重した学びについても研究を進めます。これは、富士市が令和 4 年に制定した「富士市子どもの権利条例」を学校教育の中に浸透させ、更なる充実を図るためのものです。

各学校では、子ども自身が権利の主体として、それぞれの思いや考えが互いに尊重され、安心して伝え合うことのできる授業を目指します。子ども一人一人の個性や背景に応じた支援を行うことで、子どもが主体的に学び、成長していくための確かな土台を育んでいきます。

GIGA スクール構想開始から 5 年が経過し、ICT の効果的な活用によって深い学びの実現を図る「NEXT GIGA」と呼ばれる段階に入りました。ICT を活用して情報を整理し、多面的・多角的に考える力を養うことで、子ども自身の思考をさらに深め、知識を関連付けて活用する学びへとつなげていきます。

これらの取組を通して、子どもが学びの主人公として、自ら問いを持ち主体的に課題の解決に向かう経験を積み重ね、資質・能力が確実に身に付くよう努めていきます。

²⁴ 学校が社会と連携・協働した教育活動を充実させるためのカリキュラムのこと。

²⁵ 文部科学省が学習指導要領で示す「学びに向かう力、人間性等」や「主体的に学習に取り組む態度」に相当する力のことで、意欲、粘り強さ、協働性、自己肯定感、感情の調整など、テストでは測りにくい内面的な資質・能力を指す。

²⁶ 学習指導要領において示された、授業において、子どもが学習内容を深く理解し、資質・能力を育成するために「どのように学ぶか」という具体的な学びの姿のこと。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】主体的に学びに向かう力の育成 ・子どもが学びに向かう意欲や粘り強さ、協働する姿勢などの非認知能力の基礎を育み、主体的な学びにつながる土台をつくる。 ・子どもが自ら問いを持ち、課題に向かって自走できるようにするための単元構想に基づいた授業を推進する。 ・意図的に思考力・判断力・表現力等を育む場面を設定し、子どもが学びの実感を得られる授業を行う。 ・主体的・対話的で深い学びを実現するため、子どもが主体となって自己決定できる場を設定し、子どもが学びの主人公となる授業を創り出す。 ☆「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現」に向けた授業づくり、学級づくりを行う。（研究指定校：青葉台小） ☆子どもの権利を尊重した学びについて研究を行う。（研究指定校：富士見台小、富士川第一中）
【指標に関する取組】 <u>校内研修や学校訪問等による授業改善の推進</u> 【指標】「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合 小学校【R7実績/ R8目標】83.4%/ 90% 中学校【R7実績/ R8目標】86.7%/ 90%
【施策②】習得・活用・探究による学びの深化 ・子どもが自ら課題や学習の進め方を考え、各教科で得た知識や技能を関連付けて活用しながら、課題解決力を育成できるよう、教科横断的な単元構想を行う。 ・ICTを効果的に活用し情報活用能力を育成するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、習得・活用・探究という学びの過程の中で「深い学び」を実現する。 ☆子ども自ら計画を立て、自分に合った方法を選択する学びの在り方（自立した学習者）について、研究を行う。（研究指定校：吉原小、吉原第三中）
【指標に関する取組】 <u>習得・活用・探究を意識した単元構想・授業づくりの推進</u> 【指標】「習得・活用・探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」に「よく行った」と回答した学校の割合 小学校【R7実績/ R8目標】38.5%/ 50% 中学校【R7実績/ R8目標】20.0%/ 60%



タブレット端末を使っの学び



生徒同士の話し合

〔施策の柱3〕 健やかな体づくり

子どもたちが、自己の健康の大切さを認識し、健康の保持増進等に主体的に取り組むために、「バランスのとれた食事」、「十分な休養と睡眠」、「適度な運動習慣」といった基本的な生活習慣の基礎を培うことは極めて重要です。

ICT 機器の利用増加に伴う視力の低下や、睡眠時間の減少による生活習慣の乱れは依然として課題になっています。このことから、家庭・学校医などと連携し、小・中学校で継続的な指導ができるよう支援していきます。

食物アレルギーをはじめ、健康面で支援の必要な子どもは年々増加しています。全ての子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、学校と家庭が一体となって丁寧に対応するとともに、子どもたちの発達段階に応じた自己管理能力の育成ができるよう支援していきます。

保健領域との関連に着目した体育（保健体育）科授業づくりを進め、運動・スポーツに「する」「みる」「支える」「知る」と多様に関わることを促す指導を通して、各学校の授業改善を図ります。また、施設や用具の整備などによる安全管理体制を整えつつ、日常的に体を動かす機会を大切にする環境づくりを進めます。さらに継続して、休み時間等での外遊びや運動を奨励、体力づくりに取り組む県主催事業への積極的な参加等、子どもが運動の楽しさを実感できるよう支援し、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ子どもの育成を目指します。

近年、不審者事案や交通事故など、子どもを取り巻く事件・事故が各地で発生しており、南海トラフ巨大地震や富士山噴火に加えて豪雨災害など自然災害の発生リスクも高まっています。こうした状況を踏まえ、自らの命を守るための知識や判断力を育てるとともに、子どもたちの発達段階や地域の実態に応じて「自助・共助・公助」の意識を高め、安全について主体的に考え行動する力を養うため、防災教育や安全教育の一層の充実を図ります。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】生活習慣を整えられる子どもの育成 - 基本的な生活習慣や心身の健康の保持増進を目指す取組を推進する。 - 各種健康診断結果を活用して課題となる事項を見だし、より効果的な取組を行う。 - 学校保健委員会等を活用し、家庭や地域、学校医等の関係機関と連携した取組を推進する。 - 栄養バランスのとれた食事の大切さを子どもたちが認識できるよう、食に関する教育の充実を図る。 「学校生活アレルギーマニュアル」を活用し、アレルギー疾患の子どもへの対応を学校全体で行う。
【指標に関する取組】 健康指導の充実 【指標】毎日、同じぐらいの時刻に寝ていると答えた子どもの割合 小学校【R7実績/ R8目標】80.8%/ 85% 中学校【R7実績/ R8目標】81.3%/ 80% 【追加指標】朝食を食べたと答えた子どもの割合 小学校【R7実績/ R8目標】96.4%/ 97% 中学校【R7実績/ R8目標】93.3%/ 94.4%

【施策②】スポーツを楽しむ子どもの育成

- ・計画訪問等の指導において、運動・スポーツに「する」「みる」「支える」「知る」と多様に関わることを促す体育（保健体育）科授業づくりや、保健分野との関連を図った指導等、各学校の授業改善を促す。
 - ・外部の専門的指導者に加え、地域人材等のゲストティーチャーや部活動指導員を活用し、体育（保健体育）科の授業改善及び運動・スポーツ活動の充実を図る。
 - ・休み時間等での外遊びや運動を引き続き奨励し、子どもが日常的に体を動かす楽しさを実感できるよう支援する。
 - ・新体力テストや全国の体力調査の結果を基に、本市の子どもの体力・運動習慣の状況を分析し、各学校の取組に生かす。
 - ・「富士市安全指導指針」や「体育（保健体育）科授業における安全管理・安全指導の留意点」に基づき、体育的行事や授業、プールの使用における安全管理を徹底し、安全に運動できる環境を整備する。
- ☆小学校1校で水泳授業の民間指導を試行し、その成果と課題を検証した上で、今後の水泳授業における民間委託の方向性を検討する。
- ・「富士市中学校部活動ガイドライン」を遵守し、適切な部活動運営を推進するとともに、部活動地域展開に係る取組を進め、生徒が興味関心に応じて多様な体験を得られる環境づくりを進める。
 - ・部活動指導員の効果的な活用を推進し、指導員の資質向上に向けた研修を校内外で継続的に実施する。
- ☆部活動地域連携・地域展開に向けたスポーツ活動の実証的モデル事業を実施する。

【指標に関する取組】

体育の授業づくりの支援と運動環境の整備

【指標】「運動やスポーツをすることが好きだ」に「好き」「やや好き」と回答した子どもの割合

小学校【R7実績/ R8目標】88.9%/ 95%

中学校【R7実績/ R8目標】82.9%/ 95%

【施策③】自ら命と体を守るための安全教育の充実

- ・歩行者及び自転車利用者として必要な知識と技能を習得し、道路や交通の状況に応じて、危険を予測、回避できる意識及び能力を高める。
- ・犯罪被害の原因や防止方法について理解し、地域の見守り体制の変化などを踏まえ、子どもが日常の中で直面する防犯上の課題に対して、適切な行動を自ら選択できるようにする。
- ・自然災害の危険性を理解し、南海トラフ地震や富士山噴火等の災害リスクに備えて、平常時からの準備や状況に応じた適切な判断を学び、自らの安全を確保する行動を身に付ける。
- ・周囲の人々と助け合うとともに、小学校高学年以上においては、防災活動やボランティア活動等に積極的に参加し、地域の安全を支える一員として貢献できる子どもの育成を図る。
- ・「危機管理マニュアル」の内容を教職員に周知徹底するとともに、必要に応じて見直しを行い、学校管理下における危機的状況に的確かつ迅速に対応できる体制を整える。
- ・熱中症ガイドラインに基づき予防を徹底するとともに、自己管理能力の育成を図る。

【指標に関する取組】

子どもの発達段階を考慮した段階的な防災教育や安全教育の推進

【指標】「緊急時に自分の命を守るために適切な判断と行動をとることができる」と回答した児童生徒の割合

小学校【R7実績/ R8目標】94.6%/ 100%

中学校【R7実績/ R8目標】90.5%/ 100%

〔施策の柱 4〕 頼もしい教職員の育成

教職員の年齢構成においてベテラン層と若手層の二極化が進行していることに加え、定年延長に伴う勤務体系の変化から、中堅教職員のマネジメント力をはじめとする資質向上を図ることが喫緊の課題となっています。

また、教員の教科指導力、学級経営力及び ICT 活用力などの向上を図るための時間を十分に確保する必要がある一方で、働き方改革を着実に推進していくという難しさも顕在化しています。

さらに、多様な課題への対応により、教職員の業務が多忙化・複雑化している現状から、心身の健康の保持・増進に一層配慮することが求められております。その中で、子どもの思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を備えた教員や、困難な課題に対して同僚と協働し、地域と連携して対応できる教職員の育成が急務です。

加えて、教育や学校を取り巻く環境が大きく変化する中、こうした変化に的確に対応した教育活動を展開できる教職員、さらには新たな学校像を主体的に探究し、学校組織を牽引する教職員の育成は、今後の学校教育を支える上で極めて重要となっています。

このような現状を踏まえ、教員の年齢構成の偏在に対応するため、中堅教員の資質向上及び若手教員の計画的育成を推進するとともに、「富士市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」に基づき、働き方改革を一層推進していきます。また、教職員が日常的に互いを支え合い、働きがいを感じながら気持ちよく働くことができる職場環境の整備に努めます。

併せて、「富士市子どもの権利条例」に基づき、人権を尊重した教育環境づくりに向けた研修を進めるとともに、GIGA タブレットをはじめとする ICT 機器の効果的な活用による授業改善を促し、教職員研修の充実を通して、教職員の資質・能力の向上を図ります。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】教職員の資質・能力の向上
・富士市子どもの権利条例に基づく、人権を尊重した教育環境づくりに向けた研修を推進する。 ・体罰・暴言・セクハラ等ハラスメントに関する調査を通して教職員一人一人が指導の在り方を振り返る機会を設けるとともに、昨今起きている教職員の不祥事について、自分事として考えるための不祥事根絶研修を定期的に行う。
【指標に関する取組】
<u>「教科等研修」「危機管理研修」「メンタルヘルス研修」等の研修の充実</u>
【指標】「安心して子どもを任せられる学校である」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した保護者の割合
小学校 【R7 実績/ R8 目標】 96.8%/ 100%
中学校 【R7 実績/ R8 目標】 93.6%/ 100%

【施策②】学び続ける機会の充実

- ・令和 8 年度富士市学校づくり指針（巻末資料）にある学び続ける教職員を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、特別支援教育への理解、学習の質を高める ICT 活用等に関する研修機会を充実させる。
- ・静岡県教員育成指標²⁷に即し、キャリアステージに応じた年代別研修や、経験の浅い任期付教職員に対する研修を実施、授業力や生徒指導力の向上、及び特別支援教育に対する一層の理解を図る。
- ・授業づくり、子ども理解と生徒指導、特別支援教育、情報教育、園小接続及び防災教育等、教職員のニーズに応じた「アフター 5 講座」の充実を図り、教職員の主体的な学びを支援する。

【指標に関する取組】

「夏季希望研修」や「年代別研修」、「任期付職員研修」、「アフター 5 講座」の充実

【指標】「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか」に「よくしている」と回答した学校の割合

小学校【R7 実績/ R8 目標】65.4%/ 100%

中学校【R7 実績/ R8 目標】73.3%/ 100%

【施策③】効果的な教育活動のための働き方改革の推進

- ・「富士市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」をもとに、教員の時間外在校等時間が、月 45 時間以下及び年間 360 時間以下となるように各学校で対策を講じるとともに、学校と行政が一体となって対応していく。
 - ・学校給食費の公会計化や学校徴収金の一括徴収制度を引き続き行う。
 - ・共同学校事務室の充実を図るとともに、事務職員の学校運営への参画を推進する。
- ☆各学校に録音機能付き電話を導入する。（令和 8 年 9 月～）
- ・ストレスチェックの結果をもとに、各学校で改善策を検討する。

【指標に関する取組】

業務改善プランの徹底

【指標】「業務改善が進められているか」に「充分進んでいる」「進んでいる」と回答した学校の割合

【R7 実績/ R8 目標】80.8%/ 95%



アフター 5 講座「授業づくり」



夏季希望研修会「生徒指導」

²⁷ 教員の大量退職や年齢の不均衡等の学校を取り巻く諸課題の会解決を図る方策として、平成 28 年 11 月に「教育公務員特例法の一部改正」がなされ、法的に「教員育成協議会の創設」「教員育成指標の整備」「教員研修計画の策定」が義務付けられた。これを受け、静岡県では、平成 29 年に「静岡県教員育成指標」及び「静岡県校長育成指標」が策定された。

〔施策の柱5〕 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校

市立高校は、スクールミッションとして CDI（「Community＝地域との協働、Dream：夢の実現、Inquiry：探究の精神」）を掲げ、自然と地域を愛し、本市や社会に貢献できる人材の輩出を目指しています。

これからの社会は、知識の獲得や活用といった認知能力と意欲、自信、忍耐、協調、共感といった非認知能力の両方が必要となり、特に、非認知能力の向上は高校までの体験や経験が深く関わってくると言われています。非認知能力と言われる能力には、「協働性」「やり抜く力」など、市立高校で育てたい6つの資質能力である「主体力」、「協働する力」、「チャレンジ力」、「実行力」、「傾聴力」、「論理的思考力」に通じる能力が挙げられます。

こうした非認知能力を育てる探究学習のほか、実践的な体験学習、個に応じたキャリア教育を通して、生徒一人一人が新しい時代を主体的に生き抜くために必要な力を育成します。

また、探究学習は、特定の時間や活動だけで行うのではなく、総合的な探究の時間のほか海外探究研修・学科別集中研修、各学科における授業、各部活動など教育活動全体で実践していきます。その中でも、特に、外部講師を招いた授業や社会とのつながりを意識して取り組みます。

2年生で実施する海外探究研修では、総合探究科はマレーシア、ビジネス探究科はシンガポール、スポーツ探究科は香港を研修地として、外国語でのコミュニケーションを通じた異文化の体験及び交流を行います。

生徒の夢実現への支援については、社会構造と子どもたちを取り巻く環境の変化を踏まえ、ウェルビーイングの視点（生徒一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ）を意識し、生徒が富士市で人生をよりよく生きるためにどうするかという視点からキャリア教育に取り組みます。

地域と連携した学校づくりにおいては、市立高校は、富士市設置の高校として、より一層市民に愛され市民に応援される学校を目指します。そのために、昨年度改修した人工芝グラウンドなど学校施設を活用した地域交流事業や地域と連携した教育活動を行うとともに、保護者や地域住民の声を反映した学校づくりに努めます。

また、教育における ICT の活用については、AI の活用のほか、ICT を学習ツールとして積極的に活用した教育活動を推進します。併せて、テスト自動採点支援システムにより、採点時間の大幅な短縮やテスト結果を効率的に成績に反映させるなど、教員の負担軽減及びテスト結果の一層の有効活用を図ります。

学校広報活動においては、学校ウェブサイトの更新、報道提供等に加えて、探究学習の内容を伝える中学生向け広報紙の発行等の活用により、中学校や地域に向けて本校の魅力を積極的に発信し、本校への進学を志望する中学生が増えるよう努めます。

また、ウェブ出願システムによる高等学校入学者選抜業務のデジタル化のほか、勤怠管理システムを導入し、教職員のワーク・ライフ・バランスを推進します。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】探究する精神と姿勢を育む教育活動の推進 ・全ての学年において課題解決学習「究タイム」に取り組み、探究的な力やチームで協働する姿勢を身に付ける。 ・各学科や教科の学習の中に、探究を意識した主体的・対話的で深い学びを実践する。 ・「市役所プラン」などの探究学習を通じて、社会課題解決に取り組む。 ・AI や ICT 機器を効果的に活用した授業を行う。 ・アジア地域を研修地として海外探究研修を実施する。
【指標に関する取組】 <u>「究タイム」及び探究を取り入れた授業の実践</u> 【指標】「探究学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う」と答えた生徒の割合 【R7 実績/ R8 目標】 91.0%/ 95%
【施策②】生徒の夢実現への支援と充実 ・広く社会で活躍されている方を講師に招きキャリア講演会を実施する。 ・1年生の職業人講話、2年生の大学・学部研究、3年次の進路個別指導など学年に応じたキャリア教育を行う。 ・全学科における英語資格・検定試験やビジネス探究科における全商検定など、資格取得を支援する。 ・課外補講や土曜学習などによる学習支援を行う。
【指標に関する取組】 <u>多様な進路希望に対応した細やかな進路支援</u> 【指標】自分の思い描いていた進路を実現できたと回答した生徒の割合 【R7 実績/ R8 目標】 93.7%/ 95%
【施策③】地域ネットワークを活用した教育活動及び学校運営の推進 ・2年生が地域の魅力と課題を見つけ出し、地域の方と高校生ができることを企画・提案する「市役所プラン」を行う。 ・ビジネス探究科では、授業において地域資源を活用した新しいビジネスを提案したり、3年生の夏にサマーインターンシップや課題研究において、市内事業所と連携した学習・キャリア教育を行う。 ・保護者や地域住民の声を反映した学校づくりをするために、学校運営協議会を開催する。 ・「人工芝で遊ぼう」「多世代交流サッカー」など学校施設を活用した地域交流事業を行う。 ・聴覚に障害のある子どもたちがスポーツに親しむ機会を提供するために、「Def（聴覚障がい者）キッズサッカー教室」を支援する。
【指標に関する取組】 <u>地域社会や大学、行政、企業等と連携した教育活動の推進</u> 【指標】地域社会や大学、行政、企業等と連携して実施した授業や学校行事数 【R7 実績/ R8 目標】 27 件/ 30 件
その他の事業
・教職員の資質・能力向上を目的とした授業力向上研修の実施や先進校の視察
☆勤怠管理システムを導入し、教職員のワーク・ライフ・バランスを推進する。
☆「富士市立高等学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」をもとに、時間外在校等時間が、月 45 時間以下及び年間 360 時間以下となるよう対策を講じる。
☆ウェブ出願システムにより高等学校入学者選抜を実施する。

（３）方針３ 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

〔施策の柱１〕 人生 100 年時代を豊かに生きる学びの推進

本年度も、人生 100 年時代を豊かに過ごすために、生涯を通した学びの場、市民が主体的に行動する学びの場を整備していきます。

近年、少子高齢化や人口減少等により社会の構造変化が起きる中、地域社会の課題も多様化していることから、市民が地域に関心を持つきっかけとなる機会の創出を目指して、地域に関する学習や地域の人材と協働した講座を行っていきます。

生涯を通した学びの場の充実を実現する取組として、趣味を通じた新しい仲間との出会いや、教養を深める場所を提供することなどを目的に、様々な実施主体による多様な分野のまちづくりセンター講座を実施するとともに、豊かな人づくりを目指し、より高度で専門的な知識を学ぶ機会を提供するため、富士市民大学を開催します。

また、家庭教育力の向上を目指し、家庭教育支援員等の地域人材のネットワーク化を進める取組を継続します。

「放課後子ども教室×少年教育講座²⁸」等を引き続き実施していくとともに、更なる少年教育の充実を図るために、新たに小学校 1 年生から 3 年生までを対象とした少年教育講座を実施します。

さらに、地域全体で子どもを育む環境づくりを進めるため、学校と地域の連携・協働に向けた取組を支援するとともに、地域学校協働活動²⁹の在り方について検討を進めます。

このほか、青少年の体験格差を是正するため、様々な体験事業を企画・実施し、地域社会や民間事業者など多様な団体と連携しながら、青少年の体験活動や交流の場を提供するとともに、青少年団体の活動を支援していきます。

青少年体験交流事業については、引き続き「無限∞のキズナ」を、長野県伊那市を中心に実施します。「無限∞のキズナ」では、『キズナ学習』などの「仲間づくりプログラム」として、「最高のチームを作ろう」の目標達成に向けて、仲間と困難を共に乗り越えることを体験し、コミュニケーション力や課題解決力を身に付けるとともに、自ら物事を体験することの大切さを体感することで、何事にも積極的に取り組む青少年を育成することを目指していきます。

また、「地域交流プログラム」、「自然体験プログラム」では、長野県ならではの自然、郷土体験活動を通し、地元の方々の地域を盛り上げようとする熱い想いに触れることで、自分の生まれ育った故郷への郷土愛を育むきっかけづくりとなるように、現地の方々と協働で事業を構築していきます。

このほか、青少年健全育成事業等にリーダーとして参画できる人材を育成することを目的に、青少年育成ボランティア養成講座を実施します。

そして、20 歳を迎える方々を対象に、「富士市はたちの記念式典」を人生の節目を祝う機会として引き続き実施します。また、18 歳の新成人に対しては、祝意メッセージとともに富士のほうじ茶一煎パックを送り、成人の門出を祝います。

また、青少年の健全育成に向け、非行防止のための補導活動を行うなど、青少年を取り巻く

²⁸ 放課後の子どもの居場所づくりと体験学習を目的として、小学生を対象にまちづくりセンター等を会場に実施する講座

²⁹ 地域住民、学生、保護者、NPO、民間企業、団体、機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

環境をよりよいものにしていきます。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】生涯を通した学びの場の充実 - 各地区まちづくりセンターを会場に、新しい趣味の発見や仲間づくり、教養を深める身近な場を提供することを目的として、乳幼児から高齢者まで幅広い世代の方々を対象に多様な分野の講座を開催する。 - 自ら学んだことを還元する意欲のある市民を応援し、民間団体の活性化を図るとともに、市民のニーズに応える魅力的な講座を提供するため、市民や民間団体が主体となって開催する「市民プロデュース講座³⁰」や「オープン自主グループ講座³¹」、「みんカル講座³²」を実施する。 - 豊かな人づくりを目指し、より高度で専門的な知識を学ぶため、各専門分野に精通している教授や著名な講師等を招き、富士市民大学³³を開催する。
【指標に関する取組】 <u>新しい趣味や仲間づくりを目的としたまちづくりセンター講座の実施</u> 【指標】 講座を受けたことによって、学ぶ意欲が高まったと回答した参加者の割合 【R7実績/ R8目標】 93.6%/ 100%
【施策②】地域ぐるみの社会教育の推進 - まちづくりセンター講座等において、地域の資源や魅力を知る学習や地域の人材を活用した学習、地域活性化に資する学習等を目的とした「人づくり講座」を継続して実施する。 「放課後子ども教室×少年教育講座」を引き続き実施する。 ☆地域の未来を担う人材育成のための少年教育講座について、新たにを小学校1年生から3年生までを対象とした講座を実施する。 - 家庭教育力の向上を目指し、家庭教育支援員³⁴など、地域で活躍する人材のネットワーク化を進めるため、家庭教育支援員等への学習機会の提供や交流の場づくりを継続して行う。 - 小中学校入学前の保護者を対象とした子育て講演会を継続して実施するとともに、未就園児とその保護者を対象とした家庭教育講座を実施する。 - 地域全体で子どもを育む環境づくりを進めるため、学校と地域の連携・協働に向けた取組を支援するとともに、地域学校協働活動の在り方についての検討を行う。
【指標に関する取組】 <u>人づくり講座の実施</u> 【指標】 講座を受けたことによって、富士市・地域の魅力や課題を知ることができたと回答した参加者の割合 【R7実績/ R8目標】 91.0%/ 100%

³⁰ 市内で活動している団体や市民が企画・運営する講座。市民主体の地域づくりや地域の担い手づくりを推進することを目指している。

³¹ 同じ趣味や興味・関心を持つ仲間が集まり、まちづくりセンターで活動している自主グループが開催する初心者向け体験講座。

³² 趣味教養・仲間づくりを目的とする講座のうち、市内で活動している民間団体が企画・運営する講座。民間団体が得意とする分野の講座を、まちづくりセンターで展開し、地域に根付いた魅力的な講座を目指す。

³³ 前期ミニカレッジは各専門分野の教授や有識者等と連携して開催、後期講演会は各分野で活躍する著名な講師による講演会を開催している。

³⁴ 静岡県家庭教育支援員養成研修で、家庭教育支援の知識とスキルを学んだ人。行政や学校と協力して、保護者会、懇談会、家庭教育講座等の保護者が集まる場で、子育てについての悩みや不安を話し合う会等の進行や、情報提供を行うなど、保護者の学びの支援を行う。

【施策③】新たな時代を生き抜く次世代の育成

- ・ 青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」を、長野県伊那市などを舞台に実施し、次世代リーダーの育成等を行う。
- ・ 岩手県雫石町との少年交流事業を雫石町で実施し、地元の特色を学習しながら相互交流と集団生活を通じて、他人への思いやりの心を養う。
- ・ 青年の主体的な社会参加を促すため、青年教養講座を実施するとともに、受講生同士の交流の場を企画し、仲間づくりと社会貢献活動に参加するきっかけを提供する。
- ・ 青少年の非行防止のため、声掛けをはじめとする補導活動や環境浄化活動を推進する。

【指標に関する取組】

青少年体験交流事業の実施

【指標】青少年体験交流事業参加者の満足度（雫石市少年交流事業、青少年体験交流事業の満足度）

【R7実績/ R8目標】100%/ 100%

その他の事業

- ・ 市政いきいき講座
- ・ 青少年育成団体への活動支援
- ・ 「富士市はたちの記念式典」の実施
- ・ 青少年育成ボランティア養成講座の実施
- ・ はぐくむF U J I 出会い応援事業「ふじさん×ナチュラブ」の実施



まちづくりセンター講座
「中部教養講座～寿よしわら塾～」



放課後子ども教室×少年教育講座
「お茶と草笛の世界へ」



無限∞のキズナ
「食文化体験」



富士市・雫石町少年交流事業
「宝永火口トレッキング」

〔施策の柱２〕 市民の学びの場である図書館の充実

図書館は、生涯にわたる学びと読書習慣を支える拠点として、市民のニーズに応じた多種多様な資料を提供します。ICT を活用した多様な読書形態を提供することで、誰もが読書に親しめる環境の充実を図っていきます。

乳幼児期から本に親しみ、読書を楽しむ経験は、生涯の読書習慣につながることから、継続的な保護者への働きかけにより、子どもと保護者が絵本に触れる機会を充実させます。

また、「市民の居場所」として利用しやすい施設とするため、環境整備を進めるとともに、託児サービスを継続し、子育て中の保護者の読書活動を支援します。

読書や本に関する講演会・講座の開催により市民の学びの機会を提供するとともに、市制 60 周年に合わせた企画展を開催して郷土への関心を深める場を設けます。

本・人・地域をつなぐ人材育成の取組として、ボランティアを対象にした講習会や情報提供を行い、活動の充実を図ります。

令和 4 年に策定した「第三次富士市子ども読書活動推進計画」が計画期間の中間年に当たることから、令和 7 年度に実施したアンケート結果を踏まえて進捗状況を検証するとともに、必要に応じて施策の見直しを行います。

急速なデジタル化の進展や少子高齢化などの社会情勢の変化、施設の老朽化などの新たな課題に対応するため、これからの図書館のあり方について検討を進めます。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】生涯にわたる読書習慣の推進 - 多様な資料を収集・整理・保存し、提供するとともに、調査研究や学習を支援する。また、音訳・点訳資料や大活字本、オーディオブック³⁵などの充実を図る。 「ふじ電子図書館」の利用については、市内小中学校等の GIGA タブレット端末による活用を引き続き促進するとともに、一般利用者の利用拡大に向けてコンテンツの充実を図る。 - 読み聞かせの重要性を保護者に伝えるため、「プレママ・プレパパ読み聞かせ講座」「ブックスタートふじ」「セカンドブックふじ」を実施する。 ☆子どもが絵本に親しむ機会を広げるため、移動図書館が巡回した際におはなし会を実施する。また、保育幼稚園課と連携したおはなし会を開催し、参加した保護者が保育相談もできる機会を設ける。 - にぎわい図書館デーの実施や中高生向け学習室の開放を行い、誰もが利用しやすい環境を整える。 ☆西図書館に公衆無線 LAN を整備する。
【指標に関する取組】 <u>市民の読書活動の推進</u> 【指標】一人当たりの図書貸出数 【R7 実績/ R8 目標】6.6 点/ 8.2 点

³⁵ ナレーター、声優等が本を朗読する、耳で聴いて楽しむ読書。パソコンやスマートフォンで図書館のウェブサイトアクセスし利用できる。

【施策②】本・人・地域をつなぐ人材育成	
- 郷土資料の研究や読書会などを行う読書関連団体に対し、資料や会場の提供を通して生涯学習を支援する。 - ボランティアの学びや活動を支えるため、読み聞かせや点訳・音訳に関する講座や勉強会を開催する。 「本はともだち子どもまつり」「図書館まつり」等のイベントでボランティアの協力を得るとともに、活動を紹介し、市民への理解と周知を図り、新たな人材の発掘と担い手の養成に努める。	
【指標に関する取組】	
ボランティア養成講座の開催	
【指標】ボランティア養成講座の参加者数（累計）	
【R7実績/ R8目標】1,750人/ 1,800人	
その他の事業	
- 高齢者施設や幼稚園などへの団体配本の実施 - 一般文学講演会、ビジネス支援講演会、古文書講座など生涯学習を促進する講座の開催 「本はともだち子どもまつり」「ビブリオバトル」など利用推進のためのイベントの開催 - 市制60周年を記念した企画展の開催 「富士市立図書館協議会」「富士市子ども読書活動推進協議会」の開催	



ビジネス支援講演会
「広報・集客に活かす SNS 活用の基本と考え方」



読み聞かせボランティア・デビュー講座

〔施策の柱3〕 ころ豊かな市民文化の創造

文化財については、将来にわたり地域社会全体で適切に保存し、活用していくため、「富士市文化財保存活用地域計画」を周知し、計画の理念を地域住民と共有することで、文化財を未来に確実に継承する意識の醸成を図っていきます。

また、令和7年度に策定した「国指定史跡浅間古墳保存活用計画」に則り、5か年計画での発掘調査に着手し、史跡として保護すべき範囲を明確にするとともに、古墳の遺存状況を把握し、保護の方策を検討する資料を取得していきます。なお、国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」については、令和9年度の移築復原工事に向けて、解体調査及び解体工事を行います。

整備が完了した市指定史跡「千人塚古墳」については、（一社）須津地区まちづくり協議会の協力を得て、地域とともに適切な維持管理・活用を図っていきます。

その他、「しずおか遺産」に認定されたストーリー「駿河湾のめぐみと行き交う船」を構成する歴史・文化財の啓発事業や、源頼朝や曾我兄弟の歴史・伝承にちなんだ史跡活用イベントの継続的な実施、AR³⁶を活用した文化財の紹介事業や市民歴史講座等を開催します。さらに、重要文化財「古谿荘」については、引き続き国・県とともに建物修理に係る助成を行います。

博物館業務については、本市及び本市近隣市町の歴史・文化に係る調査研究を行い、企画展や展示会、体験講座等を開催するほか、小中学校等への見学対応や出張授業、まちづくりセンターや地域包括支援センター等への出前講座を実施します。なかでも、小中学校の教室と博物館の展示室をつなぐオンライン授業に力を入れ、人生の早い時期に博物館を知る機会を提供し、豊かな心を育みます。

また、本年度は、市制60周年に当たるとともに、本館のリニューアルオープン10周年の記念の年でもあることから、館名にもある「富士山」と「かぐや姫」をテーマとした展覧会を開催します。



千人塚古墳整備工事体験
ワークショップ

³⁶ Augmented Reality（拡張現実）。現実世界の映像や風景に、文字・画像・3Dモデルなどのデジタル情報を重ね合わせて表示する技術を指す。スマートフォン、タブレット、ARグラスなどを通して利用される技術である。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】芸術文化の振興 ☆市民部文化スポーツ課の協力のもと、部活動地域連携・地域展開に向けた文化芸術活動の実証的モデル事業を実施する。 （その他の事業については、市民部文化スポーツ課が執行する。）
【施策②】文化財の保存と活用 ☆国指定史跡「浅間古墳」の発掘調査を実施する（令和８年度から１２年度までの５か年計画）。 ☆国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」の移築復原に向けた解体調査・解体工事を実施する。 ☆市指定史跡「千人塚古墳」の維持管理・活用を地域と協力して行う。 ☆「しずおか遺産」に認定されたストーリー「駿河湾のめぐみと行き交う船」を構成する歴史・文化財の啓発事業を実施する。 ☆ＡＲを活用した文化財の紹介事業を行う。 ・頼朝や曾我兄弟の歴史・伝承にちなんだ史跡活用イベント（ワークショップ、講演会）の実施、オリジナルキャラクターの利活用を推進する。 ・旧富士製紙レンガ建物記録保存調査を実施する。 ・富士市文化財保存活用地域計画の周知・啓発を行う。 ・無形民俗文化財継承支援として、大北のカワカンジー³⁷の制作作業、調査・記録等を行う。 ・天然記念物等の維持管理用の基礎データをまとめるための樹勢調査を行う。 ・重要文化財「古谿荘」修復に係る助成等を行う。 ・市民歴史講座等、歴史・文化に関する普及啓発を行う。
【指標に関する取組】 <u>文化財に関する講座、イベント等による文化財の保存・活用の促進</u> 【指標】文化財普及活動に参加した人数 【R7実績/ R8目標】12,011人/ 12,100人³⁸

³⁷ 毎年８月１５日に行われる盆の川供養行事で、松野地区の大北町区大北の集落に伝承されている。麦わらで直径２ｍ程の輪を作り、そこに松明を立てて、火をつけて富士川に流して水難者の鎮魂を祈る。大北ではこの製作物および行事名を「カワカンジー」（川勧請）と呼ぶ。同様の行事は富士川流域各地で見られたが、現在は大北が数少ない貴重な伝承地となっている。

³⁸ 本年度からは、すべての文化財普及活動について参加者数を記載している。これに対し、昨年度までは市民歴史講座、千人塚古墳公開記念イベント、頼朝と曾我兄弟史跡活用イベント（デジタルスタンプラリー、出張展示でのギャラリートーク）など、主要なイベントのみを集計していた。なお、昨年度と同じ基準で算定すると参加者数は８９７人である。

【施策③】 学びの場である博物館の充実	
☆市制 60 周年&リニューアル 10 周年記念展「富士山へ帰るかぐや姫」を開催する。 ☆市指定文化財樋代官植松家住宅長屋門の茅葺き屋根全面修繕を実施する。 ☆県指定文化財旧稲垣家住宅の戸袋他の修繕及び防蟻・防腐処理を実施する。	
・文化財建造物等の保守管理を行う。 ・各種体験講座及び出前講座を開催する。 ・ウェブサイトの充実・博物館収蔵品データベースの整備を行う。	
【指標に関する取組】	
<u>小中学校や高齢者団体による博物館資料を活用した学習支援事業の利用促進</u>	
【指標】 博物館資料を活用した学習支援の件数	
【R7 実績/ R8 目標】 63 件/ 70 件	
その他の事業	
・博物館収蔵資料の調査整理作業（六所家旧蔵資料、山崎家文書ほか） ・富士山及び富士山南麓かぐや姫伝説に係る資料の調査収集	



オンライン授業の様子(松野学園)



オンライン授業の様子(展示室 1)

Ⅱ 教育委員会と事務局概要

1 教育長・教育委員



教 育 長
太 田 桂



教育長職務代理者
和 久 田 恵 子



委 員
松 田 靖 子



委 員
塩 谷 知 一



委 員
保 科 悦 久

職	氏 名	就任年月日
教 育 長	太 田 桂	令和 6 年 12 月 24 日
教育長職務代理者	和久田 恵子	平成 26 年 12 月 25 日
委 員	松 田 靖 子	平成 30 年 12 月 25 日
委 員	塩 谷 知 一	令和 元年 10 月 4 日
委 員	保 科 悦 久	令和 5 年 12 月 25 日

(任期 教育長 3 年 教育委員 4 年)

2 歴代教育委員等

歴代教育委員

氏 名	就任年月日	退任年月日
渡辺 巖	S41. 11. 1	S46. 2. 23
米山 益郎	S41. 11. 1	S45. 12. 20
吉田 甫	S41. 11. 1	S47. 12. 23
山崎 隆	S41. 11. 1	S41. 12. 20
山本 英彦	S41. 11. 1	S41. 12. 20
遠藤 栄	S41. 12. 21	S45. 12. 20
石川 軍治	S41. 12. 21	S44. 12. 20
杉浦 秀俊	S45. 12. 25	S49. 12. 24
篠原 博	S45. 10. 6	S57. 10. 6
伊藤 周三	S45. 12. 25	S49. 12. 24
時田 忠蔵	S46. 6. 23	S54. 3. 31
鈴木 孝	S47. 12. 25	S49. 10. 3
土屋 重義	S49. 12. 25	S53. 12. 24
望月きくゑ	S49. 12. 25	S53. 12. 24
青木 武雄	S49. 12. 25	S55. 12. 24
川村 雅俊	S53. 12. 25	H 2. 12. 24
山崎 光男	S53. 12. 25	S61. 12. 24
小川 清	S54. 4. 1	S62. 12. 23
河野 勝義	S57. 12. 25	H 2. 12. 24
瀧 榮三郎	S55. 12. 25	H 4. 12. 24
里和 治	S61. 12. 25	H10. 12. 24
山本 厚	S62. 12. 24	H 7. 12. 23
河野 光男	H 2. 12. 25	H14. 12. 24
田邊 恵造	H 2. 12. 25	H14. 12. 24
伊藤 匡穎	H 4. 12. 25	H20. 12. 24
太田 均	H 7. 12. 24	H14. 3. 31
在原 渥子	H10. 12. 25	H14. 12. 24
平岡 彦三	H14. 4. 1	H23. 12. 23
長岡 路子	H14. 12. 25	H26. 12. 24
土屋 厚子	H14. 12. 25	H19. 12. 19
佐野 武男	H14. 12. 25	H26. 12. 24
吉川 智子	H19. 12. 20	H30. 12. 24
加藤 馨一	H20. 12. 25	H28. 12. 24
山田 幸男	H23. 12. 24	H30. 12. 23
毛涯 晋	H26. 12. 25	R 1. 7. 11

氏 名	就任年月日	退任年月日
篠原 均	H28. 12. 25	R 5. 12. 24
和久田 恵子	H26. 12. 25	(R11. 12. 24)
松田 靖子	H30. 12. 25	(R 8. 12. 24)
塩谷 知一	R 1. 10. 4	(R 9. 12. 24)
保科 悦久	R 5. 12. 25	(R10. 12. 24)

歴代教育長

氏 名	就任年月日	退任年月日
渡辺 巖	S41. 11. 1	S46. 2. 23
時田 忠蔵	S46. 6. 23	S54. 3. 31
小川 清	S54. 4. 2	S62. 12. 23
山本 厚	S62. 12. 24	H 7. 12. 23
太田 均	H 7. 12. 24	H14. 3. 31
平岡 彦三	H14. 4. 1	H23. 12. 23
山田 幸男	H23. 12. 24	H30. 12. 23
森田 嘉幸	H30. 12. 24	R 6. 12. 23
太田 桂	R 6. 12. 24	(R 9. 12. 23)

歴代教育委員長

氏 名	就任年月日	退任年月日
篠原 博	S48. 1. 12	S57. 10. 6
山崎 光男	S58. 1. 25	S61. 1. 24
川村 雅俊	S61. 1. 25	S61. 12. 24
川村 雅俊	S62. 1. 8	S62. 12. 24
瀧 榮三郎	S62. 12. 25	H 1. 12. 24
川村 雅俊	H 1. 12. 25	H 2. 12. 24
瀧 榮三郎	H 2. 12. 25	H 4. 12. 24
里和 治	H 4. 12. 25	H 6. 12. 24
田邊 恵造	H 6. 12. 25	H 8. 12. 24
河野 光男	H 8. 12. 25	H10. 12. 24
伊藤 匡穎	H10. 12. 25	H12. 12. 24
田邊 恵造	H12. 12. 25	H14. 12. 24
伊藤 匡穎	H14. 12. 25	H18. 12. 24
長岡 路子	H18. 12. 25	H20. 12. 24
佐野 武男	H20. 12. 25	H26. 12. 24
吉川 智子	H26. 12. 25	H27. 12. 23

() 内は現任期における退任年月日

3 令和7年度教育委員会会議及び教育委員研修実績

(1) 教育委員会会議議案

実施日等	会 議 内 容
4月22日 (火) 市庁舎6階 第3会議室 傍聴者1人	(議 案) 議第12号 令和7年度教育行政の方針と施策について 議第13号 富士市文化財保護審議会委員の委嘱について
5月20日 (火) 市庁舎6階 第3会議室 傍聴者なし	(議 案) 議第14号 令和7年度教育委員会所管6月補正予算について 議第15号 富士市立中学校部活動地域移行協議会委員の委嘱又は任命について 議第16号 富士市立小中学校学校運営協議会委員の委嘱又は任命について 議第17号 富士市社会教育委員補欠委員の委嘱について 議第18号 国指定史跡浅間古墳保存活用計画の策定について 議第19号 富士市図書館協議会委員の委嘱又は任命について 議第20号 富士市立高等学校学校運営協議会委員の委嘱又は任命について 議第21号 富士市立高等学校学術顧問の委嘱について 議第22号 富士市青少年相談センター運営協議会委員の委嘱又は任命について 議第23号 富士市立博物館協議会委員の委嘱又は任命について (報 告) 報第4号 令和6年度富士市教育長表彰受賞者の追加決定について 報第5号 令和6年度教育施策の自己点検・評価について
6月18日 (水) 須津小学校3階 音楽室 傍聴者4人	(議 案) 議第24号 富士市立富士南中学校学校運営協議会委員の委嘱について 議第25号 富士市史跡保存整備推進委員会委員の委嘱又は任命について 議第26号 富士市文化財保存活用地域計画推進協議会委員の委嘱について 議第27号 富士市子ども読書活動推進協議会委員の委嘱又は任命について 議第28号 富士市教育文化スポーツ奨励賞選考委員会委員の委嘱又は任命について 議第29号 富士市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について (報 告) 報第6号 富士市公立学校教職員の表彰について
7月22日 (火) 市消防防災庁舎3階 研修室 傍聴者1人	(議 案) 議第30号 富士市立高等学校教科用図書の採択について 議第31号 富士市子ども読書活動推進協議会委員の委嘱について 議第32号 富士市指定有形文化財の指定について 議第33号 富士市立吉永第二小学校学校運営協議会委員の委嘱について
8月20日 (水) 市庁舎6階 第1・2会議室 傍聴者なし	(議 案) 議第34号 令和7年度教育委員会所管9月補正予算について 議第35号 令和6年度富士市教育委員会の自己点検・評価について 議第36号 富士市教育文化スポーツ奨励賞受賞者の決定について (報告) 報第7号 令和6年度富士市教育長表彰受賞者の追加決定について
9月19日 (金) 市庁舎6階 第3会議室 傍聴者なし	(議 案) 議第37号 令和8年度富士市立高等学校入学者選抜実施要領の制定について

実施日等	会 議 内 容
10 月 21 日 (火) 中央図書館2階 視聴覚室 傍聴者なし	(議 案) 議第 38 号 令和 7 年度教育委員会所管 11 月補正予算について 議第 39 号 富士市附属機関設置条例の一部改正について 議第 40 号 富士市立小中学校適正規模等基本方針策定委員会規則の一部改正について 議第 41 号 富士市立高等学校教育職員の給与等の特別措置に関する条例の一部改正について 議第 42 号 富士市立高等学校授業料等に関する条例の一部改正について 議第 43 号 富士市立高等学校学則の一部改正について 議第 44 号 富士市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について 議第 45 号 富士市立博物館条例施行規則の一部改正について
11 月 21 日 (金) 市消防防災庁舎3階 研修室 傍聴者 1 人	(報 告) 報第 8 号 富士市部活動地域連携・地域移行（地域展開）推進に関する基本方針策定に伴うパブリック・コメントの実施について 報第 9 号 令和 7 年度富士市教育長表彰受賞者の決定について 報第10号 令和 8 年度富士市立高等学校入学者選抜募集定員について
12 月 19 日 (金) 教育プラザ1階 大会議室 傍聴者 1 人	(議 案) 議第 46 号 令和 8 年度教育委員会所管当初予算について 議第 47 号 令和 8 年度県費負担教職員の人事異動方針について (報 告) 報第 11 号 令和 8 年富士市はたちの記念式典等の実施について 報第 12 号 富士市教育委員会委員の就任について
1 月 20 日 (火) 市庁舎 6 階 第 3 会議室 傍聴者 1 人	(議 案) 議第 1 号 令和 7 年度教育委員会所管 2 月補正予算について 議第 2 号 富士市附属機関設置条例の一部改正について 議第 3 号 富士市立中学校部活動地域移行協議会規則の一部改正について 議第 4 号 富士市立高等学校の在り方審議会規則の制定について 議第 5 号 富士市立小中学校再編計画等策定委員会委員の委嘱又は任命について 議第 6 号 富士市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について 議第 7 号 富士市育英奨学条例の一部改正について 議第 8 号 富士市立高等学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について
2 月 20 日 (金) 市庁舎 6 階 第 3 会議室 傍聴者なし	(議 案) 議第 9 号 富士市立高等学校教育職員の義務教育等教員特別手当に関する規則の一部改正について 議第 10 号 富士市立高等学校教育職員の義務教育等教員特別手当に関する規則の一部改正について 議第 11 号 令和 8 年度県費負担教職員の人事異動の内申について (報 告) 報第 1 号 令和 8 年度教育委員会所管当初予算額の内示について
3 月 24 日 (火) 市庁舎 6 階 第 3 会議室 傍聴者なし	(議 案) 議第 12 号 富士市教育委員会事務局処務規則の一部改正について 議第 13 号 富士市教育委員会職員の職名に関する規則等の一部改正について 議第 14 号 富士市立小中学校教育職員の業務量の管理等に関する規則の一部改正について 議第 15 号 富士市立高等学校教育職員の給与等の特別措置に関する条例施行規則の一部改正について 議第 16 号 富士市教育委員会情報公開・個人情報保護調整委員会規程の一部改正について 議第 17 号 富士市子ども・若者海外留学支援補助金交付要綱の制定について 議第 18 号 富士市部活動地域連携・地域展開推進に関する基本方針の策定について 議第 19 号 富士市地域クラブ活動指導者資格取得支援補助金交付要領の制定について

(2) 教育委員研修会

日 時	会 場	研 修 内 容
6 月 18 日 (水)	須津小学校 3 階 音楽室	授業参観 地域の方と語る会（地域の方 7 名 教職員 3 名） テーマ「須津にある「もの」「人」「こと」を活用した地域と学校の連携について」
10 月 21 日 (火)	中央図書館 2 階 視聴覚室	講演：「探究的な学びについて 深い学びの観点から」 講師：桐蔭横浜大学 学長 森 朋子 氏
10 月 27 日 (月)	富士第二小学校 3 階 会議室	授業参観・施設視察 市長・副市長と教育長・教育委員と教職員と語る会（教職員 8 名） テーマ「校内教育支援センター（ほっとルーム）の現状について」
12 月 19 日 (金)	富士市教育プラザ 会議室	概要説明・施設視察 ・ステップスクール・ふじ、ココ☆カラ、特別支援教育センター（通級）、教育研修センターについて概要説明・質疑応答
3 月 24 日 (火)	市庁舎 6 階 第 3 会議室	第 1 回 市長・副市長と教育長・教育委員による意見交換会

(3) 総合教育会議

日 時	会 場	研 修 内 容
7 月 22 日 (火) 傍聴者 2 人	消防防災庁舎 3 階 研修室	第 1 回 議第 1 号 「教職員の働き方改革について」 議第 2 号 「校内教育支援センター（ほっとルーム）の現状と課題について」
2 月 20 日 (金) 傍聴者 3 人	市庁舎 6 階 第 3 会議室	第 2 回 議第 3 号 「教育振興基本計画の策定について」 議第 4 号 「部活動地域連携・地域展開について」 報第 1 号 「教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について」

4 教育委員会の自己点検・評価

日 時	会 場	会 議 内 容
令和 7 年 5 月 28 日（水）	市庁舎 6 階 第 1・2 会議室	・自己点検・評価について（教育委員会による説明）
令和 7 年 6 月 4 日（水）	消防防災庁舎 3 階 研修室	・自己点検・評価について（質疑応答） ・検討委員意見集約 ・総合評価

平成 20 年に改正施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し、報告書の議会提出、公表が義務付けられている。平成 19 年度の事業評価から、19 回目の実施となった。

会長の進行により、「大項目 1 教育委員会の活動」「大項目 2 教育委員会が管理・執行する事務」「大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について事務局が事業及び自己点検・評価の説明を行い、外部評価委員からの質疑に回答した。委員の意見を集約した後に、会長から口頭で総合評価を受けた。内容は以下のとおりである。



外部評価検討会の様子

【評価できる点】

- 自己肯定感を高める活動が着実に実施されており、一定の成果が明確に示されている点である。
これらの取組は、教育振興基本計画が目指すウェルビーイングの実現にもつながっていると考えられる。また、毎年継続してぶれることなく取り組まれていることも高く評価できる。
- 市長部局との密接な連携が図られている点である。
特に、総合教育会議や市長・副市長との情報交換会においては、質の高い議論が交わされており、その内容も充実している。令和 7 年度には、新たな試みとして、市長・副市長とともに学校を訪問する計画があると伺った。学校現場とともに視察することで、現状や課題を直接把握し、その上で総合教育会議等において課題の協議を行い、政策立案へとつなげていく流れは、大変意義深いものである。
一方で、教育委員会は行政委員会として、市長部局とは一線を画す独立性にも価値がある。今後も良好な緊張関係を保ちながら、より密接な連携を図っていくことを期待したい。
- 子どもたちや大人の「社会の居場所」の拡充が図られている点である。
具体的には、中央図書館の会議室を開放した取組が挙げられる。図書館は「静かに利用する場所」とされてきた従来の常識を見直し、居場所の少なさという社会的課題に対して柔軟に対応する動きが広がったことは、高く評価できる。この取組は、今後の社会教育の在り方を示す重要な一歩でもあった。
今後も引き続き、市長部局と連携しながら、富士市全体における「居場所」のさらなる拡大に取り組んでいただきたい。

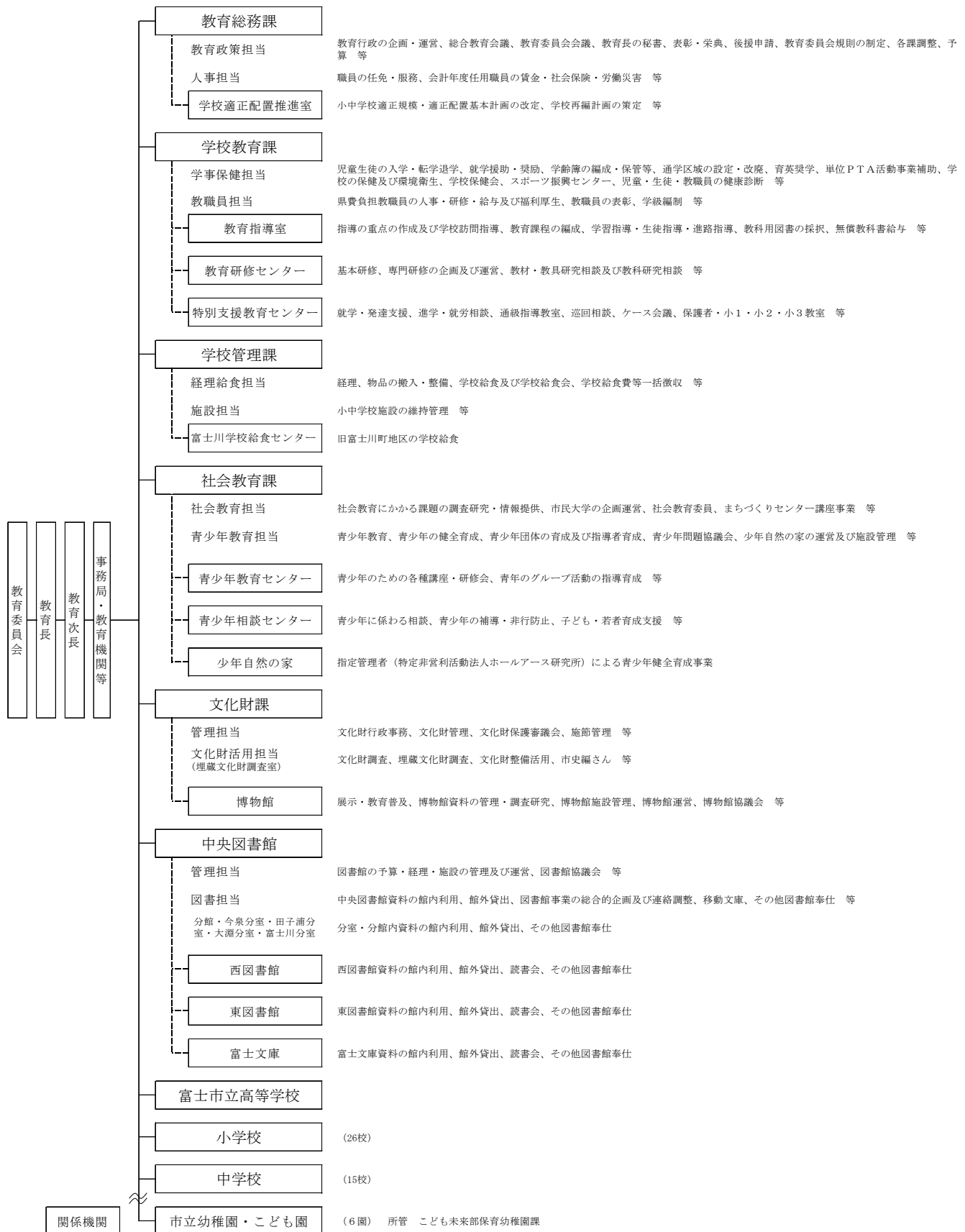
【今後の課題としたい点】

- 学びの連続性を実現するための、さらなる支援の在り方について、引き続き検討いただきたいという点である。
園小接続ではスタートカリキュラム等の成果が広がっている一方、小中一貫教育では目的の理解不足や慣習の固定化から、教員の負担感が残っている。今後は、目的やねらいの共有を進め、価値観の転換と行動変容につながる具体的な支援策の検討をお願いしたい。
- 教育委員会事務局における指導体制の更なる強化という点である。
指導主事については、研修機会が拡充されているが、政策の背景や目的の理解、教育用語の把握、現場への伝え方といった資質がさらに高まることで、施策の実践や学校現場の変容につながると考える。そのためにも、継続的な育成体制の充実を期待したい。また、園小接続で成果を上げたように、他部局との連携が広がる中で、立場の違いを超えて協働するための進め方についても、引き続き検討をお願いしたい。
- 教員の「働きがい改革」を社会全体でさらに推進していただきたいという点である。
令和 8 年度から勤務時間管理や学校運営協議会での勤務環境の協議が求められるが、業務削減の一方で働きがい損なわれないよう配慮が必要である。「頼もしい教職員」の育成につなげるためにも、市長部局や地域と連携し、教員が誇りとやりがいを持って働ける環境づくりを進めていただきたい。

外部評価検討会後、7 月に外部評価委員の知見を取りまとめた意見書をいただき、教育委員会会議 8 月定例会での審議を経て、報告書を発行した。この報告書は、富士市議会 9 月定例会に合わせて提出するとともに、広く市民にも周知するため、富士市ウェブサイトに掲載した。

5 教育委員会行政組織機構

(1) 事務局等概要



(2) 教育委員会職員数

令和8年4月1日現在

職 名 課 等		部長等	課長等	統括等	主幹等	主事等	栄養士	指導 主事	教員	調理員	会計年度 任用職員	計
事務局	教育次長	1										1
	教育総務課		1	2	2	2		3			1	1 1
	学校適正配置推進室			1	1			1				3
	学校教育課		1	1	1	2		4			1	1 0
	教育指導室		1	1	1			6			4 8	5 7
	学校管理課		1	2	3	5	1				3	1 5
	社会教育課		1	2	2	1 2					7	2 4
	文化財課		1	1	3	3					1 0	1 8
	小 計	1	6	1 0	1 3	2 4	1	1 4	0	0	7 0	1 3 9
教育 機関	図書館		1	8	7	1 0					6 9	9 5
	教育研修センター		1					4			1 3	1 8
	特別支援教育センター				1	2		2			1 5	2 0
	富士川学校給食センター			1						3	1 4	1 8
	青少年相談センター			2		1					1 3	1 6
	青少年教育センター										1	1
	博物館			2		3		1			5	1 1
	小学校						6		1	5 0	2 7 3	3 3 0
	中学校									2 7	1 5 9	1 8 6
	富士市立高等学校		1	1		2		1	6 8		4 2	1 1 5
	小 計	0	3	1 4	8	1 8	6	8	6 9	8 0	6 0 4	8 1 0
合 計		1	9	2 4	2 1	4 2	7	2 2	6 9	8 0	6 7 4	9 4 9

(市費負担職員のみ)

(3) 職員数の推移（会計年度任用職員等を除く）

年度 組織	平成 2 8 年度	2 9 年度	3 0 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
事務局	4 2	4 3	4 4	4 5	4 5	5 4	6 4	6 5	6 5	6 5	6 9
教育機関	1 6 0	1 6 1	1 6 0	1 6 3	1 9 7	1 9 5	1 9 9	1 9 7	2 0 2	2 0 0	2 0 6
計	2 0 2	2 0 4	2 0 4	2 0 8	2 4 2	2 4 9	2 6 3	2 6 2	2 6 7	2 6 5	2 7 5

Ⅲ 令和8年度教育予算

1 歳出当初予算額

(単位:千円)

区分	年度	令和8年度 当初予算額 (A)	令和7年度 当初予算額 (B)	令和6年度 当初予算額 (C)	比較増減	
					(A) - (B)	(A) - (C)
一般会計予算総額		110,800,000	104,500,000	101,800,000	6,300,000	9,000,000
教育費総額		12,402,939	13,345,799	17,016,181	△ 942,860	△ 4,613,242
教育費の割合		11.2%	12.8%	16.7%	△ 1.6ポイント	△ 5.5ポイント

令和8年度の富士市一般会計予算総額は1,108億円で、前年度に比べ63億円の増となっている。

また、教育費は124億293万9千円で前年度に比べ9億4千万円余の減、一般会計に占める割合は11.2%で前年度に比べ1.6ポイントの減となっている。

2 一般会計歳出予算と教育費予算

一般会計 (単位:千円)

款	予算額	構成比
議会費	488,451	0.4%
総務費	9,616,154	8.7%
民生費	43,341,693	39.1%
衛生費	10,396,106	9.4%
労働費	159,963	0.1%
農林水産業費	1,010,897	0.9%
商工費	5,525,329	5.0%
土木費	13,904,324	12.6%
消防費	6,082,682	5.5%
教育費	12,402,939	11.2%
災害復旧費	164,720	0.1%
公債費	7,606,642	6.9%
諸支出金	100	0.0%
予備費	100,000	0.1%
歳出合計	110,800,000	100.0%

教育委員会所管予算

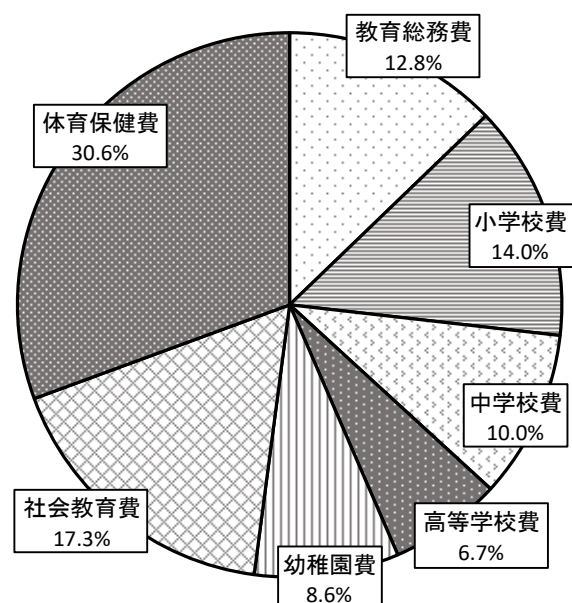
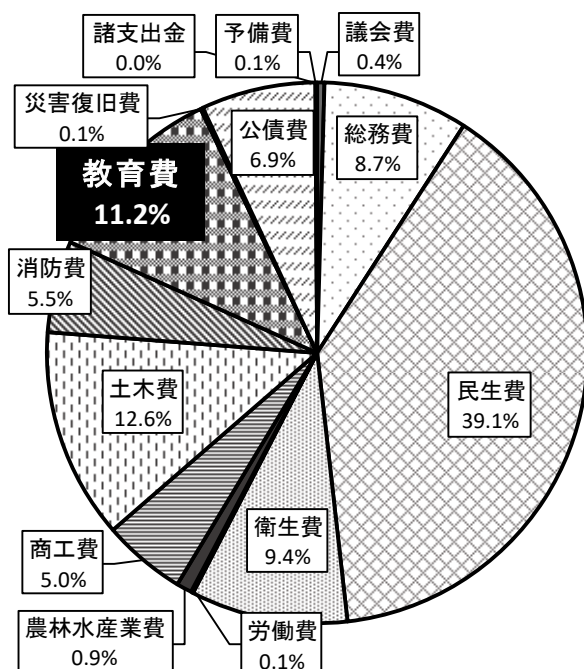
予算額	構成比
9,603,103	8.7%

※教育委員会が所管している予算は、教育費のうち、以下の項目を除いたもの及び総務費(総務管理費)の市史編さん費分となっている。

[教育委員会所管外] 幼稚園費、社会教育費のうち文化スポーツ課所管分、体育保健費のうち文化スポーツ課所管分

教育費 (単位:千円)

項	予算額	構成比
教育総務費	1,587,267	12.8%
小学校費	1,734,997	14.0%
中学校費	1,235,930	10.0%
高等学校費	836,164	6.7%
幼稚園費	1,070,012	8.6%
社会教育費	2,140,689	17.3%
体育保健費	3,797,880	30.6%
教育費合計	12,402,939	100.0%



3 教育費当初予算額内訳

歳入

(単位:千円)

款	令和8年度	令和7年度	増減	説明
分担金及び負担金	18,203	20,935	△ 2,732	日本スポーツ振興センター災害共済掛金保護者負担金
使用料及び手数料	107,961	106,685	1,276	富士市立高等学校入学料・授業料等 中央図書館市民ギャラリー使用料
国庫支出金	716,779	804,138	△ 87,359	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 学校施設環境改善交付金 埋蔵文化財調査事業費補助金 特別支援教育就学奨励費補助金 教育支援体制整備事業費補助金 理科教育設備整備費等補助金
県支出金	896,727	909,864	△ 13,137	学校給食費の抜本的な負担軽減交付金 不登校、いじめ対策等の推進事業費補助金 地域自殺対策強化事業費補助金 部活動指導員配置事業費補助金 文化財保護事務委託金 地震・津波対策等減災交付金 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金
財産収入	9,089	8,602	487	社会科副読本有償頒布収入 博物館出版物等有償頒布収入 文化財関連出版物等有償頒布収入 基金利子(大村教育施設等整備、育英奨学、教育振興基金、学校施設整備基金)
寄附金	1,500	502	998	小・中学校費寄附金
繰入金	266,742	230,203	36,539	基金繰入金(大村教育施設等整備、育英奨学、教育振興基金)
諸収入	638,969	1,289,251	△ 650,282	学校給食費負担金 学習用AIドリル保護者負担金 遺跡発掘調査受託金 日本スポーツ振興センター災害共済給付金収入 会計年度任用職員雇用保険料負担金 自動販売機等設置手数料 市民大学参加者負担金 まちづくりセンター講座参加者負担金 全国市長会学校災害賠償補償保険金収入 青少年体験交流事業参加者負担金
市債	1,067,800	1,289,100	△ 221,300	小・中学校校舎等改修事業債 小学校屋内運動場リニューアル事業債 吉原第一中学校武道場整備事業債 中学校空調設備整備事業債 中央図書館改修事業債 文化財整備事業債
教育費関係歳入合計	3,723,770	4,659,280	△ 935,510	

※ 金額には、教育委員会以外の所属が執行する教育費の事業(こども未来部保育幼稚園課が執行する幼稚園費の事業等)に充当する財源を含む。

※ 説明には、教育委員会所管のものを記載している。

歳出

(単位:千円)

区分	令和8年度		令和7年度		増減額	対前年比
	金額	構成比	金額	構成比		
教育総務費	1,587,267	12.8%	1,387,247	10.4%	200,020	114.4%
教育委員会費	34,522	0.3%	5,897	0.1%	28,625	585.4%
事務局費	1,038,750	8.4%	923,949	6.9%	114,801	112.4%
学校教育指導費	244,426	2.0%	227,436	1.7%	16,990	107.5%
特別支援教育指導費	237,955	1.9%	200,585	1.5%	37,370	118.6%
育英奨学費	13,986	0.1%	10,217	0.1%	3,769	136.9%
教育プラザ費	17,628	0.1%	19,163	0.1%	△ 1,535	92.0%
小学校費	1,734,997	14.0%	2,615,062	19.6%	△ 880,065	66.3%
小学校管理費	805,378	6.5%	775,010	5.8%	30,368	103.9%
小学校教育振興費	270,198	2.2%	910,738	6.8%	△ 640,540	29.7%
小学校建設費	659,421	5.3%	929,314	7.0%	△ 269,893	71.0%
中学校費	1,235,930	10.0%	1,679,572	12.6%	△ 443,642	73.6%
中学校管理費	458,454	3.7%	468,808	3.5%	△ 10,354	97.8%
中学校教育振興費	193,416	1.6%	567,024	4.3%	△ 373,608	34.1%
中学校建設費	584,060	4.7%	643,740	4.8%	△ 59,680	90.7%
高等学校費	836,164	6.7%	1,015,831	7.6%	△ 179,667	82.3%
高等学校総務費	836,164	6.7%	1,015,831	7.6%	△ 179,667	82.3%
幼稚園費	1,070,012	8.6%	1,038,478	7.8%	31,534	103.0%
幼稚園管理費	349,078	2.8%	325,133	2.4%	23,945	107.4%
幼稚園教育振興費	720,934	5.8%	713,345	5.4%	7,589	101.1%
社会教育費	2,140,689	17.3%	1,964,274	14.7%	176,415	109.0%
社会教育総務費	165,132	1.3%	157,055	1.2%	8,077	105.1%
生涯学習費	44,272	0.4%	45,280	0.3%	△ 1,008	97.8%
青少年教育費	20,161	0.2%	20,148	0.2%	13	100.1%
青少年対策費	59,865	0.5%	53,295	0.4%	6,570	112.3%
少年自然の家費	54,162	0.4%	57,924	0.4%	△ 3,762	93.5%
文化振興費	167,062	1.3%	120,700	0.9%	46,362	138.4%
文化会館費	714,173	5.8%	682,236	5.1%	31,937	104.7%
文化財保護費	84,979	0.7%	35,680	0.3%	49,299	238.2%
文化財発掘調査費	73,384	0.6%	69,129	0.5%	4,255	106.2%
博物館費	114,853	0.9%	103,899	0.8%	10,954	110.5%
図書館費	642,646	5.2%	618,928	4.6%	23,718	103.8%
体育保健費	3,797,880	30.6%	3,645,335	27.3%	152,545	104.2%
体育振興費	117,718	0.9%	111,573	0.8%	6,145	105.5%
体育施設費	679,703	5.5%	496,394	3.7%	183,309	136.9%
総合体育館費	132,308	1.1%	276,034	2.1%	△ 143,726	47.9%
保健費	130,081	1.0%	130,149	1.0%	△ 68	99.9%
学校給食費	2,738,070	22.1%	2,631,185	19.7%	106,885	104.1%
教育費 合計	12,402,939	100.0%	13,345,799	100.0%	△ 942,860	92.9%

※ 幼稚園費は、こども未来部保育幼稚園課が予算執行する。

※ 社会教育費のうち文化振興費、文化会館費及び体育保健費のうち体育振興費、体育施設費、総合体育館費は、市民部文化スポーツ課が予算執行する。

※ 歳入歳出の差額については、一般財源を見込んでいる。

4 職員数

正規職員	271 人	(会計年度任用職員職種)
会計年度任用職員	681 人	事務補助、学校用務員、学校司書、学校調理員、
職員総数	952 人	特別支援学級サポート員、特別支援教育サポート員、
(教育委員会以外の所属を除く)		病院内講師、ICT支援員、部活動指導員、
※正規職員にはフルタイム会計年度任用職員を含む。		スクールソーシャルワーカー、外国語指導助手(ALT)、
※会計年度任用職員には育休代替を含まない。		青少年相談員 ほか

5 教育費決算額の推移

(単位:千円)

年度 区分	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
教育総務費	1,418,152	1,253,181	1,245,996	1,266,483	1,258,651
小学校費	1,599,498	2,174,798	2,597,439	3,047,095	2,620,042
中学校費	1,472,222	1,398,786	1,280,222	1,256,998	1,251,124
高等学校費	1,118,387	847,266	918,435	780,052	812,056
幼稚園費	1,215,178	1,184,052	1,148,216	1,056,555	1,010,922
社会教育費	1,853,127	1,825,239	1,796,691	1,741,273	1,936,118
体育保健費	8,435,491	4,807,732	2,324,945	1,762,423	1,880,019
教育費合計	17,112,055	13,491,054	11,311,944	10,910,879	10,768,932
一般会計合計	109,442,585	100,473,493	94,833,194	95,837,755	120,128,929
教育費の割合	15.6%	13.4%	11.9%	11.4%	9.0%

6 令和8年度教育施設整備事業予算(教育委員会所管のもの)

項目	金額(千円)	内 訳
教育総務費	7,700	
学校教育指導費	2,100	吉原小校内教育支援センター整備(壁紙・空調設置等) 青葉台小校内教育支援センター整備(壁紙・照明改修等)
特別支援教育指導費	5,600	通級指導教室・ことばの教室設備修繕 通級指導教室・相談室(富士中)エアコン取替工事 ほか
小学校費	769,047	
小学校管理費	149,026	各小学校の緊急補修・バリアフリー改修、低学年トイレ洋式化修繕、東・須津小学校受変電設備等修繕、丘小学校飛散防止フィルム修繕、伝法小学校給食室スライサー用電力修繕、富士南小学校第二理科室及び準備室排水管老朽化修繕、田子浦小学校グラウンド北側フェンス修繕 ほか
小学校建設費	620,021	富士二・富士南小学校屋内運動場リニューアル、鷹岡・富士第二小学校校舎外壁改修、今泉小学校校舎屋上防水外壁改修、岩松北小学校給食室空調設備設置、大淵第一・富士第一・広見・丘小学校給水管布設替、今泉・富士南小学校防火設備修繕、田子浦小学校校舎基本設計 ほか
中学校費	500,195	
中学校管理費	64,209	各中学校の緊急補修・バリアフリー改修、田子浦・富士南中学校受変電設備修繕、富士中学校加圧給水ポンプ修繕、吉原北中学校飛散防止フィルム修繕 ほか
中学校建設費	435,986	吉原第二・富士南中学校給水管布設替え修繕、吉原第二中学校南校舎・渡り廊下外壁改修、鷹岡中学校北校舎屋上防水・外壁改修、吉原第一・吉原第三、富士中学校給食室空調設備設置、富士中学校給食室改修、吉原第一中学校武道場新築に伴う南校舎解体 ほか
社会教育費	83,946	
少年自然の家費	4,258	少年自然の家宿泊棟エアコン設置工事 便所改修修繕 ほか
文化財保護費	22,421	旧順天堂田中歯科医院 解体工事
博物館費	13,267	長屋門屋根全面修繕、旧稲垣家住宅戸袋等修理 ほか
図書館管理費	44,000	中央図書館本館外壁改修工事
合 計	1,360,888	

IV 主要事業

1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

(1) ふじの教育懇談会

子ども、家庭、教職員、地域住民が「学校」をきっかけとする「学校縁」を広げ、地域ぐるみで子どもを育てる「地域の絆」を深める環境づくりを推進するため、教育長及び教育委員会事務局が小中学校へ直接訪問し、保護者の意見を伺う「ふじの教育懇談会」を実施している。

この取組は、子どもの実態や学校教育、子育て等について、保護者からの率直な意見に耳を傾け、学校及び教育委員会が教育施策の充実と取組の推進に生かしていくことを目的としている。

令和7年度は、小学校2校で開催され、日頃の子育ての悩みや、子どもたちへの願い・期待、さらに保護者・地域・学校がどのように関わるべきかについて活発な意見交換が行われた。保護者の思いや考えに触れることができ、非常に意義深い機会となった。



富士南小学校



天間小学校

ふじの教育懇談会実績（令和7年度）

開催日時	会場	懇談内容
7月8日（火）	富士南小学校	「学校運営協議会（地域）と連携して子どもを育むために」
11月4日（火）	天間小学校	「子どもの育ちを支えるために家庭でできること」

(2) 施設整備事業

令和7年度 主要事業実績

事業名	学校名	構造等	施工面積	概要
武道場建設事業	岳陽中学校	鉄骨造平屋建て	743	武道場建設工事（Ⅱ期）、渡り廊下整備ほか
小中学校屋内運動場リニューアル事業	神戸小学校	鉄骨造平屋建て	1,012	※屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ設置ほか
	吉永第二小学校	鉄骨造平屋建て	1,055	屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ設置ほか
	須津中学校	1階鉄筋コンクリート造2階鉄骨造	2,813	※屋根・外壁、バリアフリートイレ設置ほか
	元吉原中学校	1階鉄筋コンクリート造2階鉄骨造	2,734	屋根・外壁、バリアフリートイレ設置ほか
校舎改修事業	原田小学校	鉄筋コンクリート造3階建	1,978	南校舎・渡り廊下棟外壁改修
	大淵第一小学校	鉄筋コンクリート造3階建	3,206	北校舎・渡り廊下棟・給食棟屋上防水・外壁改修
	富士第二小学校	鉄筋コンクリート造4階建	3,296	南校舎・渡り廊下棟外壁改修
	鷹岡小学校	鉄筋コンクリート造2階建	658	南校舎屋上防水・外壁改修
	富士中央小学校	鉄筋コンクリート造2階建	2,867	※南校舎屋根塗装・外壁改修
	吉原第二中学校	鉄筋コンクリート造4階建	3,853	北校舎・給食棟外壁改修
	大淵中学校	鉄筋コンクリート造3階建	1,751	南校舎屋上防水・外壁改修
プール解体事業	田子浦中学校	昭和52年度築		プール槽解体、跡地造成

※次年度へ全額繰越明許

令和8年度 主要事業計画

事業名	学校名	構造等	施工面積	概要
武道場建設事業	吉原第一中学校	鉄骨造平屋建て	743	南校舎解体、空調設備設置ほか
小中学校屋内運動場リニューアル事業	神戸小学校	鉄骨造平屋建て	1,012	屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ設置ほか
	富士第二小学校	鉄骨造平屋建て	1,251	屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ改修ほか
	富士南小学校	鉄骨造平屋建て	1,019	屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ設置ほか
	須津中学校	1階鉄筋コンクリート造2階鉄骨造	2,813	屋根・外壁、バリアフリートイレ設置ほか
校舎改修事業	富士中央小学校	鉄筋コンクリート造2階建	2,867	南校舎屋上塗装・外壁改修
	今泉小学校	鉄筋コンクリート造3階建	4,246	南校舎屋上防水・外壁改修
	富士第二小学校	鉄筋コンクリート造3階建	2,077	北校舎外壁改修
	鷹岡小学校	鉄筋コンクリート造3階建	1,902	中校舎・中廊下・渡り廊下棟外壁改修
	吉原第二中学校	鉄筋コンクリート造3階建	2,941	南校舎・渡り廊下棟外壁改修
	鷹岡中学校	鉄筋コンクリート造3階建	1,911	北校舎屋上防水・外壁改修

2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

(1) 小・中学校

① 学校一覧

ア 小学校

令和8年5月1日現在

	学校名	所在地	電話	開校年月日	児童数	学級数	職員数 (内県費)	
1	吉原小学校	高嶺町6番1号	52-4190	明治6年6月1日	436	17(3)	36	27
2	今泉小学校	今泉3丁目17番1号	52-2011	明治6年9月1日	503	22(5)	43	34
3	伝法小学校	伝法2743番地	52-0027	明治6年8月	543	23(4)	44	34
4	神戸小学校	神戸633番地	21-2192	明治8年	176	9(2)	20	14
5	元吉原小学校	今井3丁目4番2号	33-0004	明治7年10月	237	12(3)	26	18
6	東小学校	西船津220番地	34-0274	昭和31年4月2日	50	6	15	9
7	須津小学校	中里1019番地	34-0049	明治6年8月1日	492	20(3)	40	30
8	吉永第一小学校	比奈1431番地	34-0228	明治6年6月1日	273	15(3)	31	22
9	吉永第二小学校	鵜無ヶ淵149番地の1	21-2190	明治5年	66	6	17	11
10	原田小学校	原田480番地	52-0897	明治6年9月1日	318	14(2)	28	20
11	大淵第一小学校	大淵3012番地	35-0009	明治7年6月	457	22(7)	44	34
12	富士第一小学校	本市場280番地の2	61-0042	明治10年10月3日	613	22(2)	46	36
13	富士第二小学校	横割1丁目8番1号	61-0414	昭和20年3月1日	504	20(3)	36	27
14	田子浦小学校	中丸98番地	61-0327	明治6年10月	656	25(3)	46	36
15	岩松小学校	松岡850番地	61-0917	明治6年3月1日	416	17(1)	38	28
16	鷹岡小学校	久沢2丁目3番1号	71-3855	明治6年4月	538	22(3)	41	32
17	広見小学校	広見本町1番1号	21-2191	昭和46年4月1日	539	23(5)	43	34
18	丘小学校	厚原2075番地	71-6050	昭和48年4月1日	804	29(4)	56	44
19	富士見台小学校	富士見台1丁目12番地	21-4518	昭和52年4月1日	213	11(2)	27	19
20	富士南小学校	宮下551番地	63-7025	昭和53年4月1日	915	33(5)	62	50
21	天間小学校	天間50番地	71-0333	昭和54年4月1日	271	13(2)	28	20
22	岩松北小学校	岩本123番地の1	64-8890	平成元年4月1日	570	22(4)	44	33
23	富士中央小学校	米之宮町295番地	60-1211	平成5年4月1日	522	20(2)	40	30
24	青葉台小学校	一色295番地	21-6310	平成10年4月1日	525	21(3)	42	33
25	富士川第一小学校	岩淵107番地	81-0481	明治6年9月	300	13(2)	24	21
26	富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校)	北松野1963番地の6	85-2005	明治7年12月8日	245	11(1)	18	16
計					11,182	468(74)	935	712

※学級数()内は、特別支援学級数

※特別休暇及び育児休業、休職に係る代替講師は除く。

イ 中学校

令和 8 年 5 月 1 日現在

	学校名	所在地	電話	開校年月日	生徒数	学級数	職員数(内県費)	
1	吉原第一中学校	永田北町 7 番 1 号	52-0160	昭和 22 年 4 月 1 日	574	21(4)	50	40
2	吉原第二中学校	今泉 1955 番地	51-1115	昭和 25 年 1 月 15 日	492	17(3)	41	32
3	吉原第三中学校	比奈 2126 番地	34-0868	昭和 35 年 4 月 1 日	348	14(3)	33	25
4	元吉原中学校	鈴川中町 28 番 1 号	33-0065	昭和 22 年 4 月 1 日	140	8(2)	22	16
5	須津中学校	中里 1156 番地	34-0144	昭和 22 年 4 月 1 日	295	12(3)	31	23
6	大淵中学校	大淵 2920 番地	35-0021	昭和 22 年 4 月 1 日	313	13(4)	34	26
7	富士中学校	中島 320 番地	61-1390	昭和 22 年 4 月 1 日	633	24(5)	52	42
8	田子浦中学校	中丸 411 番地	61-0534	昭和 22 年 4 月 1 日	266	11(2)	28	20
9	岩松中学校	松岡 2353 番地の 1	61-0931	昭和 22 年 4 月 1 日	534	18(1)	44	35
10	富士南中学校	森島 550 番地	61-2084	昭和 36 年 4 月 1 日	720	25(4)	55	45
11	鷹岡中学校	久沢 713 番地	71-3354	昭和 22 年 4 月 1 日	444	16(2)	38	30
12	岳陽中学校	伝法 630 番地	71-7955	昭和 49 年 4 月 1 日	702	25(3)	57	46
13	吉原北中学校	原田 2259 番地	21-0280	昭和 56 年 4 月 1 日	300	12(2)	30	22
14	富士川第一中学校	岩淵 855 番地の 3	81-0482	昭和 22 年 5 月 2 日	153	8(2)	19	16
15	富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二中学校)	北松野 1963 番地の 6	85-2005	昭和 22 年 4 月 1 日	154	8(2)	18	17
計					6,068	232(42)	552	435

※学級数()内は、特別支援学級数 ※特別休暇及び育児休業、休職に係る代替講師は除く。

ウ 施設等

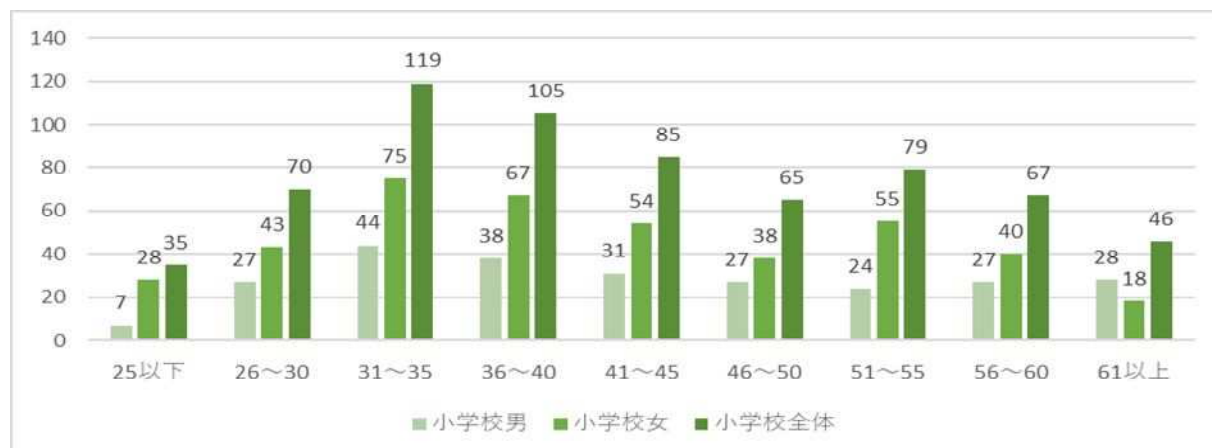
令和 8 年 5 月 1 日現在

学校名	校地面積 (㎡)	建物面積 (㎡)		学校名	校地面積 (㎡)	建物面積 (㎡)	
		校舎	屋体			校舎	屋体
吉原小学校	28,274	7,211	1,045	岩松北小学校	22,292	6,449	1,062
今泉小学校	36,316	8,897	1,033	富士中央小学校	24,690	5,803	1,218
伝法小学校	24,588	7,525	1,213	青葉台小学校	27,382	5,958	1,243
神戸小学校	19,147	4,596	1,012	富士川第一小学校	13,851	5,475	1,199
元吉原小学校	25,452	5,499	1,125	富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校)	15,286	4,336	1,457
東小学校	14,426	2,535	532	吉原第一中学校	32,195	9,257	1,253
須津小学校	17,317	6,471	776	吉原第二中学校	33,108	6,911	2,326
吉永第一小学校	15,769	5,289	1,171	吉原第三中学校	25,233	5,034	4,171
吉永第二小学校	17,920	3,758	1,061	元吉原中学校	21,220	3,830	2,734
原田小学校	16,698	5,394	852	須津中学校	25,268	5,571	2,813
大淵第一小学校	19,303	6,697	956	大淵中学校	31,458	5,667	2,795
富士第一小学校	20,806	7,147	1,192	富士中学校	25,887	7,987	2,964
富士第二小学校	18,813	6,321	1,251	田子浦中学校	26,453	5,580	2,810
田子浦小学校	27,205	6,518	1,035	岩松中学校	21,582	5,152	2,864
岩松小学校	16,046	6,208	1,050	富士南中学校	35,202	7,304	2,842
鷹岡小学校	21,000	6,246	916	鷹岡中学校	33,699	6,976	2,754
広見小学校	17,237	6,922	1,072	岳陽中学校	33,149	7,729	1,928
丘小学校	24,575	7,156	939	吉原北中学校	28,885	6,751	1,147
富士見台小学校	31,667	5,966	976	富士川第一中学校	19,660	4,384	2,047
富士南小学校	25,729	7,663	1,019	富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二中学校)	10,958	2,992	2,174
天間小学校	23,063	5,067	1,006				

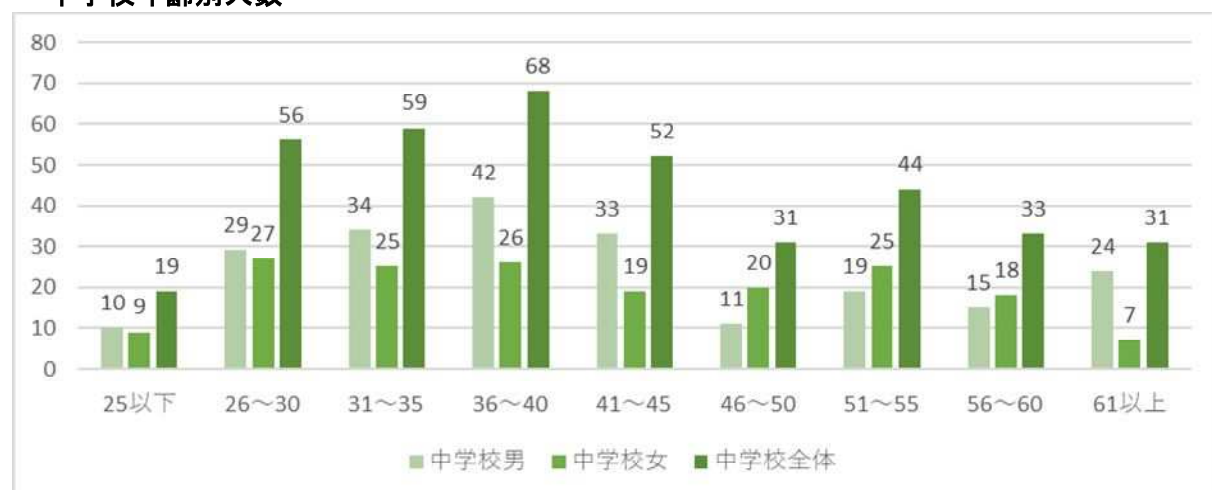
エ 職員の年齢別構成（県費負担正規教職員）

小学校年齢別人数

令和8年5月1日現在



中学校年齢別人数



オ 職員の構成

令和8年5月1日現在

区分	小学校	中学校	富士川給食センター	計
校長（所長）	25	15	1	41
教 頭	27	16	—	43
主幹教諭	12	5	—	17
教 諭	530	311	—	841
暫定再任用	22	14	—	36
任期付任用職員及び臨時的任用職員（欠員補充）	22	37	—	59
会計年度任用職員（県費）	136	51	—	187
養護教諭	29	15	—	44
事務職員	30	19	1	50
栄養教諭	8	3	—	11
栄養士	9	1	—	10
調理員	137	73	13	223
用務員	26	14	1	41
学校司書	25	15	—	40
サポート員等（市費）	80	46	—	126
計	1,118	635	16	1,769

※暫定再任用には定年前再任用短時間勤務職員を含む。

※任期付任用職員及び臨時的任用職員については、特別休暇や育児休業、休職における代替は除く。

力 令和8年度以降就学児童推定

令和8年5月1日現在

学 校 名	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
吉 原 小 学 校	70	66	65	61	58	52	51
今 泉 小 学 校	62	70	70	65	62	56	55
伝 法 小 学 校	71	73	73	68	65	58	57
神 戸 小 学 校	25	25	25	23	22	20	19
元 吉 原 小 学 校	28	30	30	27	26	24	23
東 小 学 校	10	8	8	7	7	6	6
須 津 小 学 校	70	72	71	66	64	57	56
吉 永 第 一 小 学 校	40	41	40	38	36	32	32
吉 永 第 二 小 学 校	13	9	9	9	8	7	7
原 田 小 学 校	38	42	42	39	37	33	33
大 淵 第 一 小 学 校	56	53	53	49	47	42	41
富 士 第 一 小 学 校	102	91	90	84	80	72	70
富 士 第 二 小 学 校	83	69	68	64	61	54	53
田 子 浦 小 学 校	119	106	106	98	94	84	82
岩 松 小 学 校	51	55	54	51	48	43	42
鷹 岡 小 学 校	75	75	75	69	66	59	58
広 見 小 学 校	87	78	78	72	69	62	61
丘 小 学 校	112	111	110	103	98	88	86
富 士 見 台 小 学 校	26	27	26	25	23	21	21
富 士 南 小 学 校	147	141	140	130	124	111	109
天 間 小 学 校	33	41	40	38	36	32	32
岩 松 北 小 学 校	81	84	84	78	75	67	65
富 士 中 央 小 学 校	77	77	76	71	68	61	59
青 葉 台 小 学 校	80	81	81	75	72	64	63
富 士 川 第 一 小 学 校	34	38	37	35	33	30	29
富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校)	32	31	31	29	28	25	24
計	1,622	1,594	1,582	1,474	1,407	1,260	1,234

(令和8年度公立義務教育諸学校の教職員定数等に関する資料より)

キ 中学生進路状況

区分 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
高 等 学 校 等 進 学 者	2,184	2,164	2,122	2,081	2,048
専 修 ・ 各 種 学 校 進 学 者	11	13	5	9	2
公 立 職 業 訓 練 施 設 入 所 者	2	4	0	0	1
就 職 者 等	29	29	41	30	42
合 計 (卒 業 生 数)	2,226	2,210	2,168	2,120	2,093
高 校 進 学 率 (%)	98.1	97.9	97.9	98.2	97.8

ク 富士市育英奨学生

将来、富士市の中堅となる有為の人材を育成することを目的として、学資を給付している。

市内に居住する者で、高等学校又はこれと同等程度の学校に在学し、品行方正、成績優秀、身体強健で学資の支弁が困難と認められる者に対して給付される。

ケ 富士市育英奨学生の推移

令和 8 年 5 月 1 日現在

年度	奨学生 人数	1 年生	2 年生	3 年生	定時制 4 年生 沼津高専 4 年生 沼津高専 5 年生	奨学生 累計	●奨学金月額 ～昭和 43 年 1,500 円 44 年～47 年 2,000 円 48 年～52 年 3,000 円 53 年～57 年 5,000 円 58 年～61 年 8,000 円 62 年～ 10,000 円 ●給付期間 全日制高校 3 年 定時制高校 4 年 沼津高専 5 年
昭27～ 平28						1,487	
29	74	23	28	23	0	1,454	
30	75	22	23	28	2	1,476	
令元	67	20	21	23	3	1,496	
2	62	20	20	21	1	1,516	
3	63	23	20	20	0	1,539	
4	67	24	23	20	0	1,563	
5	72	25	24	23	0	1,588	
6	66	20	24	22	1	1,607	
7	77	34	20	23	2	1,641	
8	71	18	34	19	0	1,659	

コ 就学援助

(金額単位: 千円)

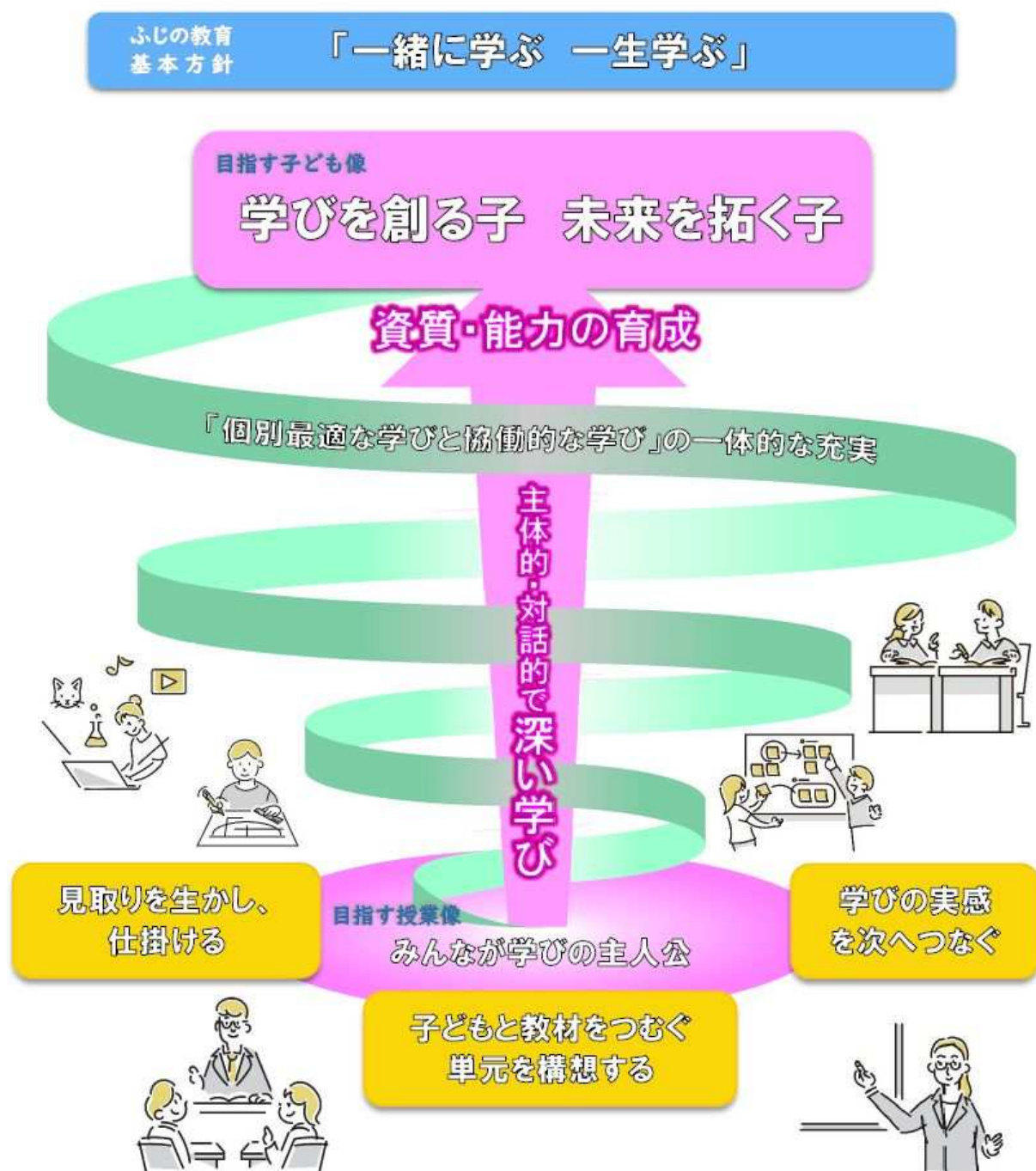
年 度	学用品費等		給 食 費		新入学学用品費		修学旅行費等		医 療 費		通 学 費		合 計
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	金額
平 29	1,213	21,758	1,209	58,761	227	10,182	479	14,054	146	1,014	7	37	105,805
30	1,089	20,168	1,083	52,843	328	14,738	466	13,207	125	700	14	249	101,905
令元	1,054	18,557	1,050	51,755	226	11,903	403	13,088	87	579	4	238	96,120
2	1,121	19,745	1,110	50,994	229	12,769	247	2,569	97	586	6	160	86,823
3	1,142	21,287	1,132	58,984	227	12,824	395	8,243	79	465	12	93	101,896
4	1,147	21,498	1,136	51,146	205	11,762	409	11,479	66	413	5	49	96,347
5	1,155	20,911	1,132	57,503	199	11,789	397	12,683	69	488	8	92	103,466
6	1,237	20,970	1,120	57,848	185	13,910	284	12,862	62	340	9	167	106,097
7	1,232	20,917	1,087	56,448	212	12,875	281	13,165	46	387	7	89	103,881

サ 特別支援学級就学奨励

(金額単位: 千円)

年 度	学用品費等		給 食 費		新入学学用品費		修学旅行費等		通 学 費		合 計
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	金額
平 29	211	919	223	5,470	54	578	223	1,036	121	1,351	9,355
30	226	907	235	5,801	41	780	310	1,199	122	1,489	10,176
令元	225	900	235	5,793	45	1,057	290	1,408	144	1,431	10,589
2	258	1,000	254	5,863	52	1,254	157	235	141	1,363	9,715
3	281	1,114	274	7,075	50	1,138	250	881	154	1,243	11,451
4	318	1,172	311	7,044	71	1,773	282	1,158	182	1,305	12,452
5	322	1,332	311	7,924	58	1,403	275	1,156	179	1,086	12,901
6	350	1,519	340	8,865	65	1,638	305	1,359	170	1,018	14,399
7	369	2,739	354	8,527	76	2,290	407	1,471	173	989	16,017

② 教育研修
ア 令和8年度 授業づくりの重点



社会の変化がより複雑で予測困難となってきた中、これから目指すべき社会とは、人間を中心とした、一人一人が他者との関わりの中で幸せや豊かさを追求できる社会とされています。

学校は、子ども一人一人の個性や多様性を尊重し、その子の「好き」を育み、「得意」を伸ばしながら確実に資質・能力が身に付くよう、授業においては、ICTを学習の質を高めるものとして活用し、「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組を進めていくことが大切です。

みんなが学びの主人公となる授業を目指して

「みんなが学びの主人公となる授業」とは、「一人一人が課題に魅力を感じ、自分らしさを発揮しながら、課題解決に向かう中で、資質・能力が育まれる授業」です。

どの子どもも安心して、それぞれの感性を働かせながら主体的に学び、生涯にわたって学び続ける力を育てていくためには、教師の温かで肯定的なまなざしによる関わりを土台とした、授業や学習環境をデザインすることが大切です。そして、子ども一人一人に必要な伴走支援が欠かせません。

昨年度の学校訪問から見えたことをもとに、教師が大切にしたいことを三つの柱に整理しました。

子どもと教材をつむぐ単元を構想する

単元を構想することは、子どもの思いや願いと教材の価値を教師の関わりや支援でつむいでいくことです。子どもが夢中になって思いや願いを実現しようと学びを楽しむ中で、目標を達成し、資質・能力を育むことにつながるような単元を構想することが大切です。

- 学習指導要領解説を読み、育成すべき資質・能力が身に付いた子どもの姿をイメージしましょう。
- 子どもが教科等の見方・考え方を働かせて思考する姿をイメージして、教材研究を行いましょう。
- 「なぜだろう」「やってみたい」と思う課題を設定し、どの子どもも「できそうだ」と解決の手がかりや見通しをもてるような展開や手立てを考えましょう。
- 子どもが「学び方」を自己決定できるような場（教材・教具・学習形態・活動時間・ICT活用等）を工夫しましょう。

見取りを生かし、仕掛ける

子どもの素直な表れは、安心できる学級と学習環境のもとで生まれます。そのような表れを教師が温かく受け止め、丁寧に見取ろうとする姿勢が大切です。単元を通して身に付けたい資質・能力を念頭におき、子どもの多様な表れから、個々の思考の様子や変化を感じて、柔軟に授業を展開し、単元や本時の目標に迫るよう仕掛けます。

- 子どもたちが授業中に見せる表情やしぐさ、つぶやきなどに込められた意味や思いを丁寧に見取り、子どもの現在地を捉え続けましょう。
- 多様な考えを生かし学びを深めるために、ICT活用や個別支援、学習形態の工夫、板書の構造化などを意図的に取り入れましょう。
- 子どもの考えや思いを引き出すために、子どもの表れをもとに、情報を提供する、ずれを生かす、問い返す、待つ、視点を示すなど具体的に仕掛けましょう。

学びの実感を次へつなぐ

子どもが、学習内容や活動を自分ごととして捉えることで学びの実感を得ることができます。学びの過程で子どもが「できそうだ」「分かってきた」「納得した」「新しい問いが生まれた」など自己の変容を自覚し、「次もやってみたい」という思いを引き出すことが大切です。

- 子どもが自らの学習を調整し、粘り強く取り組んでいるかを見届けましょう。
- 課題解決に向けて試行錯誤している姿、目標や課題に向けて工夫して取り組んでいる姿を積極的に認め、次につながる前向きな声掛けや関わりをしていきましょう。
- 学習過程で生まれた疑問や気づき、活用できる知識・技能や新たな考え方、学習を深めることで得た更なる意欲などを振り返ることで、自分に身に付いた力を子ども自身で確かめることができるようにしましょう。

イ 指定校研究（令和８年度）

(7) 教育研究指定校

	学 校 名	領 域	備 考
1	吉 原 小 学 校 吉原第三中学校	学習指導（自立した学習者の育成） 学習指導（自立した学習者の育成）	継続（令和７～８年）
2	富士見台小学校 富士川第一中学校	学習指導（子どもの権利を尊重した学び） 学習指導（子どもの権利を尊重した学び）	新規（令和８～９年）

(4) 自然保護環境美化活動指定校

	学 校 名	領 域	期 間
1	東 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 18 年～）
2	原 田 小 学 校	自然保護環境美化活動（ビオトープ活用）	継続（平成 19 年～）
3	大淵第二小学校	自然保護環境美化活動	平成 20 年～令和 4 年
4	田 子 浦 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 23 年～）
5	大淵第一小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成 24 年～）
6	吉永第一小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成 24 年～）
7	富 士 南 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 26 年～）
8	神 戸 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 26 年～）
9	吉 原 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 27 年～）
10	富士第一小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成 27 年～）
11	今 泉 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 28 年～）
12	元吉原小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成 28 年～）
13	富士第二小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成 28 年～）
14	岩 松 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 28 年～）
15	鷹 岡 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 28 年～）
16	丘 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 28 年～）
17	岩松北小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成 28 年～）
18	富士中央小学校	自然保護環境美化活動（ビオトープ活用）	継続（平成 28 年～）
19	青葉台小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成 28 年～）
20	須 津 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 29 年～）
21	広 見 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 29 年～）
22	富士見台小学校	自然保護環境美化活動	継続（令和元年～）
23	富士川第一小学校	自然保護環境美化活動	令和元年～５年
24	須 津 中 学 校	自然保護環境美化活動	平成 28 年～令和 5 年
25	吉原北中学校	自然保護環境美化活動	継続（平成 28 年～）
26	岳 陽 中 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 29 年～）
27	岩 松 中 学 校	自然保護環境美化活動	継続（平成 30 年～）
28	富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二中学校）	自然保護環境美化活動	令和元年～５年
29	吉原東中学校	自然保護環境美化活動	令和 2 年～５年
30	富 士 南 中 学 校	自然保護環境美化活動	継続（令和 2 年～）
31	天 間 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（令和 3 年～）
32	伝 法 小 学 校	自然保護環境美化活動	継続（令和 4 年～）
33	吉永第二小学校	自然保護環境美化活動	継続（令和 4 年～）
34	吉原第三中学校	自然保護環境美化活動	継続（令和 4 年～）
35	富 士 中 学 校	自然保護環境美化活動	継続（令和 4 年～）

36	富士川第一中学校	自然保護環境美化活動	継続（令和4年～）
37	鷹岡中学校	自然保護環境美化活動	継続（令和5年～）

ウ 各層別研修

	名 称	主 題	研 修 月
1	新規採用教職員研修	教職員としての基本的な資質の向上（児童生徒理解、教材作り、授業研究等）	4月～3月
2	3年目教員研修	自己目標シートをもとにした実践研修や情報交換、個別訪問研修を行い、授業力と生徒指導力を高める。	5月～1月
3	ミドルリーダー研修会	自己目標シートをもとに各校で実践を積み上げ、学校運営に参画する意識を持ち、業務遂行力と組織運営力を高める。	5月～1月
4	推進員研修会	教科・領域等による教育研究の推進	4月～2月
5	教育研修会	当面の課題と対応（主幹・教務・研修・生徒指導・新任特別支援教育コーディネーター、小中一貫教育等）	5月～1月
6	教頭研修会	学校経営上の識見・能力、教職員指導のあり方	4月～2月
7	校長研修会	学校経営上の諸問題検討、学校経営の質的向上	4月～3月

エ 県外教育視察研修

小・中教員2人	7月～1月
---------	-------

オ 教育研修推進活動

教育講演会	教育講演会 ロゼシアター 7月30日（木）		
教職員表彰	教職員表彰式 ロゼシアター 7月30日（木）		
一斉授業研究会	中学校 各教科 小学校 各教科等、中学校 教科外	11月4日（水） 小中共通 11月11日（水）	
一般研究（各教科等）	主任による研修 各教科等の担当教員による研修 教員全体の研修	事例研修・授業法研究・評価研修 実践発表 フィールドワーク 教具の作成・資料作成と収集	
自主的研修	教育研究実践会・・・健康教育・特別支援等、活動団体への助成		
教員海外派遣研修	小学校教員1人、中学校英語科教員1人をオーシャンサイド市に派遣		
アフター5講座（勤務時間外の希望研修）	授業づくり、情報教育、特別支援教育、生徒指導、英語教育、英会話園小接続、トピック		

カ 研修・発表・指導事業への参加・奨励

調査・検査	知能検査（小3・中1） i-check検査（小5・中1） 新体力テスト	発表会	英語弁論大会
作品展	科学作品展	生徒の活動	中学生リーダー研修会

キ 教育実践研究への応募の奨励

自主的研究活動の推進

ク 研究記録等の発刊

児童生徒対象	社会科副読本
--------	--------

ケ 小・中学校教育目標と校内研修テーマ

(7) 小学校

	学校名	学校教育目標	校内研修テーマ
1	吉原小	あこがれ チャレンジ 笑顔 ～夢をもつ子 たくましくがんばる子 仲間とともに喜ぶ子～	「自ら学び続ける子」の育成
2	今泉小	やさしく たくましく	対話を通して 考えを深める授業
3	伝法小	あこがれ チャレンジ 笑顔 ～夢をもつ子 たくましくがんばる子 仲間とともに喜ぶ子～	自分ごととして考え、学びをつないでいく子の育成
4	神戸小	自分らしく とともに かがやく	つなげよう つながろう
5	元吉原小	人として 熱く 優しく たくましく	主体的に考え続ける子を育てる授業づくり
6	東小	たくましく 挑戦する子	できた・わかったを実感し授業を楽しむ子 ～相手のハートに届けよう、相手のハートを受け取ろう～
7	須津小	やさしく たくましい子	自ら学ぶ 深め合う子 ～夢中になって学ぶ 聴き合い分かり合う～
8	吉永第一小	やさしく たくましく 生きる子	自分の問いをもち 仲間と追究する子供
9	吉永第二小	自分らしく とともに かがやく	学び続ける子 ～振り返りの積み重ねを通して～
10	原田小	やさしく たくましく 生きる子	対話を通して考えを深めていく子 ～「〇〇したい」がいっぱい！～
11	大淵第一小	自分から、自分たちへ	夢中になって 深める学び ～学びに生かす 教師の見取りと子供の振り返り～
12	富士第一小	しなやかに 挑み続ける ～聴き、考え、なかまとまえへ～	みんなわくわく！子どもたちの手で進む授業
13	富士第二小	やさしく いきる	聴いてつなげて考える授業づくり ～問いがつながり、学びが深まる授業～
14	田子浦小	じぶんから	子供の「やってみよう」を支える授業づくり
15	岩松小	い・わ・ま・つ い…いつでも 自分から動く子 わ…わたしも あなたも 大事にする子 ま…学びを楽しみ、表現する子 つ…つながりながら 成長する子	学び合い・深める授業
16	鷹岡小	自ら学ぶ子	学びを楽しむ子
17	広見小	一生懸命 がんばる	ゴールに向かって学びを深める子の育成 ～「集めて つなげて 考える」追究したい問いを創り出す授業を通して～
18	丘小	一生懸命 がんばる	一人一人の学び×他者との学び 深める授業
19	富士見台小	自分らしく とともに かがやく	考え続ける授業 ～？からつぎの？へ～
20	富士南小	やさしく いきる	主体的に学び合い 考え 表現する子 ～「やってみよう」を引き出す仕掛け～
21	天間小	自ら学ぶ子	「分かった」「できた」を実感できる授業 ～課題に対して自分から関わる子～
22	岩松北小	い・わ・ま・つ い…いつでも 自分から動く子 わ…わたしも あなたも 大事にする子 ま…学びを楽しみ、表現する子 つ…つながりながら 成長する子	学び合いの中で“自りつ”する子
23	富士中央小	しなやかに 挑み続ける ～じぶんから 一歩前へ～	かかわりを大切に、自分らしく追究する授業
24	青葉台小	夢に向かって とともに伸びる 青葉の子	個別最適な環境の中で協働的学ぶ授業づくり ～子供を主語にした単元デザイン～
25	富士川第一小	つなぐ ・自分から積極的に人や地域、社会とつながる。 ・自分の将来につなげるために今できることを考え実行する。 ・学びの対象（人・もの・こと）とつながり、自分の考えをもち発信する。 ・思いやる気持ちや諦めないで挑戦する気持ちをつなげる。	互いに聴き合い、みんなで学ぶ子の育成
26	富士川第二小 (富士川第二小学校)	自ら学び とともにみがき合う	9年間を通して「学びを楽しむ」子供を支える

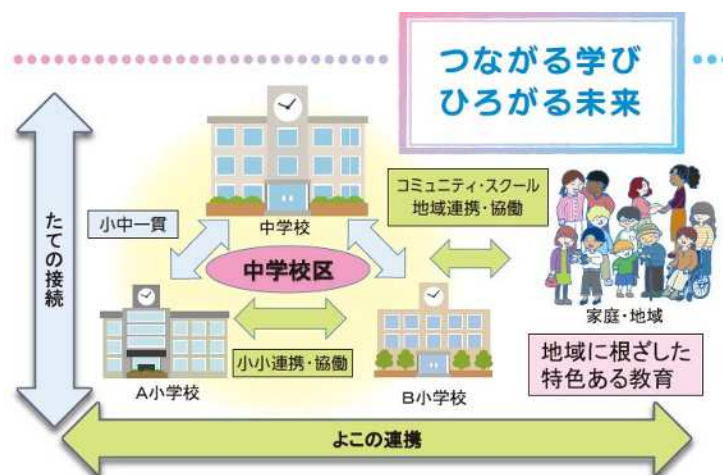
(イ) 中学校

	学校名	学校教育目標	校内研修テーマ
1	吉原第一中	あこがれ チャレンジ 笑顔 ～夢をもつ子 たくましくがんばる子 仲間とともに喜ぶ子～	一人一人が主体となって学ぶ授業づくり
2	吉原第二中	幸せに気付く生徒	「学ぶことが楽しい」に気づく生徒を目指して ～わかって楽しい授業/もやもやするけど楽しい授業～
3	吉原第三中	やさしく たくましく 生きる子	自立した学習者の育成
4	元吉原中	人として 熱く 優しく たくましく	きき合い 伝え合おう ～生徒の言葉でつくる授業～
5	須津中	たくましい生徒 やさしい生徒	夢中になって深め合う授業づくり
6	大淵中	自分から、自分たちへ	自分から自分たちへ ～受心と発心～
7	富士中	しなやかに 挑み続ける ～自ら学び 仲間とともに高め合う生徒～	「考えたい」「対話したい」「やってみたい」が生まれる授業 ～授業できこう「あいうえお」～
8	田子浦中	自分から	他と関わり、自ら学ぶ生徒の育成
9	岩松中	い・わ・ま・つ い…いつでも自分から動く子 わ…わたしもあなたも大事にする子 ま…学びを楽しみ、表現する子 つ…つながりながら成長する子	深い学びにつながる授業づくり
10	富士南中	やさしく 生きる	対話を通じて仲間と共に考えを深める生徒の育成 ～対話が深まる学習課題の追求～
11	鷹岡中	自ら学ぶ子	付けたい力が明確な、全員が参加できる授業
12	岳陽中	一生懸命 がんばる	根拠を基に自分の考えとして語れる生徒の育成
13	吉原北中	自分らしく とともに 輝く	特別支援教育の視点を持った学び心地の良い授業づくり ～深い生徒理解と単元を貫く課題の充実～
14	富士川第一中	つなぐ ・自分から積極的に人や地域、社会とつながる。 ・自分の将来につなげるために今できることを考え実行する。 ・学びの対象（人・もの・こと）とつながり、自分の考えをもち発信する。 ・思いやる気持ちや諦めないで挑戦する気持ちをつなげる。	こどもの権利を大切にしたい学びの創造 ～つながりの中で、笑顔と希望が広がる、みんなが参加できる授業を目指して～
15	富士川第二中 (富士川第二中学校)	自ら学び とともにみがき合う	9年間を通して「学びを楽しむ」子供を支える

コ 小中一貫教育と目指す児童生徒像

(7) 本市の小中一貫教育の三本の柱とイメージ図

- 【柱 1】義務教育 9 年間を見通し、一貫した教育の充実を図ります。
～たて（小・中学校）の接続～
- 【柱 2】学校・家庭・地域が協働し、地域で児童生徒を育てる学校づくりを進めます。
～よこ（学校と地域社会）の連携～
- 【柱 3】地域に根ざした特色ある教育を進めます。



義務教育 9 年間（小学校 6 年・中学校 3 年）を連続した期間として捉え、切れ目なく質の高い教育活動を行うことや、学校・家庭・地域の協働による特色ある学校づくりを推進することにより、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に努めます。

(イ) 小中一貫教育を推進する中学校区と目指す児童生徒像

中学校区	所属する小中学校	目指す児童生徒像
吉原第一中学校区	吉原第一中学校 吉原小学校 伝法小学校	あこがれ チャレンジ 笑顔 夢をもつ子 たくましくがんばる子 仲間とともに喜ぶ子
吉原第二中学校区	吉原第二中学校 今泉小学校 青葉台小学校	夢や目標を持ち たくましく生きる子
吉原第三中学校区	吉原第三中学校 吉永第一小学校 原田小学校	やさしく たくましく 生きる子
元吉原中学校区	元吉原中学校 元吉原小学校	挑戦する子
須津中学校区	須津中学校 東小学校 須津小学校	たくましい子
大淵中学校区	大淵中学校 大淵第一小学校	自ら学び、高め合う大淵の子
富士中学校区	富士中学校 富士第一小学校 富士中央小学校	しなやかに 挑み続ける子
田子浦中学校区	田子浦中学校 田子浦小学校	自分から行動する子
岩松中学校区	岩松中学校 岩松小学校 岩松北小学校	い・・・いつでも自分から動く子 わ・・・わたしもあなたも大事にする子 ま・・・学びを楽しみ、表現する子 つ・・・つながりながら成長する子

中学校区	所属する小中学校	目指す児童生徒像
富士南中学校区	富士南中学校 富士第二小学校 富士南小学校	やさしく いきる
鷹岡中学校区	鷹岡中学校 鷹岡小学校 天間小学校	自ら学ぶ子
岳陽中学校区	岳陽中学校 広見小学校 丘小学校	一生懸命 がんばる子 ・よい悪いの判断のもとに本気で物事に打ち込み、最後まであきらめない主体的な姿 ・自分のためだけでなく、人を思っ力て力を尽くし、励まし合い、認め合い、支え合う姿
吉原北中学校区	吉原北中学校 神戸小学校 吉永第二小学校 富士見台小学校	自分らしく とともに輝く 「自分で考えて行動」「最後までチャレンジ」「自分も大切 あなたも大切」
富士川第一中学校区	富士川第一中学校 富士川第一小学校	つなぐ ・自分から積極的に人や地域、社会とつながる。 ・自分の将来につなげるために今できることを考え実行する。 ・学びの対象（人・もの・こと）とつながり、自分の考えを発信する。 ・思いやる気持ちや諦めないで挑戦する気持ちをつなげる。
富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二中学校区)	富士川第二小中一貫校 松野学園	夢を語れる子

③ 学 区

ア 小学校 (富士川第一小学校及び富士川第二小中一貫校 松野学園(富士川第二小学校)の通学区域は大字名)

学校名	通 学 区 域
吉 原 小	東本通1. 2. 3、宮町、吉原本町1. 2. 3. 4、西本通り、伝馬町、西仲町、新迫町、青島、津田、荒田島1. 2、八代町、新通り、緑町、南町、依田原1. 2. 3. 4、大和町、幸町、昭和通り、住吉町、日吉町1. 2. 3、東国久保、西国久保、錦町1、永田町、弥生町、新青島、高島、エンゼル町、中央町壱番館、吉原緑ヶ丘(芙蓉会)
今 泉 小	田宿、御殿、吹上、寺市場、市場、一の宮町1. 2. 3、立小路、栄町、富士見町、水の上、仲町、泉町、鍛冶町1. 2. 3、上和田町、吉原緑ヶ丘(芙蓉会を除く)、和田町1. 2、新橋、依田橋、駿河台1. 2. 3. 4、南仲町、北仲町、新富士見町、春日町
伝 法 小	宮川町、宮の上、三日市、長者町、伝法町1. 2(4-1組を除く)、3、中桁、上田端、田端町、吉原上中町、中村町、千代田町、瓜島、日乃出町、永田町壱番館、サーパス永田町、旧伝法永田町地区、富士日乃出町
神 戸 小	神戸1. 2、今宮
元 吉 原 小	鈴川本町、鈴川町3. 4. 5、鈴川浜町東通り、鈴川浜町中通り、鈴川浜町西通り、今井本町、今井東町、今井毘沙門町、大野町、檜町、田中町、西田中町、柏原町1. 2. 3
東 小	浮島町1. 2. 3
須 津 小	中里町1. 2. 3. 4、中里新富町、中里八幡町、川尻町1. 2、神谷町1. 2. 3、増川町1. 2. 3、江尾町1. 2、中里寿町、中里曙町、神谷緑町
吉永第一小	富士岡入町、富士岡町1. 2. 3、富士岡本花守町、富士岡洪脇町、富士岡花守町、東比奈町1. 2. 3、中比奈町1. 2. 3、西比奈町1. 2. 3
吉永第二小	間門町、鶴無ヶ淵町1. 2、桑崎町、石井町、勢子辻、陽光台東、陽光台西、陽光台南
原 田 小	宇東川町1. 2. 3、宇東川本町、西滝川町、南滝川町、東滝川町、北滝川町、原田町1. 2. 3. 4、原田本町、吉原中島町1. 2、三ッ沢町1. 2. 3(3組を除く)
大淵第一小	大久保町、大淵町1. 2. 3、八王子町1. 2、八王子本町、穴原町1. 2、中野町1. 2、落合町、片倉町、三ッ倉町、大富町、次郎長町、境町、城山町、希望ヶ丘、大峯町、富士本中町、富士本西町
富士第一小	本市場1. 2. 3. 4、国久、塔の木、塔の木2、川原宿、藤間、蓼原1. 2. 3. 4. 5、十兵衛北、千寿町、柚木、平垣町2. 3、銀座町、平垣八幡町、富士本町、富士町、平垣町、平垣北町、水戸島上、浅間町(青葉通り南側)、橋下(3-1~3-10、4-1~4-9、5-1~5-8、6-1~6-5、7-1~7-9 班)、松岡東
富士第二小	上横割、十兵衛南町、下横割南、下横割北、水戸島中、水戸島下、水戸島南町、四丁河原南、水戸島上南、橋下(8-1~8-6 班)

田 子 浦 小	柳島、柳島日東、川成島、東宮島、新浜、中丸浜、小須、田子、鮫島、江川、前田新田、前田、宮島新田、助六、下川成、中丸丘
岩 松 小	浦町（身延線西側）、林町、新町、橋下（1-1～1-9、4-10、2-1～2-11班）、四丁河原上、四丁河原下、水神
鷹 岡 小	厚原西、久沢東、久沢西、久沢南、久沢北、鷹岡本町1. 2. 3、入山瀬東、入山瀬西、入山瀬天王町、入山瀬久保
広 見 小	広見町1. 2. 3. 4（県営住宅）、5. 6. 7. 8. 9、百合ヶ丘、桜ヶ丘町、美原町、若松町2、久保町、三ッ倉南町、石坂町1. 2. 3. 4、源太坂、伝法町2（4－1組）
丘 小	傘木、片宿、末広町、厚原中、厚原南、厚原北1. 2、厚原東1. 2. 3、傘木北
富士見台小	富士見台1. 2北 2南 3. 4東 4西 5. 6. 7. 8、三ッ沢町3（3組）
富 士 南 小	森島、宮下、西宮島、千鳥町、富士見ヶ丘、自由ヶ丘、上五貫島、下五貫島、三四軒屋、靖国町、浜添
天 間 小	天間南、天間川坂、天間田代、天間北1. 2 天間東
岩 松 北 小	四ッ家、上町、富士上中、富士下中、瀬戸河原、富士緑ヶ丘、東田、旭町、滝戸、湯沢平1. 2
富士中央小	青葉町、浅間町（青葉通り北側）、本市場新田、松本、富士中島上、富士中島下、中島新道町、浦町（身延線東側）、くすの木町
青 葉 台 小	木の宮町、西木の宮町、東木の宮、一色、荻の原、茶の木平、青葉台南、高山、若松町1. 3
富士川第一小	木島、岩淵、中之郷
富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二小学校）	南松野、北松野、中野台一丁目、中野台二丁目

イ 中学校

学校名	通 学 区 域	学校名	通 学 区 域
吉原第一中	吉原小学校区及び伝法小学校区	田 子 浦 中	田子浦小学校区
吉原第二中	今泉小学校区及び青葉台小学校区	岩 松 中	岩松小学校区及び岩松北小学校区
吉原第三中	吉永第一小学校区及び原田小学校区	富 士 南 中	富士第二小学校区及び富士南小学校区
元 吉 原 中	元吉原小学校区	鷹 岡 中	鷹岡小学校区及び天間小学校区
須 津 中	東小学校区及び須津小学校区	岳 陽 中	広見小学校区及び丘小学校区
大 淵 中	大淵第一小学校区	吉 原 北 中	神戸小学校区、吉永第二小学校区及び富士見台小学校区
富 士 中	富士第一小学校区及び富士中央小学校区	富士川第一中	富士川第一小学校区
		富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二中学校）	富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二小学校）校区

ウ 特別支援学級

(7) 知的学級

学校名	通 学 区 域	学校名	通 学 区 域
吉 原 小	吉原小学校区	岩 松 小	岩松小学校区
今 泉 小	今泉小学校区	鷹 岡 小	鷹岡小学校区
伝 法 小	伝法小学校区	広 見 小	広見小学校区
神 戸 小	神戸小学校区	丘 小	丘小学校区
元 吉 原 小	元吉原小学校区	富士見台小	吉永第二小学校区及び富士見台小学校区
須 津 小	東小学校区及び須津小学校区	富 士 南 小	富士南小学校区
吉永第一小	吉永第一小学校区	天 間 小	天間小学校区
原 田 小	原田小学校区	岩 松 北 小	岩松北小学校区
大淵第一小	大淵第一小学校区	富士中央小	富士中央小学校区
富士第一小	富士第一小学校区	青 葉 台 小	青葉台小学校区
富士第二小	富士第二小学校区	富士川第一小	富士川第一小学校区
田 子 浦 小	田子浦小学校区	富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二小）	富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二小学校）校区

学校名	通 学 区 域
吉原第一中	吉原小学校区及び伝法小学校区
吉原第二中	今泉小学校区及び青葉台小学校区
吉原第三中	吉永第一小学校区及び原田小学校区
元吉原中	元吉原小学校区
須津中	東小学校区及び須津小学校区
大淵中	大淵第一小学校区
富士中	富士第一小学校区及び富士中央小学校区
田子浦中	田子浦小学校区

学校名	通 学 区 域
岩 松 中	岩松小学校区及び岩松北小学校区
富 士 南 中	富士第二小学校区及び富士南小学校区
鷹 岡 中	鷹岡小学校区及び天間小学校区
岳 陽 中	広見小学校区及び丘小学校区
吉 原 北 中	神戸小学校区、吉永第二小学校区及び富士見台小学校区
富士川第一中	富士川第一小学校区
富士川第二中 （富士川第二中） 一貫校 松野学園	富士川第二中一貫校 松野学園（富士川第二小学校）校区

(イ) 自閉情緒学級

学校名	通 学 区 域
吉 原 小	吉原小学校区
今 泉 小	今泉小学校区
伝 法 小	伝法小学校区
神 戸 小	神戸小学校区及び吉永第二小学校区
元 吉 原 小	元吉原小学校区
須 津 小	東小学校区及び須津小学校区
吉 永 第 一 小	吉永第一小学校区
原 田 小	原田小学校区
大 淵 第 一 小	大淵第一小学校区
富 士 第 一 小	富士第一小学校区及び富士中央小学校区
富 士 第 二 小	富士第二小学校区
田 子 浦 小	田子浦小学校区
鷹 岡 小	鷹岡小学校区
広 見 小	広見小学校区
丘 小	丘小学校区
富 士 見 台 小	富士見台小学校区
富 士 南 小	富士南小学校区
天 間 小	天間小学校区
岩 松 北 小	岩松小学校区及び岩松北小学校区
青 葉 台 小	青葉台小学校区
富 士 川 第 一 小	富士川第一小学校区及び富士川第二小学校区
吉 原 第 一 中	吉原小学校区及び伝法小学校区
吉 原 第 二 中	今泉小学校区及び青葉台小学校区
吉 原 第 三 中	吉永第一小学校区及び原田小学校区
元 吉 原 中	元吉原小学校区
須 津 中	東小学校区及び須津小学校区
大 淵 中	大淵第一小学校区
富 士 中	富士第一小学校区及び富士中央小学校区
田 子 浦 中	田子浦小学校区
富 士 南 中	富士第二小学校区及び富士南小学校区
鷹 岡 中	岩松小学校区、鷹岡小学校区、天間小学校区及び岩松北小学校区
岳 陽 中	広見小学校区及び丘小学校区
吉 原 北 中	神戸小学校区、吉永第二小学校区及び富士見台小学校区
富 士 川 第 一 中	富士川第一小学校区
富士川第二中一貫校 松野学園 （富士川第二中）	富士川第二中一貫校 松野学園（富士川第二小学校）校区

(ウ) 肢体学級

学校名	通 学 区 域
伝 法 小	市内全域
富 士 中	市内全域

④ 特別支援学級

ア 小学校特別支援学級一覧

令和 8 年 5 月 1 日現在

学 校 名	児 童 数			学級		設置年度
	男	女	計	数	障害区分	
吉 原 小 学 校	11	3	14	2	知の学級	昭和 45 年
	5	1	6	1	自・情緒学級	平成 4 年
今 泉 小 学 校	14	3	17	3	知の学級	昭和 46 年
	9	2	11	2	自・情緒学級	令和 6 年
伝 法 小 学 校	8	3	11	2	知の学級	昭和 27 年
	4	0	4	1	自・情緒学級	令和 4 年
	3	0	3	1	肢体学級	平成 23 年
神 戸 小 学 校	2	0	2	1	知の学級	平成 29 年
	1	2	3	1	自・情緒学級	令和 3 年
元 吉 原 小 学 校	8	3	11	2	知の学級	昭和 46 年
	3	0	3	1	自・情緒学級	令和 5 年
須 津 小 学 校	8	5	13	2	知の学級	平成 4 年
	4	1	5	1	自・情緒学級	平成 27 年
吉永第一小学校	6	3	9	2	知の学級	平成 27 年
	1	0	1	1	自・情緒学級	平成 27 年
原 田 小 学 校	3	2	5	1	知の学級	昭和 36 年
	2	1	3	1	自・情緒学級	令和 2 年
大淵第一小学校	4	6	10	2	知の学級	昭和 50 年
	2	1	3	1	自・情緒学級	平成 23 年
県立吉原林間学園	15	6	21	4	自・情緒学級	昭和 37 年
富士第一小学校	7	1	8	1	知の学級	昭和 44 年
	3	1	4	1	自・情緒学級	平成 30 年
富士第二小学校	5	5	10	2	知の学級	昭和 34 年
	4	1	5	1	自・情緒学級	平成 21 年
田 子 浦 小 学 校	8	4	12	2	知の学級	昭和 39 年
	4	2	6	1	自・情緒学級	令和 4 年
岩 松 小 学 校	3	4	7	1	知の学級	昭和 39 年
鷹 岡 小 学 校	5	5	10	2	知の学級	昭和 36 年
	4	0	4	1	自・情緒学級	令和 6 年
広 見 小 学 校	11	6	17	3	知の学級	昭和 60 年
	3	6	9	2	自・情緒学級	平成 5 年
丘 小 学 校	18	2	20	3	知の学級	平成 29 年
	6	0	6	1	自・情緒学級	令和 2 年
富士見台小学校	4	1	5	1	知の学級	平成 24 年
	1	1	2	1	自・情緒学級	令和 7 年
富 士 南 小 学 校	17	4	21	3	知の学級	平成 18 年
	10	1	11	2	自・情緒学級	令和 3 年
天 間 小 学 校	1	1	2	1	知の学級	平成 26 年
	2	1	3	1	自・情緒学級	平成 28 年
岩 松 北 小 学 校	7	5	12	2	知の学級	平成 21 年
	12	1	13	2	自・情緒学級	令和 2 年
富士中央小学校	5	4	9	2	知の学級	令和 2 年
青 葉 台 小 学 校	5	6	11	2	知の学級	令和元年
	5	2	7	1	自・情緒学級	令和 6 年
富士川第一小学校	4	3	7	1	知の学級	昭和 39 年
	3	0	3	1	自・情緒学級	平成 14 年
富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校)	5	2	7	1	知の学級	平成 29 年
計	275	111	386	74		

イ 中学校特別支援学級一覧

令和8年5月1日現在

学 校 名	生 徒 数			学級		設置年度
	男	女	計	数	障害区分	
吉原第一中学校	6	6	12	2	知的学級	昭和29年
	10	0	10	2	自・情緒学級	平成14年
吉原第二中学校	7	4	11	2	知的学級	昭和49年
	3	1	4	1	自・情緒学級	令和7年
吉原第三中学校	7	5	12	2	知的学級	平成28年
	4	1	5	1	自・情緒学級	令和5年
元吉原中学校	0	2	2	1	知的学級	令和元年
	2	0	2	1	自・情緒学級	令和6年
須津中学校	5	5	10	2	知的学級	平成7年
	2	1	3	1	自・情緒学級	平成28年
大淵中学校	7	6	13	2	知的学級	平成17年
	0	0	0	0	自・情緒学級	平成26年
県立吉原林間学園	6	6	12	2	自・情緒学級	昭和58年
富士中学校	8	8	16	3	知的学級	昭和41年
	5	0	5	1	自・情緒学級	令和2年
	0	1	1	1	肢体学級	平成28年
田子浦中学校	3	2	5	1	知的学級	昭和48年
	1	0	1	1	自・情緒学級	令和5年
岩松中学校	4	2	6	1	知的学級	昭和42年
富士南中学校	10	4	14	2	知的学級	昭和37年
	10	1	11	2	自・情緒学級	令和4年
鷹岡中学校	4	0	4	1	知的学級	昭和38年
	1	3	4	1	自・情緒学級	平成29年
岳陽中学校	8	3	11	2	知的学級	平成5年
	3	0	3	1	自・情緒学級	平成19年
吉原北中学校	4	0	4	1	知的学級	平成25年
	4	0	4	1	自・情緒学級	令和6年
富士川第一中学校	2	0	2	1	知的学級	昭和42年
	2	1	3	1	自・情緒学級	平成16年
富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二中学校)	1	3	4	1	知的学級	令和4年
	0	1	1	1	自・情緒学級	令和7年
計	129	66	195	42		

⑤ 学校体育

ア 小学校（令和8年度）

事業名	期間	参加校	会場	内容
体力アップコンテスト	令和8年5月 ～令和9年1月	26校	各小学校	みんなで8の字とび・ドッジボールラ リー・ジャンプ・リレー・ダンス等

イ 中学校（令和8年度）

事業名		期間	参加人員	会場	内容
大 会	中学校総合 体育大会	6/13～ 9/19 ※5/1 現在	約 4,100 人	富士総合 運動公園他	野球・ソフトテニス・バレーボール・ 卓球・バスケットボール・サッカー・ 剣道・水泳・陸上競技・駅伝

ウ 富士市小中学校 新体力テストの結果

小学校（令和7年度）

	5年生		6年生	
	男子	女子	男子	女子
握力(kg)	○16.78	○16.54	○20.21	18.97
上体起こし(cm)	△18.59	△17.45	△20.31	△18.19
長座体前屈(cm)	△33.07	△36.96	△35.32	△39.36
反復横とび(回)	△39.49	△36.39	△43.02	△39.82
20mシャトルラン(回)	△47.32	△36.49	△52.88	△39.16
50m走(秒)	△9.53	△9.85	△9.07	△9.46
立ち幅とび(cm)	153.51	△142.68	△162.49	△149.81
ソフトボール投げ(m)	△19.65	△12.56	△23.02	△14.88

○県と全国の平均を上回っている。 △県と全国の平均を下回っている。

中学校（令和7年度）

	1年生		2年生		3年生	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
握力(kg)	○26.48	○23.81	○32.53	○25.40	○38.22	○27.40
上体起こし(cm)	△23.53	△19.83	△26.60	△20.69	○30.18	△22.77
長座体前屈(cm)	42.75	46.35	○48.71	49.78	○54.25	○53.93
反復横とび(回)	△48.98	△44.22	△52.07	△43.74	△55.91	△46.28
持久走(秒)	△434.67	313.56	△400.45	△315.61	380.36	301.91
50m走(秒)	○8.34	○9.02	○7.76	△8.95	○7.28	8.68
立ち幅とび(cm)	○192.00	○171.21	○210.01	172.46	○226.24	○177.78
ハンドボール投げ(m)	○19.63	○12.35	○22.50	△13.07	○25.64	○14.55

○県と全国の平均を上回っている。 △県と全国の平均を下回っている。

⑥ 学校保健

ア 重点目標

教育活動全体の中で進める健康・安全教育の推進

(7) 体力の向上

子ども自らが挑む身体活動（一人一人にめあてを持たせる）

体力作りの中核となる体育学習（活発な身体活動の実践）

(4) 保健指導

生活に生かされる指導（実践の具体的な方法を見つけさせる）

習慣化を図る指導（継続的に繰り返し、保護者との連携を取る）

(7) 安全指導

実践に結びつく指導（訓練や練習の場を作る）

避難訓練の充実（多様な場面を計画的に設定）

イ 健康・安全の指導に関すること

(7) 学校保健：学校感染症等の事後処理、保健主事・養護教諭研修会、医薬品等の購入・配布

(4) 学校環境衛生：学校環境衛生の諸検査・水質検査（上水道の日常検査、プール水の検査）

(7) 統計調査研究：研究資料の作成（スポーツ振興センター・学校保健・学校環境衛生）

(1) 児童・生徒及び教職員の健康診断：児童生徒の諸検査（尿・歯・心臓病検診・小児生活習慣病予防他）、教職員の健康診断、事後措置の徹底

(7) 学校医・学校歯科医・学校薬剤師：委嘱・職務準則

(7) 自然教室事業：みどりの学校・健康教室の実施

(7) 学校保健会：学校保健会理事会、県学校保健大会、講演会開催

(7) スポーツ振興センター：給付契約・災害給付申請・支払い・保護者負担金徴収事務

ウ 小・中学校在学者の体位比較（身長・体重）

令和 7 年度

区分			男			女		
			全国	県	富士市	全国	県	富士市
身長 (cm)	小学校	1 年	116.7	116.2	116.4	115.8	115.5	115.5
		2 年	122.6	122.4	122.3	121.8	121.5	121.1
		3 年	128.5	128.5	128.3	127.7	127.6	127.4
		4 年	134.0	133.1	133.6	134.1	133.4	133.9
		5 年	139.7	138.8	139.6	141.1	140.5	140.8
		6 年	146.0	145.5	146.3	147.8	147.5	147.1
	中学校	1 年	154.0	153.1	153.4	152.3	151.7	152.2
		2 年	161.1	160.7	160.6	155.0	154.6	154.1
		3 年	166.1	165.5	166.0	156.4	156.1	155.8
体重 (kg)	小学校	1 年	21.4	21.1	21.1	21.0	20.8	20.7
		2 年	24.2	24.0	23.7	23.7	23.5	23.2
		3 年	27.6	27.4	27.2	26.9	26.6	26.5
		4 年	31.2	30.7	30.6	30.5	30.0	30.5
		5 年	35.2	34.4	34.7	35.0	34.3	34.6
		6 年	39.6	39.1	39.8	40.1	39.7	39.5
	中学校	1 年	45.3	44.2	44.8	44.4	43.7	44.5
		2 年	50.5	49.8	50.5	47.5	47.2	47.1
		3 年	55.0	54.1	54.4	49.6	49.3	48.9

※国、県平均は令和 6 年度平均値

エ 災害の種類別発生状況（件）

令和 7 年度

区分	骨折	捻挫	脱臼	挫傷・打撲	靱帯損傷・断裂	挫創	切創・刺創	割創・裂創	擦過傷	熱傷・火傷	歯牙破折	その他	合計
小学校	112	49	13	202	8	23	10	5	15	5	9	63	514
中学校	101	81	3	112	15	7	6	3	2	2	0	32	364
高等学校	18	20	4	27	13	2	0	0	1	0	2	11	98
合計	231	150	20	341	36	32	16	8	18	7	11	106	976

オ 災害発生の場所（件）

令和 7 年度

校 種 別 場 所 別		小学校	中学校	高等学校	合 計
学 校 内	教 室	130	34	0	164
	実 習 実 験 室	7	6	0	13
	体 育 館 ・ 屋 内 運 動 場	56	142	12	210
	講 堂	0	0	0	0
	遊 戯 室	0	0	0	0
	廊 下	31	13	1	45
	昇 降 口 ・ 玄 関	18	2	0	20
	階 段	30	7	0	37
	ベ ラ ン ダ	0	0	0	0
	屋 上	0	0	0	0
	便 所	1	0	0	1
	そ の 他	1	0	0	1
	小 計	274	204	13	491

	校舎外	運 動 場 ・ 校 庭	156	97	56	309
		プ ル	7	2	1	10
		排 水 溝	1	1	0	2
		手 足 洗 場	0	1	0	1
		水 飲 み 場	1	0	0	1
		農 場	1	0	0	1
		そ の 他	6	1	1	8
		小 計	172	102	58	332
学 校 外		道 路	61	10	8	79
		公 園 ・ 遊 園 地	0	2	0	2
		運 動 場 ・ 競 技 場	1	19	14	34
		体 育 館	0	21	4	25
		山 林 野	2	1	1	4
		海 ・ 湖 ・ 沼 ・ 池	0	1	0	1
		河 川	0	0	0	0
		そ の 他	4	4	0	8
		小 計	68	58	27	153
合 計		514	364	98	976	

カ 災害発生の時

令和7年度

区分	内容	小学校		中学校		高等学校		合 計	
		件数	率 (%)	件数	率 (%)	件数	率 (%)	件数	率 (%)
各教科等	各教科、総合的な学習の時間等	169	32.9	122	33.5	11	11.2	302	30.9
特別活動 (除学校行事)	学級（ホームルーム）活動、給食指導、日常の清掃、クラブ活動等	48	9.3	15	4.1	1	1.0	64	6.5
学校行事	運動会・体育祭、遠足、修学旅行、その他集団宿泊的行事等	10	1.9	12	3.4	1	1.0	23	2.4
課外指導	部活動、林間学校等	1	0.2	154	42.3	77	78.7	232	23.8
休憩時間	昼食時休憩時間中、始業前・授業終了後の特定時間中等	227	44.2	50	13.7	1	1.0	278	28.5
通学中等	登校中、下校中等	59	11.5	11	3.0	7	7.1	77	7.9
合 計		514		364		98		976	

※件数は、給付申請があったもの

※率は、小数第二位を四捨五入して算出

⑦ 学校給食

ア 重点目標 心を育む楽しい給食

(7) ゆとりある給食時間：落ちついた雰囲気です食事を楽しむ

(4) 全校職員の共通理解に基づいた給食指導：安全指導・衛生的な習慣・食事マナー

(9) 楽しい給食時間の工夫：心ひらく時間の中で食物と健康に関心を持つ



「ふじっぴー給食」献立

地場産物を使用することにより、児童生徒の静岡県への愛着を育てることを目的とした献立

イ 学校給食の概要

(7) 給食実施の沿革

- 昭和23年 ミルク給食、みそ汁給食開始
- 昭和33年 週5回のパン・牛乳・おかずの完全給食に切り替え始まる。
- 昭和44年 ソフト麺導入
- 昭和47年 小・中学校全校で完全給食が実施される。
- 昭和48年 富士市学校給食会設立
- 昭和55年 米飯給食週2回実施
- 昭和56年 第1回富士市学校給食展開催
- 昭和62年 米飯給食週2.5回全校実施・ポリプロピレン食器導入
- 平成2年 岩松小に初めてランチルーム設置・富士市学校給食検討委員会設立
- 平成4年 全校で米飯給食週3回実施・焼物機導入
- 平成12年 生ゴミ処理機導入開始（伝法小・富士南中学校から）
- 平成13年 真空冷却機導入開始・給食作業にドライ運用導入
- 平成20年 完全ドライ方式の給食棟が伝法小学校に建つ。（9月～）
11月1日合併により富士川学校給食センター（小2校・中2校）が加わる。
- 平成21年 学校における食育の推進（学校給食法改正）
- 平成25年 生ゴミ処理プラントによるリサイクル処理開始
- 平成28年 完全ドライ方式の給食室を岩松小学校改築に合わせ整備
- 令和2年 富士市学校給食運営審議会設立
- 令和5年 学校給食費の公会計化開始
- 令和8年 小学校の給食費無償化実施

(4) 学校給食の指導に関すること

- 学校給食の指導—栄養士未配置校への定期訪問、給食施設・設備の点検並びに衛生管理指導
- 栄養士・調理員の研修指導—栄養教諭・学校栄養職員研修会、調理主任研修会、調理員実技研修、
- 栄養士・調理員の健康管理—保菌検査・学校給食日常点検表の実施指導
- 調査統計—給食実施状況調査、朝食摂取状況調査、地場産品使用状況調査、生ごみ量調査等
- 給食施設・設備—備品の把握・購入・修繕に関すること
- 富士市学校給食運営審議会—学校給食の運営に関すること、給食費に関すること

ウ 実施状況

令和8年度

区 分	小 学 校	中 学 校
実 施 校	24 校（単独校調理場方式）	13 校（単独校調理場方式）
	2 校（共同調理場方式）	2 校（共同調理場方式）
栄 養 士	17 人（内栄養教諭 8 人）	4 人（内栄養教諭 3 人）
調 理 員	140 人	73 人
	13 人（富士川学校給食センター）	
給食予定回数	180 回	
米飯実施状況	週 3.0 回	
一食当たり単価	379 円(0 円)※	449 円(354 円)※

※（ ）は、保護者負担分

エ 学校給食費の移り変わり

年度		H19	H20 (10 月～)	H21 (センター)	H22～27 (センター)	H28～30 (センター)	R1～4 (センター)	R5～ (保護者負担分)	R7 (保護者負担分)	R8 (保護者負担分)
給食費 月額 円	小学校	4,000	4,000 (4,500)	4,500 (4,300)	4,500 (4,300)	4,500 (4,300)	4,900 (4,700)	4,935 (4,485)	5,340 (4,485)	5,685 (0)
	中学校	4,740	4,740 (5,340)	5,340 (5,100)	5,340 (5,100)	5,340 (5,100)	5,800 (5,560)	5,835 (5,310)	6,330 (5,310)	6,735 (5,310)
一食当たり 単価 円	小学校	243	243 (274)	274 (261)	272 (260)	275 (263)	299 (287)	329 (299)	356 (299)	379 (0)
	中学校	288	288 (325)	325 (310)	323 (308)	326 (312)	354 (340)	389 (354)	422 (354)	449 (354)
年間給食回数 回		181	181	181	182	180	180	180	180	180

オ 児童・生徒の栄養摂取状況

令和8年5月

区 分	栄 養 量			
	小 学 校 (中学年)		中 学 校	
	基 準	富 士 市	基 準	富 士 市
エネルギー kcal	640		830	
たんぱく質 g	21.1～32.5		27.0～41.5	
脂 肪 g	14.4～21.7		18.4～27.7	
カルシウム mg	350		450	
鉄 分 mg	3.0		4.5	
ビタミンA (μgRE)	200		300	
ビタミンB ₁ mg	0.40		0.50	
ビタミンB ₂ mg	0.40		0.60	
ビタミンC mg	25		35	
食 物 繊 維 g	4.5 以上		7.0 以上	

カ 児童生徒の食品摂取状況 (g) 米飯週3回食

令和8年5月

区 分	小 学 校 (中学年)		中 学 校	
	基 準	富 士 市	基 準	富 士 市
米・大麦等	46	36.8	66	52.2
小麦粉 (パン・めん他)	17	21.7	28	25.6
魚介類・獣鳥類・卵類	37	36.8	52	49.2
乳 類	210	218.6	212	221.6
豆 類・豆 製 品	21	3.3	24	2.6
いも及び澱粉	30	14.2	35	17.9
野菜・きのこ類	97	83.8	121	104.6
果 実 類	32	2.5	40	2.7
油 脂 類	3.0	5.5	4.0	6.7
砂 糖 類	3.0	5.9	4.0	7.3
種 実 類	3.0	0.2	3.5	0.3
藻 類	2.0	1.6	4.0	1.9

(2) 特別支援学校

① 富士市内特別支援学校一覧

令和8年5月1日現在

学校名	区分	所在地	電話番号	開校年月	児童生徒数 (人)	教員数 (人)
静岡県立富士特別支援学校 (小学部)	大淵 3773 番地の 1	36-2345	平成 2 年 4 月		166	71
静岡県立富士特別支援学校 (中学部)					89	35
静岡県立富士特別支援学校 (高等部)				平成 3 年 4 月	127	53
静岡県立富士特別支援学校富士東分校	今泉 2921 番地	21-2002	令和 5 年 4 月		41	16
計					423	175

※富士特別支援学校には、小学部・中学部・高等部全体に対し、校長・副校長・教頭・養護教諭 2 人、計 5 人が在籍している。上記の表には入っていない。

(3) 高等学校

① 富士市内高等学校一覧

令和8年5月1日現在

区分 学校名		所在地	電話番号	開校年月	生徒数（人）		学級数	教員数 （人）
富士市立高等学校		比奈 1654 番地	34-1024	昭和37年 4 月	全日制	686	18	66
静岡県立吉原工業高等学校		比奈 2300 番地	34-1045	昭和32年 4 月	全日制	422	13	55
静岡県立吉原高等学校		今泉 2160 番地	52-1440	明治42年 4 月	全日制	453	12	39
静岡県立富士東高等学校		今泉 2921 番地	21-4371	昭和53年 4 月	全日制	487	12	38
静岡県立富士高等学校		松本 17 番地	61-0100	大正12年 4 月	全日制	759	19	49
					定時制	75	5	9
富士見高等学校（私立）		平垣町 1 番 1 号	61-0250	昭和 3 年 4 月	全日制	910	34	89
計					3,792		113	355

② 富士市立高等学校

ア 学校の概要

校 長 櫻井 祥行

所在地 静岡県富士市比奈 1654 番地

位 置 東経 38° 43' 43" 北緯 35° 9' 50" 海拔 27m

課 程 全日制 男女共学

学 科 総合探究科・ビジネス探究科・スポーツ探究科

創 立 昭和 37 年 4 月 1 日

イ 校地

区 分	建物敷地	運動場	第二運動場	テニスコート	プール	その他	合 計
面積(㎡)	14,928	14,450	19,105	2,574	1,795	4,112	56,964

ウ 主な施設

区 分	校舎棟	特別教室棟	体育館	錬成館	秀麗館	室内練習場
面積(㎡)	8428.19	2310.42	3808.66	1116.89	702.04	498.00



校 舎



運 動 場

エ 学校の沿革

昭和36年3月17日	吉原市立商業高等学校設置、吉原市議会にて議決、定員200人(商業科5クラス)
昭和37年4月1日	吉原市立商業高等学校設立認可(静岡県)
昭和37年4月10日	開校並びに入学式、新入生244人、翌11日より穆清中学にて授業開始
昭和37年11月27日	校舎落成式
昭和38年4月	定員300人(商業科7クラス)
昭和41年4月	普通課程併設、定員350人(普通科2クラス、商業科6クラス)
昭和41年11月1日	合併に伴い、富士市立吉原商業高等学校となる
昭和45年7月	校歌制定
昭和46年4月	定員360人(商業科8クラス)
昭和47年4月	普通科廃止
昭和48年4月	小学科制発足、定員360人(営業科2、経理科2、事務科4クラスの3科を設置)
昭和50年3月	商業棟竣工
昭和61年4月	小学科制解消、定員360人(商業科Aコース6、商業科Bコース1、情報処理コース1クラスの3コースに変更)、制服制定
昭和63年4月	小学科制廃止
平成元年3月	第二運動場(野球場)落成
平成2年4月	総合実践コンピューター導入、定員450人(商業科Aコース6、商業科Bコース1、情報処理コース2クラス)
平成3年4月	定員360人(商業科Aコース5、商業科Bコース1、情報処理コース2クラス)
平成5年3月	新校舎竣工
平成5年9月	新校舎落成式
平成6年4月	定員336人(商業経済コース5、進学コース1、情報処理コース2クラスに変更)
平成7年4月	定員328人
平成8年4月	定員320人
平成9年10月	創立35周年記念式典挙行
平成11年4月	校内ネットワーク導入、定員320人(商業経済コース4、進学コース1、情報処理コース3クラスに変更)
平成14年4月	定員280人(商業経済コース4、進学コース1、情報処理コース2クラスに変更)
平成15年4月	定員280人(ビジネスコース4、進学コース1、情報処理コース2クラスに変更)
平成16年4月	定員240人(ビジネスコース3、進学コース1、情報処理コース2クラスに変更)
平成19年5月	重層屋内運動場竣工
平成20年4月	定員200人
平成21年4月	定員240人
平成21年6月	富士市立高等学校開設準備室設置
平成21年9月	寄宿舎(秀麗館)竣工
平成22年9月	全天候型(人工芝)運動場改修
平成23年4月	富士市立高等学校に名称変更、定員240人(総合探究科3、ビジネス探究科2、スポーツ探究科1クラスの3学科を設置)、制服改定
平成23年4月	富士市立高等学校教育推進室設置
平成23年11月	創立50周年記念式典挙行
平成25年3月	商業科閉科
平成25年6月	学校運営協議会設置
平成25年7月	新錬成館竣工
平成30年3月	テニスコート(砂入り人工芝)・照明灯改修
令和2年3月	感染症対策により臨時休校措置がとられる
令和2年5月	在宅生徒とのオンラインによるホームルームや授業形式の学習を行う
令和5年1月	校内LAN環境整備
令和5年4月	全生徒へタブレット型パソコンを貸与
令和6年3月	校内照明・グラウンド照明LED化
令和6年4月	教員の多忙化解消及びテスト結果の有効活用のため、テスト自動採点支援システムを導入
令和8年3月	屋外運動場人工芝改修

オ 生徒数

令和8年5月1日現在

学年 科	1 年				2 年				3 年				合 計			
	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計
総合探究	3	54	53	107	3	66	57	123	3	63	50	113	9	183	160	343
ビジネス探究	2	20	40	60	2	29	53	82	2	24	55	79	6	73	148	221
スポーツ探究	1	37	5	42	1	35	5	40	1	33	7	40	3	105	17	122
合計	6	111	98	209	6	130	115	245	6	120	112	232	18	361	325	686

カ 出身中学校別生徒数

令和8年5月1日現在

出身中学校	学 年			計
	1 年	2 年	3 年	
吉 原 一	12	21	14	47
吉 原 二	20	28	32	80
吉 原 三	13	15	8	36
元 吉 原	5	6	6	17
吉 原 東	0	0	5	5
須 津	11	21	16	48
大 淵	5	1	9	15
富 士	10	9	13	32
富 士 南	6	9	3	18
田 子 浦	9	10	8	27
岩 松	2	16	9	27
鷹 岡	3	1	5	9
岳 陽	15	20	21	56
吉 原 北	20	16	21	57
富 士 川 一	4	3	4	11
富 士 川 二	1	1	2	4
富 士 見	0		0	0
市 内 計	136	177	176	489
富 士 宮 市	4	10	1	15
沼 津 市	9	14	14	37
静 岡 市	9	2	3	14
上 記 外 県 内 市 町	7	11	15	33
県 外	44	31	23	98
市 外 計	73	68	56	197
総 計	209	245	232	686

キ 進路状況

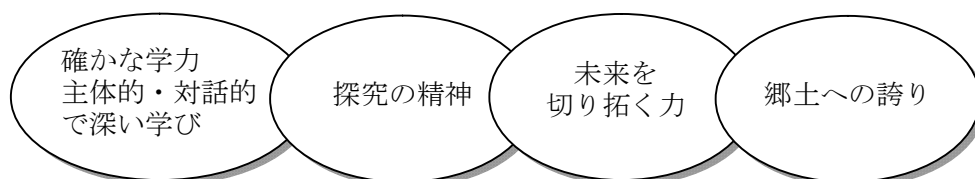
令和8年5月1日現在

区分		年度	令和5年度			令和6年度			令和7年度		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
大学	四年制大学		76	23	99	61	29	90	73	45	118
	短期大学		0	9	9	2	6	8	2	11	13
専修・各種学校			20	37	57	16	43	59	15	40	55
就職	民 間		8	15	23	14	26	40	11	14	25
	公務員		3	0	3	1	1	2	1	2	3
進 学 準 備			3	2	5	1	1	2	2	0	2
そ の 他			1	1	2	5	1	6	1	2	3
計			111	87	198	100	107	207	105	114	219

ク 教育方針

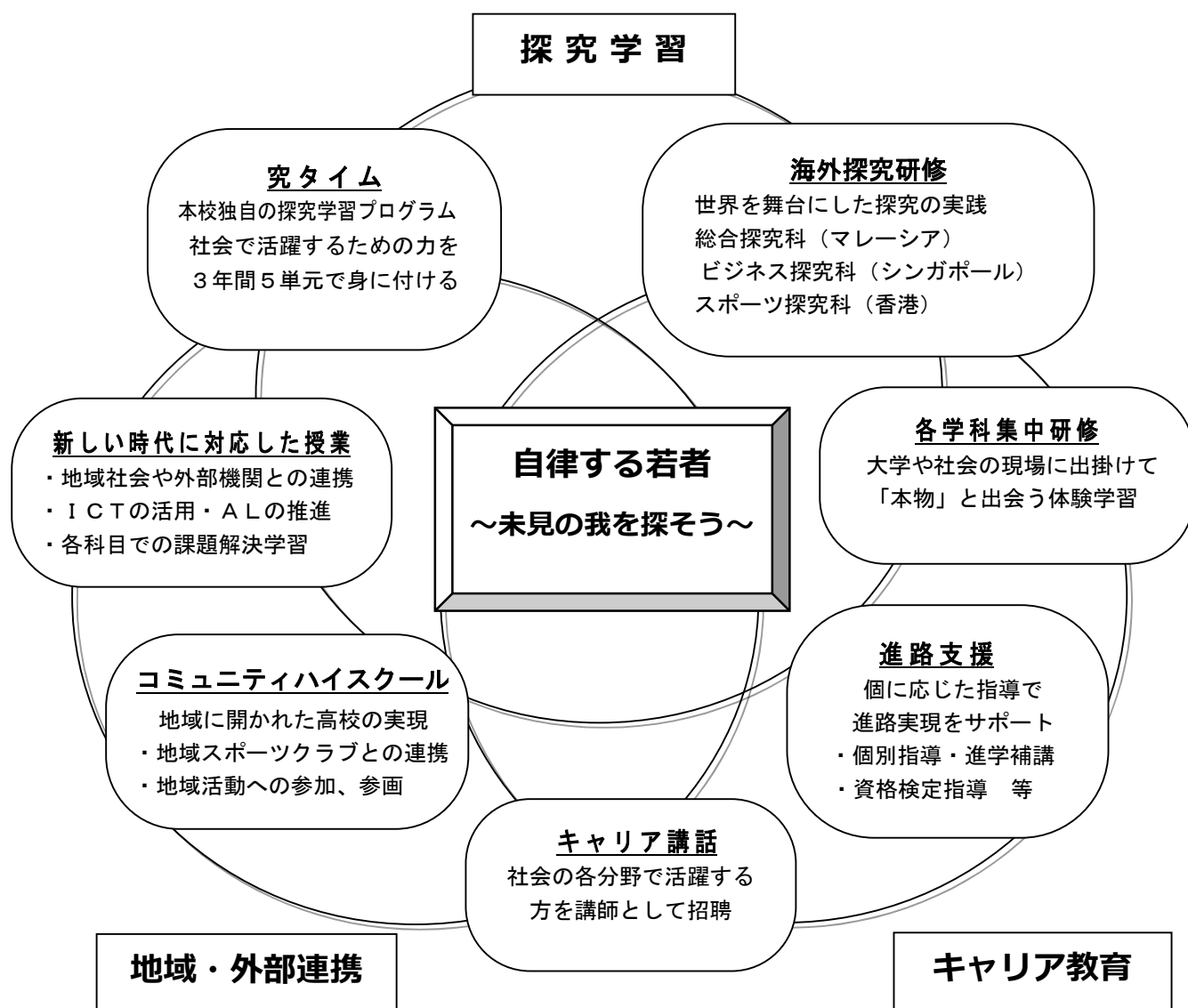
(ア) 本校のコンセプト：C D I

郷土愛を胸に、夢の実現にチャレンジし、様々な世界で活躍する若者を育成する。



- **Community** (コミュニティハイスクール)
地域、学校との連携を図り「自律する若者」を育てる高校
- **Dream** (ドリカムハイスクール)
夢を持ち続け、生涯にわたって学び続ける力をはぐくむ夢実現高校
- **Inquiry** (探究ハイスクール)
物事の本質を追究し、自分自身と向かい合い、向上心と探究心に満ちた高校

(イ) 特徴ある教育スタイル



ケ 目指す学校像

(7) 教育目標

自律する若者の育成

CDI（「コミュニティハイスクール」、「ドリカムハイスクール」、「探究ハイスクール」）の実現に向け、自然と地域を愛し、富士市や社会に貢献できる人材を輩出する。

- ・コミュニティハイスクール
人との関わりを大切にし、地域社会で主体的に活躍する生徒を育てる
- ・ドリカムハイスクール
人生の目標や夢を持ち、その実現に向けて挑戦する生徒を育てる
- ・探究（インクワイアリー）ハイスクール
探究の見方と考え方を働かせ、本質を追求し、課題を解決する生徒を育てる

(イ) 教育目標具現化の柱

- ・ 基本的生活習慣、社会人としての資質・能力を身に付けるため、授業や部活動、学校行事の充実を図り、「豊かな人間性」や「良好な人間関係」を育てる学校（主体性、協働する力）
- ・ キャリア教育を推進することにより、生徒が夢を持ち、「確かな学力」を身に付けることで、進路実現を支援する学校（チャレンジ精神、実行力）
- ・ 魅力ある専門教育と学科の特色を活かし、教育課程の充実に努め、「主体的・対話的で深い学び」による「魅力ある授業」を展開できる学校（論理的思考力、傾聴力、課題解決力）
- ・ 家庭・PTA・地域と連携した教育活動を推進し、「社会に開かれた教育」を実現するとともに、保護者や地域から信頼される学校
- ・ 教育環境の整備・充実及び予算の適正かつ効率的な執行を目指す学校



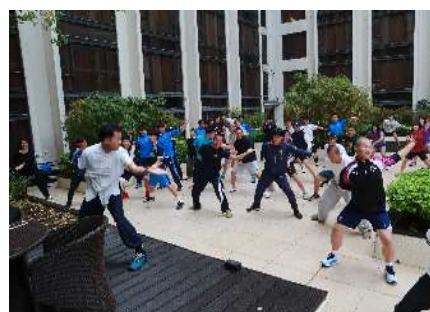
海外探究研修

総合探究科：インターナショナル
スクールにて交流（マレーシア）



海外探究研修

ビジネス探究科：鹿島ディベ
ロップメントにて研修（シンガポ
ール）



海外探究研修

スポーツ探究科：太極拳の体験的
学び（香港）



オープンスクール Fuji Quest
学校開放と探究学習の発表



市役所プラン（前期発表会）
市職員、有識者、企業、地域の方々
へ富士市を良くする提案の発表



多世代交流サッカー
小学生からシニア世代まで、幅広
い地域の方々が参加して交流

【(関連事業) 幼稚園】

市立幼稚園では、幼児期に思い切り遊ぶことで、その後の学びや創造性が豊かになることが、文部科学省の幼稚園教育要領に示されていることから、教科書を使わず、遊びを通しての総合的な指導を行っている。子ども自らが興味や関心をもち、身の回りの「ひと・もの・こと」に関わりながら「遊び」を展開することは、小学校以降で育もうとする「生きる力」の基盤になる。

本市では、機構改革により、平成20年度に市立幼稚園が教育委員会から市長事務部局こども保育科(現)保育幼稚園課へ移管された。現在は、関連事業として連携を図っている。

① 園児及び教職員数

令和8年5月1日現在

ア 市立幼稚園、認定こども園

(子ども・子育て支援法第19条第1号・第2号に規定されている子どもの数)

園名	学級	総数			3歳児			4歳児			5歳児			教員	職員	計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
昭和	3	17	12	29	2	1	3	7	6	13	8	5	13	10	1	11
田子浦	5	37	51	88	11	16	27	15	22	37	11	13	24	19	1	20
岩松	3	19	18	37	3	4	7	8	3	11	8	11	19	12	1	13
天間	3	25	16	41	7	6	13	4	6	10	14	4	18	9	1	10
松野	5	47	29	76	12	8	20	19	14	33	16	7	23	28	2	30
富士川	3	23	25	48	4	8	12	10	8	18	9	9	18	13	2	15
公立計	22	168	151	319	39	43	82	63	59	122	66	49	115	91	8	99

イ 私立幼稚園、認定こども園

園名	学級	総数			3歳児			4歳児			5歳児			教員	職員	計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
吉原聖母	4	33	17	50	6	7	13	11	4	15	16	6	22	10	1	11
鈴川	3	17	16	33	6	6	12	8	5	13	3	5	8	13	5	18
須津	5	37	42	79	12	13	25	13	17	30	12	12	24	19	3	22
いまいづみ	9	80	107	187	28	32	60	28	37	65	24	38	62	21	2	23
曙	10	96	104	200	28	32	60	39	35	74	29	37	66	41	1	42
神戸	4	17	23	40	6	9	15	4	6	10	7	8	15	12	2	14
富士ふたば	12	134	122	256	36	40	76	50	40	90	48	42	90	43	4	47
たかおかこども園	9	72	91	163	21	24	45	19	35	54	32	32	64	36	8	44
するが	13	144	131	275	40	50	90	50	45	95	44	46	90	25	1	26
わかば	10	72	76	148	26	19	45	26	21	47	20	36	56	26	5	31
富士リズム	10	79	88	167	24	31	55	30	27	57	25	30	55	27	6	33
ゆきよし	5	43	42	85	15	13	28	16	15	31	12	14	26	16	1	17
藤田	4	29	32	61	7	9	16	8	7	15	14	16	30	10	2	12
みのる	7	46	47	93	16	14	30	12	14	26	18	19	37	30	10	40
富士中央	3	46	44	90	15	9	24	14	20	34	17	15	32	21	0	21
富士光明	6	44	51	95	14	16	30	13	16	29	17	19	36	14	1	15
さくら台	5	39	37	76	7	10	17	15	16	31	17	11	28	29	2	31
富士ふたばこども園	3	36	30	66	14	8	22	10	11	21	12	11	23	22	1	23
杉の木保育園	3	38	28	66	12	11	23	12	10	22	14	7	21	23	7	30
あつはらこども園	4	35	31	66	9	13	22	11	11	22	15	7	22	31	5	36
中野保育園	3	26	19	45	10	5	15	6	6	12	10	8	18	15	4	19
ひろみ保育園	4	41	43	84	14	10	24	13	16	29	14	17	31	27	1	28
私立計	136	1204	1221	2425	366	381	747	408	414	822	420	436	856	511	72	583

(子ども・子育て支援法第19条第1号・第2号に規定されている子どもの数 保育所型認定こども園を除く。)

② 市立幼稚園・こども園一覧

園名	所在地	創立年月	敷地(m ²)	建物面積(m ²)
昭和幼稚園	比奈160番地	昭和27年4月	5,564	1,309
田子浦幼稚園	川成島138番地の10	昭和28年4月	4,573	1,449
岩松幼稚園	松岡804番地	昭和27年4月	4,013	1,415
天間幼稚園	天間1047番地の10	昭和47年4月	3,590	959
松野こども園	北松野1825番地の10	平成28年4月	4,763	1,046
富士川こども園	岩淵107番地	令和7年4月	821	469

③ 教育・研修

ア 指定園研修

富士市立天間幼稚園（令和7年度～令和8年度）

研究テーマ「自己肯定感を高め、豊かな感性と表現力を育む

～「聴いて」「見て」「考える」子を目指して～

イ 指定研修のあゆみ（平成28年度以降）

園 名	主 題	指定年度
昭和幼稚園	思いを伝え合って遊びを楽しむ子にするための援助の工夫	平成29～30年度
岩松幼稚園	豊かなことばを目指して ～思いを出し合える仲間になるための環境の工夫～	令和元～2年度
原田幼稚園	主体的な子どもを育む環境構成～少人数の良さを生かした保育～	令和3～4年度
富士川第一幼稚園	自分の思いや考えを表現できる子を育む～園小を滑らかにつなぐ～	令和5～6年度

④ 市立幼稚園児の体位

令和8年度

区 分		身長（cm）			体重（kg）		
		3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳
平 均	男	96.0	102.4	110.9	14.5	16.1	19.0
	女	94.9	104.4	109.0	14.2	16.4	18.3

⑤ ことばの教室

就学前のことばの発達が気になる子、発音が気になる子、吃音が気になる子など、ことばにまずきのある幼児の相談や指導を行う。市内の幼稚園、保育園及び家庭などから通級可能。昭和幼稚園、田子浦幼稚園、岩松幼稚園及びみなみっこ（南小規模保育所）の4か所にて通級制で開級している。令和8年度から天間幼稚園にてサテライト指導開始。

《通級園児数》

令和8年5月1日現在

区 分	昭和幼稚園			田子浦幼稚園			岩松幼稚園			みなみっこ			天間幼稚園			合計		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
構音障害	25	12	37	6	11	17	22	22	44	4	4	8	2	3	5	57	49	106
ことばのおくれ	3	0	3	2	1	3	4	5	9	1	2	3	0	0	0	10	8	18
吃音	4	0	4	1	1	2	9	7	16	1	0	1	0	1	1	15	8	23
合 計	32	12	44	9	13	22	35	34	69	6	6	12	2	4	6	82	65	147
3歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
4歳	3	6	9	3	5	8	7	7	14	1	1	2	0	2	2	14	19	33
5歳	29	6	35	6	8	14	28	27	55	4	5	9	2	2	4	67	46	113
合 計	32	12	44	9	13	22	35	34	69	6	6	12	2	4	6	82	65	147



（砂場遊び）

「水を流すよ」「いいよ」友達と遊ぶ中で、思考力、協同性、言葉の伝え合いが育っていきます。



（ことばの教室）

どの的にしようかな？楽しく吹く遊びを通して口腔機能を高めています。

3 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

(1) 社会教育

市民一人一人の生きがいきづくりや現代的・地域的課題への対応を目指し、まちづくりセンター講座や市民大学等の多様な学習の機会を提供するとともに、市民の自主的な学びを支援するために、市政いきいき講座等を行っている。

① 社会教育委員会議

社会教育法に基づいて社会教育委員を設置し、教育委員会の諮問機関として、社会教育の推進に関する諸計画等を審議している。学識経験者、学校教育、家庭教育の関係者で構成されている。

令和7年度の内容等

	開催日時・会場	審議・報告事項
第1回	令和7年6月10日（火曜日） 午後1時30分～ 教育プラザ1階 大会議室	・今期社会教育委員会議について ・富士市の社会教育行政について ・社会教育課所管事業について ・令和7年度各種研修会について
第2回	令和7年9月2日（火曜日） 午後1時30分～ 教育プラザ1階 大会議室	・地域人材の確保について ・富士市・雫石町少年交流事業及び無限∞のキズナ事業について ・後期まちづくりセンター講座・青年教養講座について ・事業視察及び研修について（富士市民大学後期講演会等）
第3回	令和8年1月27日（火曜日） 午後1時30分～ 教育プラザ1階 大会議室	・令和8年度 社会教育課主要事業の計画の概要について ・令和8年富士市はたちの記念式典の実施報告について ・令和7年度家庭教育支援交流会の参加について ・委員の改選について

② 富士市民大学

豊かな人づくりを目指し、より高度で専門的な知識を学ぶため、市民大学を開催している。

前期ミニカレッジは、大学教授等と連携を行い、全6講座を開講。後期講演会は、各界の著名人を講師に招き、ロゼシアター大ホールを会場に全6回の講演会を開催した。



富士市民大学前期ミニカレッジ

ア 令和7年度（第31回）富士市民大学前期ミニカレッジ講座内容

科 目	講 師 名	受講生 (人)	会 場
表現力アップ！ 読み聞かせ・話し方講座	フリーアナウンサー・新朗読家 杉山 直	21	富士市教育プラザ
市民歴史講座 「華ひらく出版文化～江戸のメディアの夢 ^{ゆめばなし} ～」	国文学研究資料館 教授 入口 敦志 早稲田大学 演劇博物館 招 聘 研究員 深谷 大 神奈川大学 国際日本学部 准教授 藤澤 茜 静岡市東海道広重美術館 学芸員 山口 拓海	55	富士市教育プラザ
“わかる”と“かわる” 食が与える健康への影響	静岡県立大学 食品栄養科学部 教授 新井 英一 静岡県立大学 薬学部 講師 伊藤 由彦 静岡県立大学 食品栄養科学部 教授 市川 陽子	68	富士市教育プラザ
くらしを豊かに！工学大 国日本の今 ～A I・自動車エネルギー・福祉ロボット～	静岡大学 情報学部 准教授 大木 哲史 静岡理工科大学 理工学部 准教授 野内 忠則 静岡大学 工学部 准教授 伊藤 友孝	34	富士市教育プラザ
支え合う「いのち」の輪 ～生物多様性の危機～	元 常葉大学 社会環境学部 非常勤講師 加須屋 真 常葉大学 社会環境学部 准教授 小杉山 晃一 常葉大学 大学院 環境防災研究所 教授 浅見 佳世	33	富士市教育プラザ
芸術作品からひも解く、近 現代ヨーロッパの文化と 社会	静岡文化芸術大学 文化政策学部 講師 藪田 淳子 静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授 上山 典子 静岡文化芸術大学 文化政策学部 講師 田ノ口 誠悟	41	富士市教育プラザ
合 計 人 数	252 人		

※各講師の肩書は開催年度当初のものです。

イ 令和7年度（第45回）富士市民大学後期講演会講演内容

回	開 催 日	テ ー マ	講 師 名	会 場
1	9月12日（金）	ロシア・ウクライナ戦争と日本の安全保障	東京大学 准教授 小泉 悠	ロゼシアター 大ホール
2	9月25日（木）	自分らしく健康で豊かに生きる	俳優・朗読座主宰 紺野 美沙子	〃
3	10月2日（木）	人生を楽しんだ偉人・奇人	作家 荒俣 宏	〃
4	10月9日（木）	やれる理由こそが着想を生む ～「はやぶさ」、「はやぶさ2」を完遂させた力～	宇宙工学者・工学博士 川口 淳一郎	〃
5	10月22日（水）	一生健康でいるための健康管理のススメ	医師 石原 新菜	〃
6	10月28日（火）	日本経済のゆくえ ～世の中の流れ～	慶應義塾大学大学院 教授 岸 博幸	〃

後期講演会のあゆみ（第 33 回以降の募集定員・受講生数・講座回数及び受講料の推移）

回 数	年 度	募集定員	受講生数	講座回数	受講料	会 場
プレ講演会	平成 25 年度	700 人	507 人	1 回	無料	ロゼシアター 中 ホ ー ル
第 33 回	平成 25 年度	700 人	617 人	7 回	4,000 円	〃
	単発券		38 人		1,500 円	
第 34 回	平成 26 年度	700 人	698 人	7 回	4,000 円	〃
第 35 回	平成 27 年度	700 人	703 人	6 回	3,500 円	〃
第 36 回	平成 28 年度	700 人	525 人	6 回	3,500 円	〃
	単発券		76 人		1,500 円	
第 37 回	平成 29 年度	700 人	491 人	6 回	3,500 円	〃
	単発券		46 人		1,500 円	
第 38 回	平成 30 年度	700 人	647 人	6 回	3,500 円	〃
第 39 回	令和元年度	700 人	725 人	6 回	3,500 円	〃
第 40 回	令和 2 年度	500 人	498 人	2 回	1,500 円	ロゼシアター 大 ホ ー ル
第 41 回	令和 3 年度	700 人	606 人	6 回	3,500 円	〃
第 42 回	令和 4 年度	700 人	879 人	5 回	3,000 円	〃
第 43 回	令和 5 年度	800 人	760 人	6 回	3,500 円	〃
第 44 回	令和 6 年度	800 人	1,017 人	6 回	4,000 円	〃
第 45 回	令和 7 年度	900 人	824 人	6 回	4,000 円	〃

③ 市政いきいき講座

市民と職員との対話を通じて、市民の市政への理解を深めることを目的に、職員が市民、団体等の求めに応じ、指定された会場（市内に限る）へ出向き、市民（10 人以上）に日常業務の説明や情報提供を行っている。

令和 7 年度 開催実績

ジャンル	件 数	人 数	ジャンル	件 数	人 数
市政	3	225	教育文化	20	453
健康・福祉	6	184	生活安全	279	12,263
市民生活	37	1,350	環境	4	252
まちづくり	6	523	計	355	15,250

④ まちづくりセンター講座

各地区まちづくりセンターを会場に、新しい趣味の発見や仲間づくり、教養を深める身近な場を提供することを目的として、乳幼児から高齢者まで幅広い世代の方々を対象にさまざまな分野の講座を開催している。

なお、まちづくりセンター講座については、地区まちづくりセンターにおいて補助執行で実施していたが、令和3年度から教育委員会社会教育課に所管を変更して、以下のような講座区分ごとに実施している。(令和7年度開催実績：322 講座、延受講者数 18,080 人)

ア 人づくり講座

地域の資源や魅力を知る学習や地域の人材を活用した学習、地域活性化に資する学習等を目的として実施。地域の活動に主体的に取り組む人材の育成を図ることをねらいとしている。(令和7年度開催実績：講座数 51 講座、延受講者数 2,610 人)



人づくり講座
今泉「田宿川自然観察の会」



少年教育講座
広見・丘「バードコール」

イ 少年教育講座

主に小学生を対象に、社会生活に必要な能力を養うことや他の年齢層とのつながりを持つこと、また学校ではできない体験学習等を通じて、地域への愛着を養い、将来富士市を背負っていく世代の育成を目的として実施している。活動内容は、食育料理教室、自然遊びや野外活動、環境学習、ブロック合同キャンプ事業などがある。(令和7年度開催実績：講座数 29 講座、延受講者数 2,276 人)

ウ 家庭教育講座

主に1歳から3歳程度までの子どもと保護者を対象に、育児や子どもの健康に関する学習をするとともに、保護者同士が交流を深めることなどを目的としている。主に、子どもとの接し方、自立心、生活習慣等、子どもの教育や健康、性格形成期の問題などを学習する。(令和7年度開催実績：講座数 13 講座、延受講者数 1,128 人)

エ 高齢者講座

高齢者を対象に、健康づくり・仲間づくり・生きがいづくりや社会参加の促進などを目的に開催。主な活動内容は、各種教養講座や健康づくりのための体操等の運動講座、工作など、多様な内容を実施している。(令和7年度開催実績：講座数 25 講座、延受講者数 1,811 人)

オ みんな講座

市内で活動している民間団体が企画・運営を行う、初心者でも気軽に参加できる講座。主に新しい趣味の発見や仲間づくり、教養を深めること等を目的に実施している。地域に根付いた魅力的な講座を目指し、民間団体が得意とする分野の講座を実施している。(令和7年度開催実績：講座数 93 講座、延受講者数 5,495 人)

カ 市民プロデュース講座

市内で活動している団体や市民が企画・運営する講座として実施しており、市民主体の地域づくりや地域の担い手づくりを推進することを目指している。(令和7年度開催実績：講座数 32 講座、延受講者数 1,871 人)

キ オープン自主グループ講座

同じ趣味や興味・関心を持つ仲間が集まり、まちづくりセンターで活動している自主グループが開催する初心者向け体験講座(令和7年度開催実績：講座数 53 講座、延受講者数 1,346 人)

ク 生涯学習人材バンク講座

生涯学習人材バンクの登録講師が企画・運営する講座。初めての方にもわかりやすい初心者向けの内容を中心に実施する。(令和7年度開催実績：講座数 26 講座、延受講者数 1,543 人)



家庭教育講座
今泉「かんがるークラブ」



高齢者講座
吉原「中部教養講座 寿よしわら塾」

⑤ 子育て講演会

小中学校へ入学する子どもを持つ親を対象に、子どもの心理や最近の動向、しつけや問題行動への対処方法などについて学習することで、家庭教育や子育てのあり方を見直す機会を提供する。

小学校 対象者 1,666 人 開催校数 26 校

中学校 対象者 2,098 人 開催校数 15 校

⑥ 家庭教育支援交流会

家庭教育支援に携わる人材同士の交流を目的として、令和4年度から開催している。基調講演やグループワーク等を行い、家庭教育支援について理解を深めていただく機会にもなっている。

開催日：令和7年7月30日(水)、令和8年2月7日(土)

参加者：富士市において家庭教育支援に関わる活動を行っている方、又は関心がある方

(2) 図書館

① 施設設備の概要

ア 富士市立図書館一覧

図書館名		開 館	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	構 造	施 設 の 概 要
中央図書館	本 館	S39. 2. 11 (H7. 10. 4移転)	5, 279. 47	7, 526. 47	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上4階地下1階	全ての資料が1階ワンフロアで利用でき、障害者、高齢者等に配慮した施設
	分 館	H12. 8. 10	1, 865. 08	2, 904. 67	鉄骨造2階	学習室と作品を展示できる市民ギャラリー等のある施設
	今 泉 分 室	H12. 4. 16	今泉まちづくりセンター敷地内	359. 83	鉄筋コンクリート造3階	今泉まちづくりセンター分館の図書施設で、児童をはじめ地域の人たちに親しまれている
	田子浦 分 室	H15. 4. 12	田子浦まちづくりセンター敷地内	191. 80	鉄筋コンクリート造2階 (図書館部分は、1階)	田子浦まちづくりセンターに併設の図書施設で、乳幼児や児童に親しまれている
	大 淵 分 室	H20. 4. 20	大淵まちづくりセンター敷地内	220. 50	鉄筋コンクリート造2階 (図書館部分は、1階)	大淵まちづくりセンターに併設の図書施設で、児童や生徒に親しまれている
	富士川 分 室	H20. 11. 5	富士川ふれあいホール敷地内	229. 99	鉄筋コンクリート造3階 (図書館部分は、1階)	富士川ふれあいホールに併設の図書施設で、郷土の特色を活かし、地域の人たちに親しまれている
西 図 書 館		S55. 11. 25 (H20. 4. 4移転)	富士市交流プラザ敷地内	1, 259. 02	鉄筋コンクリート造3階 (図書館部分は、1階)	富士市交流プラザに併設の図書施設で、地域の人や通勤、通学の人たちに親しまれている
東 図 書 館		S62. 4. 1	吉永まちづくりセンター敷地内	321. 73	鉄筋コンクリート造2階 (図書館部分は、1階)	吉永まちづくりセンターに併設された図書館で、児童をはじめ地域の人たちに親しまれている
富 士 文 庫		H 2. 4. 18	鷹岡市民プラザ敷地内	823. 05	鉄筋コンクリート造2階	旧私立「富士文庫」の蔵書を引き継ぎ、貴重な資料を多く所蔵している

イ 移動図書館 (BM : Book Mobile)

開 設 昭和43年5月1日
 更 新 令和5年2月1日 スズキキャリィ(ガソリン車)2台に更新し使用開始
 巡回方法 約500冊を搭載し市内62か所を巡回
 施設配本 まちづくりセンター18か所、高齢者施設3か所に配本

ウ でごいち文庫

開 設 昭和53年4月17日
 施 設 入山瀬公園内のD51機関車に隣接している客車を改造した施設

② 主な出来事と取組

中央図書館(4分室を含む)と地域館3館の1年間の入館者数838,134人、資料の貸出者数は398,676人、また、貸出点数は1,600,089点(貸出点数には電子書籍を含む)である。

第三次富士市子ども読書活動推進計画に基づき、「ブックスタートふじ」事業では6か月児を対象に読み聞かせや絵本の配付を行い、1,200人に配付し、配付率は94.5%であった。併せて対象児の利用者カードの新規申込を受付け、124人に発行した。「セカンドブックふじ」事業では、3歳児を対象に大型絵本の読み聞かせと絵本の配付を行い1,494人に配付し、配付率は98.2%であった。「プレママ・プレパパ読み聞かせ講座」は、富士市フィランセで行われる「お母さんお父さん教室」で図書館職員が絵本の読み聞かせについて説明し、保護者に絵本1冊を配付するもので、362組が参加した。また、中央図書館で「託児サービス」を実施し244人が利用した。

③ 富士市子ども読書活動推進計画について

本市では、平成18年に「富士市子ども読書活動推進計画」、平成23年度に「第二次子ども読書活動推進計画」、令和3年度には「第三次富士市子ども読書活動推進計画」を策定した。この第三次計画は、第一次、第二次での成果や課題を検証し、さらなる推進に向けた取組を進めるための

もので、令和4年度から実施している。令和7年度には、計画期間の中間年に向け、進捗状況の確認及び施策見直しの基礎資料とするためのアンケートを実施した。

ア 計画の基本方針

本計画の基本方針を次に挙げ、全市的な読書計画を進めていく。

○「読書環境の整備」

子どもの発達段階や興味に応じた適切な本が、生活や学習の場でいつでも利用できる読書環境を整備する。

○「読書機会の提供」

子どもが楽しく読書できるように、関係機関等と連携して個々の場に応じた読書活動を実施し、読書習慣の確立を図る。

○「普及・啓発」

子どもの読書活動に関する理解や関心を高めるため、子どもや子どもに関わる全ての大人に対し広報活動に努める。また、子どもと本を結びつける大人の活動を支援する。

イ 具体的な施策について

○家庭・地域における読書活動

ブックスタートふじ事業、セカンドブックふじ事業を取組の柱として、乳幼児期からの読書習慣の形成を図る。また、地区まちづくりセンターにおけるボランティアによるおはなし会のほか、児童施設や図書館が連携して読書活動を行う。

○幼稚園・保育園・認定こども園における読書活動

幼稚園・保育園・認定こども園の蔵書を充実し、各園における読み聞かせ活動を推進する。園児のいる家庭での読書機会を増やすための啓発活動を行う。読書推進に関する職員研修に取り組む。

○学校における読書活動

児童生徒の読書習慣の形成を図るため、学校司書の全校配置を継続し、学校図書館を計画的に活用する。GIGA タブレットを活用した読書のため、「ふじ電子図書館」の利用を促進する等、従来の書籍に加え ICT を活用した読書活動を推進する。中高生の読書推進のため、学校と協力したイベント等を開催するなど、学校と図書館が連携した取組を行う。

○図書館における読書活動

乳幼児期から図書館の利用を促進するため、土日や夏休みは静かにしなくてもいい日として「にぎわい図書館デー」を設定し、また「託児サービス」を継続するなど、親子が利用しやすい環境の整備を行い、子どもの読書活動を促進する。令和4年度に導入した電子図書館システムでも、引き続き電子書籍の利点を活かしたサービスにより子どもの読書推進を図る。読み聞かせボランティアに対し技術向上のための研修を実施し、活動を支援する。

④ 資料所蔵の状況

令和8年3月31日現在

区 分	中央図書館	西図書館	東図書館	富士文庫	合 計
図 書 (うち児童書)	769,099 冊 (224,367)	130,695 冊 (45,651)	59,830 冊 (27,115)	119,585 冊 (38,621)	1,079,209 冊 (335,754)
A V資料	32,155 点	—	—	—	32,155 点
複製絵画	345 点	—	—	—	345 点
デジタル化資料	3,203 点	—	—	—	3,203 点
電子書籍	14,198 点	—	—	—	14,198 点
購入新聞	18 種	9 種	7 種	8 種	19 種
購入雑誌	191 種	55 種	56 種	53 種	228 種

※中央図書館には、移動図書館、今泉、田子浦、大淵、富士川の各分室、でごいち文庫を含む。購入雑誌は令和7年6月1日現在。

⑤ 利用状況

令和7年度

区 分	中央図書館	西図書館	東図書館	富士文庫	合 計
貸出点数	1,057,381 点	296,235 点	109,153 点	137,320 点	1,600,089 点
貸出人数	256,448 人	80,113 人	27,534 人	34,581 人	398,676 人
レファレンス件数	17,070 件	5,213 件	2,638 件	4,929 件	29,850 件
予約件数	136,911 件	7,083 件	2,786 件	4,408 件	151,188 件

※中央図書館には、移動図書館、今泉、田子浦、大淵、富士川の各分室、でごいち文庫、まちづくりセンターを含む。

※中央図書館の貸出点数には、電子書籍を含む。

⑥ 事業実績

令和7年度

館名	事業の名称	回数	延参加者	講師・共催団体等（敬称略）
中央図書館	ブックスタートふじ	30	1,200	6 か月児を対象とした絵本の配付
	セカンドブックふじ	38	1,494	3 歳児を対象とした絵本の配付
	プレママ・プレパパ読み聞かせ講座	12	362	講師：図書館職員
	おはなし会	101	1,288	実演：図書館職員
	おたのしみ会	12	188	実演：ボランティア
	本はともだち子どもまつり	1	196	実演：ボランティア
	図書館まつり	1	852	実演：図書館職員、ボランティア他
	ビブリオバトル	1	67	協力：富士市立高校
	児童文学講演「絵本とは何か」	1	68	講師：松本 猛
	ビジネス支援講演会「広報・集客に活かす SNS 活用の基本と考え方」	1	53	講師：星野 佳音
	東洋大学講師派遣事業 講演会「グリム童話と挿絵の黄金時代」	1	62	講師：大野 寿子
	夏休み読書感想文書き方講座	2	42	講師：佐藤 いずみ
	夏休み小学生図書館体験講座	2	7	講師：図書館職員
	古文書入門講座	5	92	講師：図書館職員
	資料活用講座「野菜づくりのコツと裏ワザ」	1	35	講師：小篠 健太郎
	親子で楽しむわらべうたと絵本	2	29	講師：石川 道子
	音訳ボランティア特別講座	1	13	講師：熊谷 成子
	音訳ボランティア勉強会	3	31	講師：芝本 安由美
	点訳ボランティア勉強会	1	16	講師：田村 由佳利
	読みきかせボランティア講座	1	22	講師：根岸 貴子
	読み聞かせボランティア・デビュー講座	6	57	講師：平山 壽子
	読み聞かせボランティア・フォローアップ教室	1	10	講師：平山 壽子
	ブックスタートボランティア研修	1	2	講師：図書館職員
	読みきかせ勉強会	9	275	講師：平山 壽子
	わらべうた・手遊び講習会	2	36	講師：鈴木 淳美
	講座「幼い子向けのおはなし会」	1	18	講師：石川 道子
西図書館	おはなし会	46	1,250	実演：図書館職員
	夏休み小学生図書館体験講座	1	4	講師：図書館職員
	講演会「静岡県最強の城を探る」	1	54	講師：加藤 理文

東 図 書 館	おはなし会	43	171	実演：図書館職員
	夏休み親子講座「アクリル製定規を染めてみよう！」	2	12	講師：遠藤 礼朗
	夏休み小学生図書館体験講座	1	4	講師：図書館職員
富 士 文 庫	おはなし会	99	688	実演：図書館職員
	わらべうたを楽しもう	1	21	講師：市立保育園副主任保育士
	夏休み小学生図書館体験講座	1	5	講師：図書館職員
	影絵と音楽の世界	1	214	講師：和久田 恵子
	富士文庫特別コレクションを知る講座	3	28	講師：菊地 治彦

(3) 少年教育

子どもたち自身が社会の変化に柔軟に対応できる「生きる力」を育むため、関係機関が連携して、青少年の健全育成に取り組む社会の形成を推進するとともに、次代を担うジュニアリーダー養成事業の開催や、さまざまな体験・交流の場を提供している。

① 富士市・雫石町少年交流事業

平成16年度から、富士市と雫石町の小学生が隔年で交互に訪問しあい、施設見学や体験学習などを通して友情を深めることを目的として実施している。

令和7年度は雫石町児童30人が富士市を訪問した。

期 日：令和7年7月29日（火）～8月1日（金）

参加者：富士市の小学5・6年生30人、

内 容：宝永火口トレッキング、紙バンドクラフト体験、たき火プログラム、プラネタリウム鑑賞、レクリエーション等



宝永火口トレッキング



たき火プログラム



レクリエーション

② 「ミライつく～る in Fuji」

ANAとの協働で、航空業界の仕事体験講座を通じ、仕事の大変さ、大切さ、想いを伝えてもらい、子どもたちに「夢をもつこと」、「夢に向かって、努力し続けることの大切さ」を学んでもらうことを目的に、「ミライつく～る in Fuji」を実施した。

期 日：令和7年10月19日（日）

場 所：富士市教育プラザ

参加者：富士市の小学4・5・6年生122人

内 容：パイロット、キャビンアテンダント、整備士、グランドスタッフ、グランドハンドリングスタッフの5職種に分かれ、体験やワークを通じて、実際の仕事の様子や工夫などを学ぶ。



③ 青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」

平成 26 年度から宮城県気仙沼市大島で実施してきた「キズナ無限∞の島」に代わって、令和 5 年度から、「無限∞のキズナ～まだ見ぬ自分に出会う瞬間（とき）～」として、長野県伊那市、茅野市等で研修を実施している。

この事業は、長野県の大自然を舞台に、グループ活動を主とした集団生活を送りながら、チームビルディング（仲間づくり）を行うとともに、仲間と困難を一緒に乗り越える体験を通して“キズナ”を深め、コミュニケーション力や課題解決力を身につけ、自己肯定感を高めることで前向きに生きる青少年を育成することを目的としている。



期 日：令和 7 年 8 月 9 日（土）～12 日（火）

参加者：中学生 72 人、高校生 8 人、青年 6 人、実行委員 10 人

- 内 容：
- ・ 地域プログラム（白樺湖でカヌー体験、伊那市地域おこし協力隊との交流、郷土料理を通じた地域交流）
 - ・ 体験プログラム（高遠城下町探検プログラム）
 - ・ キズナ学習（「仲間」をテーマに学校や学年、年齢層も異なる班内でグループ討議をしながら、「人と人のキズナ」の大切さを学び、最高の仲間とは何かについて研修生自らの答えを探し出す）



高遠城下町探検



地域おこし協力隊との交流



キズナ学習

④ ジュニアリーダー養成事業

子どもたち自身の手によって子ども会活動ができるように、活動の担い手となる中学生、高校生の指導者「ジュニアリーダー」を養成し、子ども会活動の発展を図るものである。

〔ジュニアリーダー養成研修会〕【基礎編】

期 日：令和 7 年 5 月 18 日（日）

参加者：45 人

- 内 容：子ども会に関すること（意義・目的・組織）
ジュニアリーダーに関すること（役割・心構え・態度）

〔ジュニアリーダー養成研修会〕【安全編】

期 日：令和7年6月22日(日)

参加者：34人

内 容：活動を行う上でのKYT（危険予知トレーニング）

〔夏のジュニアリーダー養成講習会〕

期 日：令和7年9月20日(土)～21日(日)

参加者：36人

内 容：屋内リクリエーション活動、野外炊事、ゲーム等の手法の学習

〔インリーダー養成講習会〕

期 日：令和7年11月15日(土)～16日(日)

参加者：20人

内 容：ジュニアリーダーに関すること（役割・心構え・態度）

〔ジュニアリーダー養成研修会〕【総合編】

期 日：令和8年3月8日(日)

参加者：12人

内 容：アイスブレイク等の手法や活動の計画と進行方法の学習

〔春のジュニアリーダー養成講習会〕

期 日：令和8年3月14日(土)～15日(日)

参加者：29人

内 容：野外活動、野外炊事、キャンドルファイヤー等



⑤ 青少年活動助成事業

次代を担う青少年の健全育成を目的として、青少年や各種団体の活動を支援するため、青少年の健全育成に取り組んでいる団体に対して、助成を行った。



市子連 火起こし体験

(4) 青年教育

青年が自らを磨き、社会的資質の向上を図る機会の場を提供するため、勤労青年に対する学習支援や、青少年指導者の養成講座を開催している。

① はたちの記念式典（旧称：成人式）ほか関連事業

はたちの記念式典

関係機関・団体の協力を得て、20歳を迎える方々の大人としての責任を改めて促すとともに、地元愛の醸成を推進するため実施した。令和7年同様、会場にて中学校ごと2つに分けた2部形式で式典を行った。

日 時：令和8年1月11日（日）第1部 12:30～13:20、第2部 14:30～15:20

場 所：富士市文化会館（ロゼシアター）大ホール

内 容：オープニング（富士高校書道部パフォーマンス（映像））、励ましの言葉、お祝いの言葉、記念品贈呈、はたち応援プログラム（はたちの記念式典実行委員会企画のスライド上映、恩師メッセージ）、市立高校チアリーダー部パフォーマンス

参加者：1,713人（参加率71.4%：該当者2,399人）



もうひとつのはたちの記念式典

日 時：令和8年1月18日（日）11:00～11:20

場 所：富士市教育プラザ

内 容：励ましの言葉、お祝いの言葉、記念品贈呈、応援プログラム（富士高校書道部パフォーマンス（映像））、富士特別支援学校等恩師メッセージ

参加者：7人

令和8年富士市はたちの記念式典の映像配信

掲載日：令和8年1月23日（金）～31日（金）

掲 載：富士市ウェブサイトはたちの記念式典ページ内からのリンクによる富士市公式YouTubeアカウントに掲載

内 容：オープニング（富士高校書道部パフォーマンス（映像））、励ましの言葉、お祝いの言葉、記念品贈呈、応援プログラム（はたちの記念式典実行委員会企画のスライド上映、恩師メッセージ）、市立高校チアリーダー部パフォーマンス

視聴数：1,550回

18歳新成人への祝意メッセージ送付事業

令和4年4月1日から、民法の改正により成年年齢が18歳に引き下げられたため、18歳の門出の時期に、成人を迎えられたことを祝い、新成人としての自覚を促し、今まで育ってきた環境を改めて見つめ直す機会を提供するため、あたたかみのある祝意メッセージを送付した。

対象者：2,386人

時 期：令和8年3月上旬発送

内 容：メッセージカード

ほうじ茶一煎パック



② 青少年育成ボランティア養成講座 (Play & Lead)

市の青少年健全育成事業等にリーダーとして参画できる人材や、積極的に地域へ参画することができる人材を育成することを目的に実施している。また、青少年活動をしている地域団体のプログラムに参加し、様々な魅力的な人に出会い、つながることができる機会を提供する。

静岡県が実施している級別青少年指導者認定事業の上級位認定を支援する。

期 日：令和7年9月～11月

参加者：7人（高校生5人、大学生2人）

場 所：富士市教育プラザ

内 容：講座6回（リーダー育成講義の受講、ふじかわっこ！遊び塾への参加、遊びフェスタの企画、「遊びフェスタ in 富士川」の実施）



養成講座受講生

◎「遊びフェスタ in 富士川」

受講生が自分たちで企画や準備をし、実際に事業を実施する中で、子どもたちとの触れ合い方や、リーダーのあり方を実践形式で学ぶことを目的に実施した。

実施日：令和7年11月30日(日)

場 所：富士川第一小学校体育館

参加者：旧富士川地区の小学生 14人

内 容：ライオンとウサギ、ボールリレーなど



「遊びフェスタ in 富士川」の様子

(5) 青少年教育センター

本センターは、青少年を対象に文化・教養及び社会性の育成を目的とした講座の実施や、サークル活動等の場の提供を行うとともに、青少年団体の活動拠点としての機能を担っている。

① 青年教養講座の開設

市内に在住、又は在勤(在学)の青年を対象に、余暇を利用して仲間づくりや豊かな教養と社会性を身につけるために開設している。

青年講座 ケーキ作り、レザークラフト、カメラ、ハイキング、クラシック音楽鑑賞他

33 講座 受講生 313 人



ボンヌジュルネのフルーツ
デコレーションケーキ



プロ直伝のカメラ講座
～一眼レフ&ミラーレス～



20代30代で学んでおきたい
お金の勉強～将来への資産
づくり～

② サークル活動

交流活性化及び学習意欲の向上をねらいとした、サークル活動を積極的に推進している。

	サークル名	活動内容	人数
1	B T M	バトミントン	13 人
2	S U N	3 × 3	5 人
3	あすなろ	硬筆	7 人
4	グループ青春	軽音	5 人
5	ギターを続けよう	ギター	5 人
6	M a k e a b r e a d	パンづくり	5 人
7	すばいくる☆	ソフトバレー	6 人
8	コンパニエロ	フットボール	8 人
9	気まぐれ美術部	絵画	6 人
10	ヤマガーズ	卓球	5 人
11	剣道を続けよう	剣道	6 人



サークル B T M



サークル S U N



サークル 気まぐれ美術部

③ 青少年教育センター利用者会

本センターの青年教養講座、サークル活動をしている青年が、利用者会を組織して交流会や体験学習等の活動を通し、相互の親睦と活動の一層の推進を図っている。また、市民のニーズに対応した社会貢献活動も幅広く行っている。

青少年教育センター利用者会 会員数 171 人

(令和7年度)

	事業	日時	場所
1	避難訓練（火災）	5月22日	教育プラザ1階
2	避難訓練（地震、津波）	12月11日	教育プラザ1階、屋上
3	青少年教育センター利用者会総会	5月27日	教育プラザ1階
4	青少年教育センター利用者会役員会	随時	教育プラザ1階
5	前期交流会（サマーパーティ）	7月18日	ジブ・フジ By オールドソーコ
6	後期交流会（秋フェス）	11月29日	教育プラザ1階
7	はたちの記念式典スタッフボランティア	1月11日	ロゼシアター



避難訓練（消火活動）



利用者会前期交流会
「サマーパーティ」



利用者会后期交流会
「秋フェス」

④ 青少年教育センター利用状況（令和7年度）

区分	計(人)	計(回数)
青年教養講座	1,043	127
青年サークル	1,232	243
青少年教育センター利用者会	112	9
社会教育課	2,189	128
青少年相談センター	3,664	317
富士市教育委員会	3,930	94
市役所関係	6,769	280
社会教育団体	2,707	152
その他	5,663	340
合計	27,309	1,690

(6) 青少年相談センター

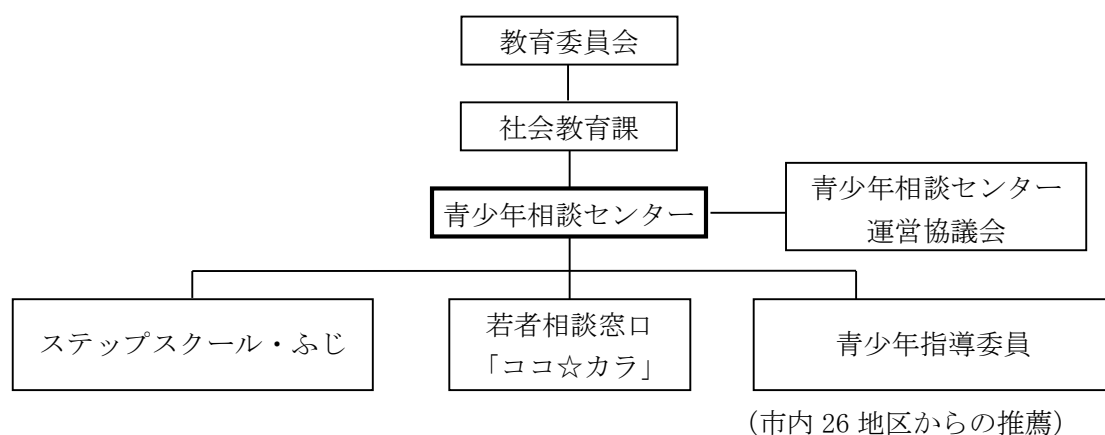
青少年相談センターは、次代を担う青少年の健やかな成長を支援するために、青少年ならびに保護者等を対象とした相談業務、不登校児童生徒を対象とした「ステップスクール・ふじ」、非行の未然防止を図る補導活動、青少年を取り巻く環境の浄化活動、そのほか関係機関・関係諸団体との連携の中で行う非行および不登校対策や、地域ぐるみで取り組む青少年健全育成活動等を推進し、青少年支援のセンターとしての役割を担っている。また、ニートやひきこもり、不登校など社会生活を営む上で困難を抱える若者やその家族を支援するため、若者相談窓口「ココ☆カラ」を開設している。

① 富士市青少年相談センターの組織・機構

設置主体 富士市（富士市教育委員会）

設置年月日 昭和 42 年 4 月 1 日

所在地 富士市八代町 1 番 1 号 TEL 52-4152 FAX 52-3737



② 富士市青少年相談センターの活動

ア 非行防止活動

青少年指導委員(105名)、青少年相談センター職員を中心に警察官、少年警察補導員、少年警察協助力員、まちづくり協議会青少年育成部門、民生児童委員、保護司、PTA役員等の協力を得て補導活動を実施している。

(7) 通常補導……地区内巡回補導、市街地補導

(4) 祭典補導……祇園祭、富士まつり、甲子秋祭り、毘沙門天大祭

イ 青少年健全育成活動

(7) 「富士市青少年の被害・非行防止強調月間」

- ・「社会を明るくする運動」と連携し、街頭啓発キャンペーンを実施
- ・広報、啓発活動
- ・健全育成諸行事、諸活動（講演会、研修会、啓発活動等）
- ・県内一斉少年補導、県内一斉立入調査、環境浄化活動等

(4) 「富士市子供・若者育成支援推進強調月間」

- ・地区生涯学習推進会等の団体主催による、地域における健全育成諸行事への協力

ウ 社会環境浄化活動

コンビニ、遊技場、玩具店、書店、マンガ喫茶、カラオケボックス等への立入調査をはじめ、青少年に有害な陳列物等の定期調査等を行っている。

エ 相談業務

青少年の健全な発達を支援するため、適切な助言や指導を行い、問題解決を図っている。相談業務には来所・電話・メール相談があり、「来所相談」では、主に「ステップスクール・ふじ」の利用相談を行っている。また、臨床心理士による相談を実施している（要予約）。更に、不登校児童生徒を支援するため「ステップスクール・ふじ」を開設している。

(ア) 来所相談……青少年、保護者、学校教職員など

(イ) 電話相談……青少年、保護者など

◇相談日と時間 来所相談 月曜～金曜 9時00分～16時00分

電話相談 月曜～金曜 9時30分～16時30分

(ウ) 「ステップスクール・ふじ」

不登校の児童生徒に場所と時間を提供し、一人一人に応じた支援を進める中で、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立していくことを目指していく。

個にあわせた学習支援、不安や悩みを取り除くための継続的な面談、仲間づくりや社会との関わりを学ぶ体験学習、青少年相談員による学校訪問等を実施している。

(エ) 「ほっとデジタル相談・ふじ」

小中学校全児童生徒が使用するタブレットを活用した相談を令和5年2月から実施している。

a 「ステップスクール・ふじ」開所日

☆毎週月曜日～金曜日の8時00分～18時00分までを基本としている。

☆子どもが自分のペースにあわせて利用できる。

(例えば午前中のみや、午後のみ、短時間のみ等の利用も可能)

☆土・日曜日・祝日は休み。長期休業中は、基本的に休み

☆給食はなし。昼食が必要な場合はお弁当を持参する。

b 「ステップスクール・ふじ」の特徴

☆一日の予定は、自分自身で決められる。

☆勉強がわからないところは相談員と一緒に考える。

☆悩みがある場合はその都度相談員が相談に乗る。

さわやかタイム	8:00～8:50	朝の活動
学 び 1	9:00～11:20	学びの時間
運 動 1	11:30～12:00	スポーツ活動
〈昼食・昼休み〉	12:00～13:00	昼食・休憩・自由時間
学 び 2	13:00～14:50	学びの時間
運 動 2	15:00～15:30	スポーツ活動
ふれあいタイム	15:30～18:00	交流活動

c 体験学習

☆自然の大切さや仲間づくり、他者とのかかわり方を学ぶために、1か月に1回程度、体験学習を行っている。(カレーづくり、ものづくり、スプリングコンサート、遠足等)

オ 子ども・若者育成支援事業

ニート・ひきこもり等の社会生活を営む上で困難を抱える子ども・若者について、関係機関と連携し、支援していく。

(ア) 若者相談窓口「ココ☆カラ」

開所日時 火～土曜日 9時00分～17時00分

対 象 者 富士市在住・在学の、概ね中学校卒業時から39歳までの子ども・若者

事業内容 ・相談、居場所、体験活動、就労支援
・若者サポーター養成講座
・茶話会（家族会）

(イ) 合同相談会

相談機関、学習支援団体、親の会、定時制・通信制高等学校などが個別の相談に対応する。

(ウ) 子ども・若者支援協議会 代表者会議1回・担当者会議1回

社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者に対する支援の効果的かつ円滑な実施を図ること目的に、関係機関との連携強化を図る。

カ 広報活動

青少年問題への関心を高めるためのチラシや、子どものしつけや家族のあり方を啓発するリーフレット等の配布及び「青少年相談センターだより」を発行（年４回）している。

キ 研修活動

青少年相談センター職員、学校関係職員、青少年指導委員、相談員の資質の向上を図るため、下記の研修を行っている。また、市民を対象に講座を開設し、望ましい「人との関わり方」について学習できる機会を設けている。

- (ア) 青少年指導委員全体研修会
- (イ) 相談センター所員研修
- (ウ) 不登校等児童生徒対策研修会
- (エ) 不登校等児童生徒の保護者教室
- (オ) 「ステップ・スクール・ふじ」の保護者・担任面談

ク 関係機関・団体との対策会議

学校・警察・児童相談所・こども家庭課などと常に緊密な連携を保ちつつ、青少年健全育成に努めている。具体的には、様々な青少年の悩みの解決を図るための子ども・若者支援協議会をはじめ、非行防止の具体策を協議する学校警察連絡協議会、小中学校生徒指導主任者会、中学校生徒指導研究会、青少年指導委員による補導連絡協議会への参加や、関係機関の共通理解を深めるための青少年対策関係機関連絡会、不登校児童生徒への対応を研究し対策を協議する不登校等児童生徒対策連絡会及び不登校等児童生徒対策研修会を開催している。

また、文部科学省・内閣府や静岡県の青少年対策本部が打ち出す青少年対策の基本方針を確認しながら、県補導センター・東部補導センター連絡協議会等にも積極的に参加している。

③ 補足資料(令和７年４月１日～令和８年３月３１日)

○青少年指導委員

青少年指導委員は、26地区に推薦を依頼し、105名で補導活動を行った。

＜通常補導＞ 月１回の通常補導では、19時から21時頃の間地区内を巡回し補導活動を実施

＜祭典補導＞ 大がかりなイベント（祇園祭・富士まつり・甲子秋まつり・毘沙門天大祭）の際、会場及びその周辺を巡回し補導活動を実施

青少年の生活様式の変化やSNS利用の進展に伴い、令和７年度も夜間の外出は少なかった。

総補導件数は111件（前年度の55件から56件増加）である。行為種別では「その他」の「帰宅」が最多で、主に、公共の場での帰宅を促す声掛けや、自転車の二人乗り・無灯火に対する声掛けなどである。

○青少年指導委員による補導活動

活 動 名	出動回数	参加人数	補導件数	特記事項
通常補導（地区巡回）	272	1,024	97	
祭典補導(祇園祭、富士まつり、甲子秋まつり、毘沙門天大祭)	4	80	14	
補導措置会議	6	119	—	
合 計	282	1,223	111	

○県内一斉少年補導

参加人数 夏季 613 人 冬季 598 人

参加者

青少年相談センター職員、PTA役員、警察官・少年警察補導員・少年警察協助員・少年指導委員、教育委員会職員、民生児童委員・保護司、青少年指導委員、地区まちづくり協議会
青少年育成部門、地区防犯協会役員、地域安全推進員 他

○補導状況

(単位：件)

	小学生	中学生	高校生	その他	有職少年 無職少年	合 計
飲 酒	0	2	0	0	0	2
喫 煙	0	2	0	0	0	2
深 夜 徘 徊	0	0	0	0	0	0
不 良 交 友	0	0	0	0	0	0
怠 学 ・ 怠 業	0	0	0	0	0	0
シンナー等薬物乱用	0	0	0	0	0	0
不健全 娯 楽	ゲームセンター入場	0	0	0	0	0
	パチンコ店入場	0	0	0	0	0
	その他の風俗営業入場	0	0	0	0	0
暴 走 行 為	0	0	0	0	0	0
自転車の2人乗り・無灯火	0	3	4	7	3	17
危 険 な 遊 び	0	5	2	0	0	7
そ の 他	帰 宅	2	22	33	4	62
	マ ナ ー	0	6	2	0	8
	そ の 他	0	12	0	1	13
合 計	2	52	41	12	4	111

○来所相談及び利用・「ステップスクール・ふじ」

(単位：人)

相談対象者	人数	来 所 者	人数	相 談 内 容	人数
小 学 生	1,186	家 庭	494	学 校 生 活	0
中 学 生	2,310			対 人 関 係	0
高 校 生	21	学 校	210	進 路 ・ 適 性	0
有 職 少 年	63	利用・ステップ関係	2,879	不 登 校	3,692
無 職 少 年	9	諸 機 関	140	心 身 の 発 達	21
そ の 他	152	そ の 他	18	反社会的行動	0
				そ の 他	28
計	3,741	計	3,741	計	3,741

○「ステップスクール・ふじ」利用相談件数・利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用相談 件数(件)	36	11	8	12	7	17	11	8	7	9	4	1	131
利用人数 延べ(人)	141	218	218	152	59	288	336	267	266	354	377	203	2,879

○電話相談「ほっとテレフォン・ふじ」の受信状況

・受信件数 56 件 ・業務日数 242 日

【学校、その他・男女別受信状況】

(単位：件)

	小学生	中学生	高校生	他の学生	有職	無職	保護者	祖父母	一般	層不明	計	不明(無言)
男	0	0	3	0	2	0	0	0	0	1	6	41
女	0	0	0	0	0	0	7	0	0	2	9	
計	0	0	3	0	2	0	7	0	0	3	15	56

【学校、その他・内容別受信状況】

(単位：件)

	小学生	中学生	高校生	他の学生	有職	無職	保護者	祖父母	一般	層不明	計
A学校生活	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
B対人関係	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
C進路適性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D不登校	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
E心身発達	0	0	3	0	2	0	1	0	0	1	7
F無言	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	41
Gその他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
計	0	0	3	0	2	0	7	0	0	44	56

○メール相談 相談総数 年間 2 件

○若者相談窓口相談件数

【新規相談】(主訴による分類)

年齢区分	家庭				学 校			医療・福祉			社 会				その他	計
	親子関係	虐待・暴力	非行・犯罪	その他	いじめ	学業・進路	その他	発達障害	精神疾患	その他	生活支援	就労支援	対人関係	その他		
就学前	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15～19	3	0	2	4	2	24	5	3	0	3	4	8	5	2	1	66
20～29	1	1	0	0	0	1	0	2	3	0	4	9	2	0	1	24
30～39	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	9	1	0	0	4	16
40～	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6	2	0	0	2	11
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
計	6	1	3	5	2	25	5	6	3	3	23	20	7	2	9	120

【新規相談】(状況による分類)

年齢区分	状況						就職			
	通信学生	福祉サービス	ひきこもり	不登校	その他	計	有職	無職	在学	計
就学前	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
小学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15～19	4	1	3	21	37	66	2	10	54	66
20～29	2	1	3	0	18	24	6	14	4	24
30～39	0	0	3	0	13	16	0	16	0	16
40～	0	0	0	0	7	7	1	10	0	11
不明	0	0	0	0	2	2	0	1	1	2
計	6	2	9	22	81	120	9	51	60	120

【継続相談】 年間 912 件

【合計相談件数】 年間 1,032 件

【居場所利用人数】 年間 延べ 2,334 人

【アウトリーチ】 年間 54 人に対して 155 回訪問

(7) 少年自然の家

少年たちが自然とのふれあいを通じて集団的な生活や活動をする中で、自然に対する心情や社会生活における基本的な態度を養うなど、その自発性、社会性を助長して、豊かな人間形成を図るための社会教育施設である。平成 28 年度から指定管理者制度を導入し、より一層の施設利用促進に努めていく。

① 教育目標

豊かな自然の中で学校や家庭では得がたい体験をさせることにより、次の目標の達成を図る。

- ・ 自然に直接ふれることにより、自然探求や野外活動に関心を持たせ、活動を通じて自然愛護の心を養うとともに、共生の心と健康の増進を図る。
- ・ 野外活動を通じて、自ら考え行動する態度を育てる。
- ・ 集団宿泊生活を通じて、規律を重んじる態度や奉仕の精神を養うとともに、助け合いの連帯意識を育てる。

② 施設の概要

所在地 富士市大淵 10847-1

T E L 0545-35-1697

F A X 0545-36-2799

ア 少年自然の家

昭和 49 年 10 月 1 日開設

建物面積 (2,697.16 m²)

鉄筋コンクリート造 3 階建

収容人員 250 名

・ 1 階

事務室 医務室 相談室 浴室 2 室

トイレ リネン室 宿直室 倉庫

ボイラー室等

・ 2・3 階

宿泊室 10 室 リーダー室 2 室 トイレ

リネン室

・ その他

丸火体育館 (鉄筋コンクリート造一部 2 階建
面積 916.4 m²)

食堂 研修室兼宿泊室 会議室 リーダー室
ボンベ室他

イ 丸火青少年の家

昭和 41 年 7 月 11 日開設

平成 21 年 4 月 18 日改築開所

建物面積 (264.55 m²)

木造平屋造

収容人員 60 名

(「ふじ」、「あしたか」の 2 部屋

各部屋定員 30 名、2 団体まで利用可能)

宿舎 炊飯棟 調理棟 トイレ 倉庫 広場



少年自然の家



丸火体育館



食 堂



丸火青少年の家

③ 事業

丸火自然公園の豊かな自然環境と宿泊施設という特徴を生かし、青少年が自然体験学習を通して、社会性・協調性を養う機会を提供するものとして、指定管理者が事業を展開している。

平成 28 年度から利用団体の範囲の拡大を図り、学習活動のための施設利用を積極的に受け入れている。従前の利用団体（野外活動を目的とした、市内小学校 5 年生のみどりの学校をはじめとする市内外の幼稚園・小中学校、及び子ども会・ボーイスカウトなどの少年団体）の利用は、最優先に受け入れ、対応している。

利用に際しては、利用者には利用目的の明確化を求め、事前指導や協議の際には安全面への配慮に重点を置き、目的にあった活動展開ができるよう十分な支援を行う。

ア 継続事業

教育委員会より継承して指定管理者が令和 7 年度開催した事業は下表のとおりである。

事業名	期 日	対 象	人数	ね ら い
春の家族自然のつどい	4 月 13 日（日）	市内在住・在勤の家族	40	自然観察、野草料理を通じて、自然愛護の心と家族の絆を育む。
ししどて学級 年間 5 回	6 月 7 日（土）	保護者説明会	各 99	「ししどて」は、丸火に残されている猪を追い込む堤で、鎌倉時代から伝えられている。この歴史ある地で、自然をベースに、仲間づくりや自然活動など様々なプログラムを通じて、自立心や他者への思いやりの心を育む。
	① 7 月 5 日（土）～ 6 日（日） ② 9 月 13 日（金）～ 14 日（土） ③ 10 月 11 日（土）～ 13 日（月） ④ 11 月 8 日（土）～ 9 日（日） ⑤ 12 月 6 日（土）～ 7 日（日）	市内小学校 4～6 年生		
秋の家族自然のつどい	10 月 18 日（土） 11 月 1 日（日）	市内在住・在勤の家族	各 10	秋の丸火の自然休養林を散策し、紅葉の鑑賞、クイズ等を実施し、森の自然を堪能する。
OL を楽しもう	11 月 2 日（日）	小学生以上	80	丸火自然公園で初心者から経験者までコースにあわせてオリエンテーリングを楽しむ。
星座教室	1 月 24 日（土）～ 25 日（日）	市内小学校 4～6 年生	50	丸火から見える天体を観察し、宇宙の不思議さや星座を学び、星や宇宙に関する興味関心を高める。
冬の家族自然のつどい	2 月 8 日（日） 降雪のため中止	市内在住・在勤の家族	30	丸火自然公園で洞窟探検を含む謎解きラリーを実施し、冬の森を家族で楽しむ。



ししどて学級



星座教室



春のつどい

イ 自主事業

指定管理者が自主事業として令和7年度に実施した事業は下表のとおりである。

事業名	期 日	対 象	人数	ね ら い
利用団体指導者 研修会	4月15日（火）	小・中学校 の教諭等	23	少年自然の家の利用方法及び 活動プログラムと野外活動の 実技について研修する。
	6月15日（日）	少年団体等 の指導者	30	
家族でみどりの学校 体験	5月3日（土）	親子	24	「みどりの学校」を未経験の 小学生と家族が体験する。
丸火★星座観察会	5月10日（土） 8月12日（火） 11月1日（土） ※12月14日（日） ※2月7日（土） ※曇天・降雪等により中止	小学生以上	各 30 8,12月 は 50	施設屋上での星座観察を通 じて、親子で星と親しむ。
続・自然発見 丸火でノルディック ウォーキング	5月14日（水） ※10月1日（水） 3月18日（水） ※雨天のため中止	中学生以上	各 20	丸火自然公園周辺でノルディ ックウォーキング（2本のポー ールを使って歩く運動）と自然 を楽しむ。
ししどて学級 保護者説明会	6月7日（日）	保護者	99	ししどて学級開催にあたり注 意事項伝達および質疑応答。
まるび★森の 音楽会	6月22日（日） 9月28日（日） 10月26日（日）	制限なし	各 20	ゴスペルやアコースティック 楽器を使ったコンサートを行 う。
海拔0mから丸火への 挑戦～ 富士市を楽しむノルデ ィックウォーキング	6月28日（土） 9月20日（土） 10月18日（土） 11月22日（土） 12月13日（土）	制限なし	各 20	ルート 3776 を辿りながら、海 抜ゼロメートルから少年自然 の家まで、富士市の史跡や名 所を巡りつつ、ノルディック ウォーキングを行う。
ししどて卒業生 キャンプ	7月19日（土） ～7月20日（日） 3月7日（土） ～3月8日（日）	ししどて学級 卒業生	30	ししどて学級卒業生を対象 に、旧友再会と交流を図る。
燻製づくり	※3月1日（日） ※応募人数が催行人 数に達せず中止	制限なし	30	森のチップで自家製燻製づく りを体験する。
スパイスからの本格 カレーづくり	2月22日（日）	親子	30	親子で外遊びを楽しみなが ら、野外料理等を通じて家族 の絆を深める。

まるび★ちびっこ森 の探検隊	8月21日(木) 8月22日(金) 8月23日(土) 12月25日(木) 12月26日(金) 12月27日(土) 3月27日(金) 3月28日(土) 3月29日(日)	年中・年長の 園児	各 14	丸火自然公園内で長期休み期間中の平日、日帰りの預かり保育を実施。参加者は作戦会議後秘密基地づくりなど丸火の自然を楽しむ。
ちびっこ森の探検隊 (小学生編)	9月23日(火) 1月12日(日)	小学校低学年	各 20	参加者と作戦会議を実施し、秘密基地づくりなど丸火の自然を楽しむ。



スパイスからの本格カレーづくり



ちびっこ森の探検隊



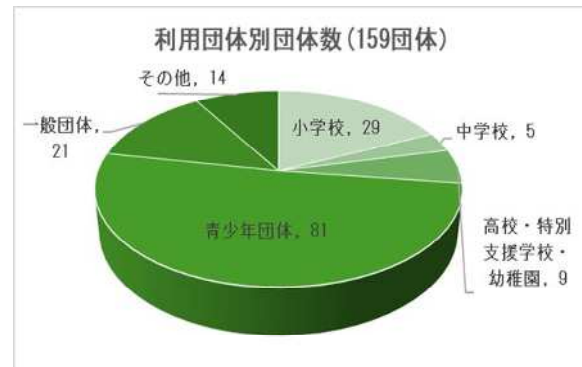
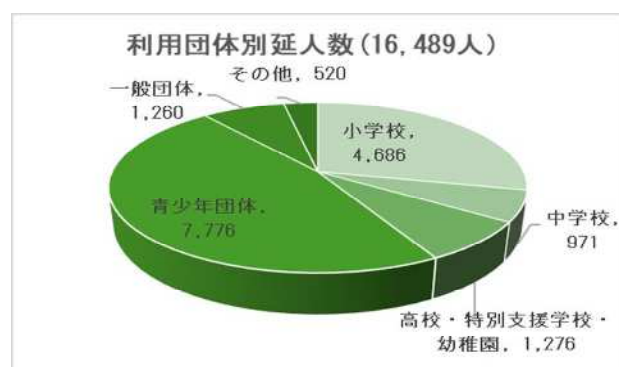
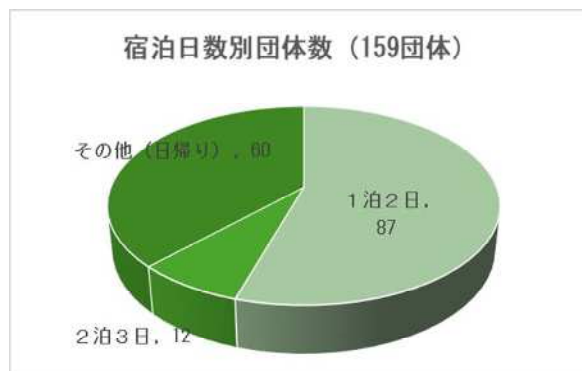
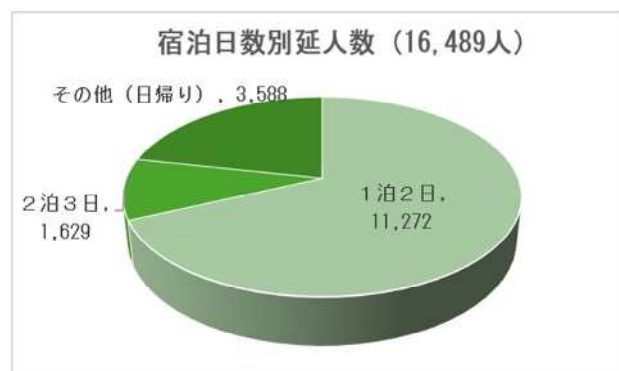
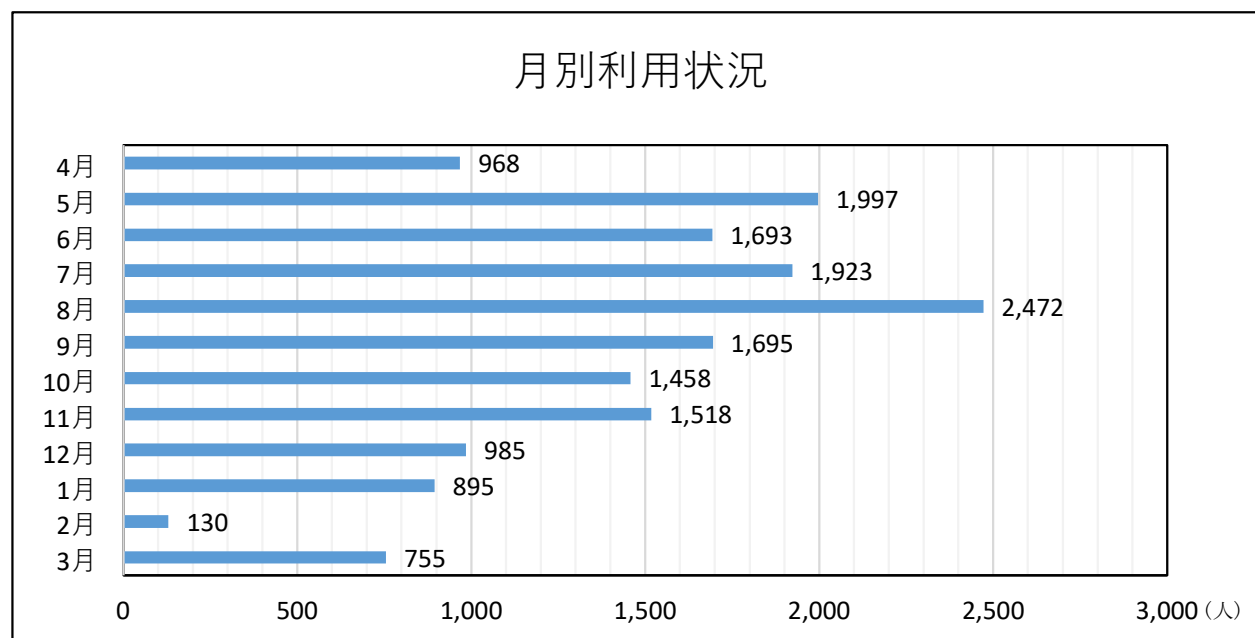
丸火でノルディックウォーキング

④ 利用状況

市内小学校5年生対象の「みどりの学校」をはじめ、市内外の小中学生、青少年団体、一般団体の利用があり、その数は延べ、16,489人であった。

利用する学校団体は、市内中学校が3校とピーク時から激減した。1団体当たりの利用者数も減少傾向にあり、昨年度と比較して延べ人数で975人減少した。

令和7年度 月別利用状況（少年自然の家）



(8) 文化財の保護

市内には、有形・無形の文化財が数多く残されている。文化財は、市の歴史や文化を正しく理解するために欠かせないものであり、市民生活は文化財を始めとした歴史を基盤として成立している。

そこで、指定文化財を始めとする文化財を適切に保護・保存していくための「文化財保護管理事業」、祭礼や習俗等の民俗文化財や、地中に埋まっている埋蔵文化財等の「文化財調査事業」、歴史講座や文化財紹介図書の発行により文化財を周知し、理解を深めることを目的とした「文化財啓発事業」を実施している。

① 文化財の保護管理

先人が守り伝えてきた貴重な文化財を市民共有の財産として維持管理し、後世に継承するため、市所有（管理）文化財の保護・活用事業を実施した。民間が所有する文化財に対しては、補助事業及び助言等を行い、適正な保護・活用を促した。

ア 文化財保護審議会の開催

文化財の保存及び活用に関する重要事項を調査審議した。

回	開催日・会場	審議・報告事項
1	令和7年7月4日（金） 市庁舎9階第2委員会室	・「富士山東泉院関係資料」に係る市文化財指定の諮問・答申について ・市指定史跡「千人塚古墳」の現地視察
2	令和7年11月12日（水） 富士市立博物館講座室	・須津千人塚古墳の整備完成と記念イベントの報告について ・国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院診療所兼主屋」の移築復原事業について（進捗報告と現地視察）
3	令和8年3月25日（水） 富士市立博物館講座室	・瑞林寺本堂保存修理事業報告について ・令和7年度事業報告について ・令和8年度事業計画について

イ 文化財保存活用地域計画推進協議会の開催

富士市文化財保存活用地域計画における取組事業について説明・協議した。

回	開催日・会場	協議事項
1	令和7年7月28日（月） 市庁舎9階第2委員会室	・令和6年度富士市文化財保存活用地域計画における取組事業の評価について ・頼朝&曾我兄弟と巡るデジタル史跡ラリー（富嶽綺譚）について ・国指定史跡 浅間古墳保存活用計画（概要版）について
2	令和7年10月31日（金） 富士市立博物館講座室	・富嶽綺譚 これまでの経過と今後の予定について ・須津千人塚古墳の整備完成と記念イベントの開催について ・浅間古墳保存活用計画（普及版）について ・来年度の事業計画について ・「しずおか遺産」制度への申請について

庁内ワーキングの開催

取組事業を関係各課と連携して効果的に進めるため、庁内ワーキンググループで協議した。

回	開催日・会場	内 容
1	令和7年5月14日（水） 市庁舎8階第2会議室	- 文化財保存活用地域計画における措置表（進捗状況確認表）について - 本年度の主な事業展開について - 頼朝、曾我兄弟の関連史跡の活用イベントについて
2	令和7年9月30日（火） 市庁舎8階第2会議室	- 本年度の主な事業展開について - 頼朝、曾我兄弟の関連史跡の活用イベントについて - 須津古墳群（千人塚古墳、浅間古墳）について
3	令和8年2月5日（木） 市庁舎9階第2委員会室	- 本年度及び来年度の主な事業について - 頼朝、曾我兄弟の関連史跡の活用イベントについて、しずおか遺産について（関係8課の主な事業計画について）など

ウ 史跡保存整備推進委員会の開催

市内史跡（国・県・市指定）の保存整備・活用事業について協議し、助言を受けた。

回	開催日・会場	審議事項
1	令和7年8月22日（金） 須津まちづくりセンター2階 集会室	- 史跡浅間古墳保存活用計画の概要と計画の推進について - 市指定史跡千人塚古墳の整備工事の進捗と今後の活用について - 現地視察
2	令和8年2月24日（火） 須津まちづくりセンター2階 集会室	- 史跡浅間古墳経過観察について - 市指定史跡千人塚古墳整備状況の確認と今後の活用について - 現地視察

浅間古墳発掘調査部会の開催

国指定遺跡浅間古墳の発掘調査に向けた調査方針や具体的な調査方法について協議し、助言を受けた。

回	開催日・会場	審議事項
1	令和7年8月22日（金） 須津まちづくりセンター2階 集会室	史跡浅間古墳発掘調査計画について
2	令和8年2月24日（火） 須津まちづくりセンター2階 集会室	- 史跡浅間古墳発掘調査計画について - 現地視察

エ 指定文化財等の保護管理

- ・民間所有の指定文化財（対象40件）に対して、所有者の維持管理と積極的な保存活用を促進するために文化財報償金を支出した。
- ・天然記念物薬剤散布作業（8ヵ所）を樹木の特性に合わせて、1～3回実施した。
- ・千人塚古墳他8ヵ所で除草・清掃作業を実施した。
- ・指定天然記念物等樹木の適正な管理を行うため、樹勢調査、報告書にまとめた（2件）。
- ・文化財看板を適正に維持管理するため、状態把握調査を実施した（60件）。

オ 文化財補助事業

- ・重要文化財「古谿荘」の防災設備保守点検に対して、文化財保存事業費補助金を交付した。
- ・重要文化財「古谿荘」の修理事業に対して、文化財保存事業費補助金を交付した。
- ・市指定有形文化財「瑞林寺」本堂の修理事業に対して、文化財保存事業費補助金を交付した。
- ・無形民俗文化財の伝承活動のため、鵜無ヶ淵神明宮の御神楽保存事業等の事業実施団体に対して文化財保存事業費補助金を交付した。
- ・県指定史跡「岩淵の一里塚」及び、県指定天然記念物「慶昌院のカヤ」の保存管理に対して、文化財保存事業費補助金を交付した。

カ 文化財調査事業

- ・民俗文化財支援調査事業として、市指定無形民俗文化財「大北のカワカンジー」の聞き取り、記録復元するための手法を検討した。
- ・市内に所在する仏像等を把握するための調査を実施した。
- ・官民連携事業として、市指定無形民俗文化財「鵜無ヶ淵神明宮の御神楽」を対象にA Iを活用した民俗芸能の伝承プロジェクトを実施した。
- ・近代製紙産業遺産である旧富士製紙レンガ建物の記録保存調査を実施した。

キ 市指定史跡「千人塚古墳」保存整備事業

令和4年度作成の基本設計、令和5年度作成の実施設計をもとに、令和6・7年度にかけて保存整備工事を実施し、令和7年11月より供用を開始した。それに伴い、整備工事体験ワークショップや公開記念イベントなどの各種啓発事業を須津地区と連携して実施したほか、案内パンフレットや一連の保存整備事業の報告書を刊行した。

●第1期工事（千人塚古墳石室修復工事）

- ・工 期 令和6年7月1日～令和7年9月18日
- ・内 容 千人塚古墳石室の修復（間詰め工等）

●第2期工事（敷地造成・環境整備工事）

- ・工 期 令和6年11月8日～令和7年9月18日
- ・内 容 敷地造成工、古墳保護工、園路広場整備工等

●整備工事体験ワークショップ「千人塚古墳の石室を再現しよう！」

- ・実施日 第1回 令和7年6月28日（土）、第2回 令和7年7月12日（土）
午前9時15分～11時30分
- ・会 場 須津川河原（須津中学校グラウンド東側）、千人塚古墳
- ・内 容 千人塚古墳と須津J-第12号墳の横穴式石室の床面を再現するにあたり、当時と同じように須津川で河原石を集め、その一部を、実際に手で古墳まで運んだ。運んだ石の裏側には、名前やメッセージなどを書き込み、工事中の石室の中に設置した。
- ・共 催 （一社）須津地区まちづくり協議会
- ・参加者 計64人（6/28：40人、7/12：24人）

●須津千人塚古墳整備完成記念イベント「古代から未来へ」

- ・日 時 令和7年11月1日（土） 午後2時～3時30分
- ・会 場 市指定史跡「千人塚古墳」
- ・共 催 （一社）須津地区まちづくり協議会
- ・来場者数 300人
- ・内 容 講演「千人塚古墳の価値」、「古代から未来へ ～須津古墳群の歌～」の合唱、中学生による劇「古代ヘタイムスリップ」、解説ツアーなど

●出張展示「須津こふんモバイルミュージアム」

- ・会 場 須津まちづくりセンター ロビー
- ・期 間 令和7年10月30日（木）～12月7日（日）（38日間）
- ・内 容 千人塚古墳、浅間古墳をはじめとする須津古墳群についての紹介
- ・観覧者数 3,794人

●発掘体験H-1（掘るワン）グランプリ（ふるさと須マイル祭内）

- ・会 場 須津まちづくりセンター駐車場
- ・日 時 令和7年11月2日（日） 午前9時15分～午後1時45分
- ・共 催 須津小学校 PTA
- ・参加者数 54人

ク 国指定史跡「浅間古墳」保存整備事業

保存整備事業を計画的に進めていくことを目的とした保存活用計画の事務局案を令和5、6年度の2か年をかけて作成し、令和7年5月20日の教育委員会5月定例会での審議・決定を経て、計画の本冊及び概要版、普及版の印刷・製本を行った。また、パンフレットの増刷を行った。

ケ 国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」移築事業

文化財建造物としての価値を損なわず、建築基準法、関係法令に適合させた設計書、積算調書等を作成し、実施設計業務を完了した。今後の解体、広見公園への移築復原につなげていく。

コ 重要文化財「古谿荘」の保護管理・整備事業

平成27年度に作成した保存活用計画をもとに、令和3年度から部分解体修理、耐震補強工事を所有者が実施している。令和6年度からは第Ⅱ期工事として玄関棟、応接棟及び台所棟、広間棟、大広間棟の実施設計、耐震修理工事を開始している。補助金の支出のほか月1回の工程会議等に参加し、修復事業の支援を行っている。

令和7年10月25日（土）、所有者による修復現場公開を協力して実施した。

② 文化財愛護と普及

史跡活用イベントや出張展示・各種講座の開催や案内看板の作成・修繕等を通して、文化財を市民に周知するとともに文化財愛護意識の醸成を図った。

ア 頼朝と曾我伝説史跡活用イベント（デジタルスタンプラリー・出張展示ほか）

市内各地に多数伝わる頼朝や曾我伝説の史跡を広く周知し、市民に地域の歴史や文化財に愛着を持って長く継承してもらうための取組を地域や関係施設等の協力を得て実施した。人気イラストレーター・シラノ氏に依頼して、頼朝と曾我兄弟のキャラクターを制作し、キャラクターを用いたデジタルスタンプラリーを実施したほか、関連イベントとして、フィールドワークや展示会を開催した。

●デジタルスタンプラリー「富嶽綺譚 頼朝&曾我兄弟と巡るデジタル史跡ラリー」

- ・期 間 令和7年7月28日（土）～令和8年3月1日（日）
- ・ポイント 富士の巻狩り・曾我兄弟の仇討ちにゆかりのある市内史跡（伝承地）21ヶ所
- ・参加者数 507人、総スタンプ取得数 4,539個

●関連イベント「アプリ設定から！頼朝コースを一緒に歩こう」

- ・日 時 令和7年9月20日（土） 午前9～12時
- ・コ ー ス 岳南原田駅 - 呼子坂 - 飯森浅間神社 - 鎧ヶ淵 - 滝川神社 - 御崎神社 - 春日神社 - 比奈駅
- ・参加者数 10人（定員15人）

●関連イベント「平家の忘れ仏と聴く 琵琶鑑賞会」

- ・日 時 令和7年10月18日（土） 午前9～12時
- ・内 容 富士川の戦いで平家軍が残したと伝わる重要文化財「瑞林寺地蔵菩薩坐像」が祀られている瑞林寺で、琵琶奏者・川島麗水氏による平家物語の鑑賞会を開催。併せて地蔵菩薩の案内を実施した。富士市文化連盟共催。
- ・参加者数 60人（定員60人 応募者数223人から抽選）

●富士・富士宮・沼津・三島・伊豆の国5市連携出張展示「駿豆綺譚-頼朝&曾我兄弟 ゆかりの地を追って-」

- ・期 間 令和7年11月22日（土）～12月21日（日）
- ・会 場 東名高速道路SA「道の駅 富士川楽座」4階 フジヤマギャラリー
- ・来場者数 延べ3,676人
- ギャラリートーク 第1回 11月22日（土）午後1時～2時 参加者数 延べ15人
第2回 12月13日（土）午後1時～2時 参加者数 延べ20人

●再展示（富士市役所） 出張展示「駿豆綺譚-頼朝&曾我兄弟 ゆかりの地を追って-」

- ・期 間 令和8年1月5日（月）～1月23日（金）
- ・会 場 富士市役所2階市民ホール・連絡通路
- ・来場者数 延べ997人

●再展示（鷹岡まちづくりセンター） 出張展示「駿豆綺譚-頼朝&曾我兄弟 ゆかりの地を追って-」

- ・期 間 令和8年2月2日（月）～2月27日（金）
- ・会 場 鷹岡まちづくりセンター2階ホール
- ・来場者数 延べ560人

●関連イベント「鷹岡曾我コースを一緒に歩こう」

- ・日 時 令和8年2月21日（土） 午前9時～12時
- ・コ ー ス 鷹岡まちづくりセンター - 五郎の首洗い井戸 - 曾我八幡宮 - 玉渡神社
- 曾我寺 - 姫宮神社 - 鷹岡まちづくりセンター
- ・参加者数 13人（定員15人のところ17人受付し、4人キャンセル）

●シティプロモーション課主催関連イベント「バスでめぐる富嶽綺譚」

- ・日 時 令和8年2月28日（土） 午前9時～午後3時
- ・コ ー ス 市役所 - 平家越え - 飯森浅間神社 - 鎧ヶ淵 - 滝川神社 - 博物館 - 市役所
- ・参加者数 20組36人（定員20組40人）

●岳南電車コラボ企画

- ・期 間 <第1弾> 令和7年9月20日（土）～10月31日（金）
<第2弾> 令和8年2月1日（日）～3月1日（日）
- ・内 容 岳南電車で期間中、富嶽綺譚キャラクター柄のヘッドマークを付けて走行。
第1弾では、富嶽綺譚オリジナルの一日フリー乗車券、キーホルダー（1種）、
第2弾では、新デザインのキーホルダー（3種）、缶バッジ（3種）を販売。

イ 「しずおか遺産」事業

日本遺産の県内版として、既存の文化財指定制度とは別に、本県の魅力ある歴史文化資源を紹介するストーリーを県が認定する制度に、沼津市と連携して、駿河湾の恵みと行き交う船」というタイトルで申請し、令和8年1月5日に認定を受けた。

ウ 市政いきいき講座

- ・講座名 「まちの魅力再発見！文化財講座」（講座No.28）
令和7年度実績 10回 142人参加
- 「発掘！地元の古代遺跡～富士のふもとの考古学講座」（講座No.29）
令和7年度実績 7回 145人参加

エ 文化財説明板

- ・修繕・追加 3箇所
「實相寺仁王像（金剛力士像）」、「原泉舎」看板の内容修正
「ディアナ号の錨」説明板の追加

オ 第39回ふるさと芸能祭の開催

広く市民に郷土芸能について関心をもってもらい、伝統の継承が促されることを目的に、市内の芸能団体に出演してもらい、市民に郷土の芸能を披露した。

- ・日 時 令和8年2月15日（日） 午後1時～午後4時30分
- ・会 場 富士市文化会館（ロゼシアター） 中ホール
- ・入場者数 約300人
- ・出演団体 【富士市民俗芸能連絡協議会所属7団体】
雨乞い芸能保存会、国久保熊野太鼓保存会、天間太鼓保存会、大漁木やり唄
中丸保存会、鮫島まとい太鼓保存会、小木の里太鼓保存会、東比奈諏訪神社
大龍の舞保存会
【協力3団体】祭保存会氣組、若柳流柳園会、富士八木節同好会
- ・主 管 富士市民俗芸能連絡協議会

③ 埋蔵文化財の保護と発掘調査

文化財保護法に基づき埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の周知とその保存に努め、包蔵地内外で行われる土木工事に対して、試掘・確認調査や本発掘調査を実施した。また、発掘調査によって得られた資料は、整理・報告書作成事業を行い、記録保存の措置をとった。

ア 公共事業及び開発行為に伴う発掘調査

【試掘・確認調査】

- ・令和 7 年度に実施した発掘調査は 61 件で、試掘・確認調査を 56 件、本発掘調査を 5 件実施した。

【試掘・確認調査】

遺 跡 名	調査面積(㎡)	調査の契機	調査開始日	調査終了日	遺 構	遺 物
中島遺跡	19.618	個人住宅建設	5 月 1 日		焼土	土器（縄文時代・古墳時代） 石器（縄文時代）
船津 7 古墳群	4.816	個人住宅建設	4 月 30 日		なし	なし
沢東 A 遺跡	24.142	土地売却	4 月 8 日		なし	土器（古墳時代）
丸崎遺跡	5.063	個人住宅建設	4 月 8 日		なし	なし
滝下遺跡	8.116	個人住宅建設	4 月 30 日		なし	土器（奈良時代）
三日市廃寺跡	11.452	共同住宅建設	5 月 20 日		なし	なし
厚原横道下遺跡	56.069	集合住宅建設	6 月 11 日	6 月 12 日	なし	なし
東平遺跡	111.584	共同住宅建設	6 月 2 日	6 月 5 日	建物跡、溝状遺構、 ピット、土坑、 不明遺構	石製品（平安時代、中世） 土器（平安時代） 陶磁器（中世） 金属製品（中世）
国久保遺跡	17.608	個人住宅建設	5 月 15 日	5 月 16 日	溝状遺構・ピット	土器（奈良時代）
三日市廃寺跡	7.035	個人住宅建設	5 月 20 日		土坑	土器（奈良時代・平安時代） 土製品（奈良時代）
東平遺跡	20.534	建売個人住宅建設	5 月 27 日	5 月 28 日	なし	なし
神谷古墳群	12.617	包蔵地範囲確認	5 月 22 日	5 月 26 日	なし	土器（古墳時代）
新吉原宿遺跡	4.589	個人住宅建設	6 月 17 日		ピット、土坑	陶磁器（近世）
三日市廃寺跡	14.084	授与所建設	7 月 18 日		ピット	土器（奈良時代）
天間沢遺跡	22.772	宅地分譲	7 月 14 日		ピット	土器（縄文時代）
三日市廃寺跡	5.697	個人住宅建設	7 月 7 日		なし	土器（弥生時代、 古墳時代、奈良時代、平安時代） 土製品（奈良時代）
川窪遺跡	32.961	不動産売買	7 月 10 日		ピット	土器（弥生時代、古墳時代）
天間沢遺跡	17.763	個人住宅建設	7 月 2 日		なし	なし
天間沢遺跡	5.582	宅地分譲	7 月 30 日		なし	土器（縄文時代）
東平遺跡	8.697	個人住宅建設	7 月 24 日		なし	なし
川窪遺跡	39.078	トラックヤード建設	8 月 28 日	8 月 29 日	ピット	土器（古墳時代）
中島遺跡	12.016	個人住宅建設	9 月 11 日		なし	なし
天間沢遺跡	12.643	宅地分譲	7 月 30 日		なし	なし
宇東川遺跡	27.417	個人住宅建設	8 月 7 日		なし	なし
川窪遺跡	95.108	店舗敷地造成	8 月 27 日	8 月 28 日	なし	土器（古墳時代）

遺 跡 名	調査面積(㎡)	調査の契機	調査開始日	調査終了日	遺 構	遺 物
丸崎遺跡	4.465	不動産売買	8月29日		なし	なし
中桁・中ノ坪遺跡	7.934	個人住宅建設	8月21日	8月25日	なし	なし
中桁・中ノ坪遺跡	86.862	不動産売買	9月17日	9月19日	竪穴建物跡・溝・ピット	土器(奈良時代・平安時代) 陶磁器(平安時代)
善得寺城跡・東泉院跡	4.704	個人住宅建設	9月29日		竪穴建物跡	土器(平安時代) 陶磁器(平安時代)
片倉1古墳群	417.818	店舗建設	10月7日	10月20日	なし	なし
東平遺跡	6.21	不動産売買	9月25日		なし	なし
東平遺跡	14.301	個人住宅建設	11月11日		竪穴建物跡・土坑	土器(奈良時代・平安時代) 陶磁器(平安時代)
柏原遺跡	14.264	建売個人住宅建設	10月9日		竪穴建物跡	土器
国久保遺跡	10.902	個人住宅建設	10月23日	10月27日	ピット	土器(奈良時代)
三日市廃寺跡	7.001	駐車場造成	11月7日		竪穴建物跡	土器(奈良時代)
石坂2古墳群	2.57	不動産売買	10月14日	10月16日	なし	なし
ジンゲン沢遺跡	29.624	宅地分譲	11月17日		配石遺構・土坑・炉跡	土器 石器(縄文時代)
沖田遺跡	4.388	不動産売買	11月4日		なし	なし
高山古墳群	22.412	不動産売買	11月26日		なし	なし
東平遺跡	56.052	不動産売買	11月11日	11月12日	竪穴建物跡・溝・土坑・ピット	土器(平安時代)
天間沢遺跡	7.015	宅地分譲	12月4日		なし	土器(縄文時代)
沢東B遺跡	7.001	アパート建設	11月18日		なし	陶磁器(中世)
宇東川遺跡	5.598	個人住宅建設	11月26日		なし	土器(縄文時代)
東平遺跡	45.685	宅地分譲	11月19日		溝状遺構・土坑・ピット	土器(平安時代)
丸崎遺跡	2.5	不動産売買	11月27日		なし	なし
東平遺跡	5.419	個人住宅建設	11月27日		竪穴建物跡2軒	土器(奈良時代)
天間沢遺跡	5.45	個人住宅建設	12月4日		なし	土器(縄文時代)
善得寺城跡・東泉院跡	6.096	個人住宅建設	12月25日		なし	なし
沢東A遺跡	87.824	不動産売買	2月3日	2月4日	溝・ピット	土器(古墳時代)
舟久保遺跡	21.04	土地賃貸借	1月21日		なし	土器(奈良時代・平安時代)
木の宮遺跡	77.114	宅地分譲	1月13日	1月14日	なし	なし
東平遺跡	9.525	事務所建設	2月16日		なし	なし
会下遺跡	10.89	不動産売買	3月17日		なし	なし
舟久保遺跡	9.286	個人住宅建設	3月2日		なし	なし
国久保遺跡	4.551	病院建設	3月2日		なし	なし
東平遺跡	9.951	建売個人住宅建設	3月5日		なし	土器(奈良時代)

【本発掘調査】

遺 跡 名	調査面積(㎡)	調査の契機	調査開始日	調査終了日	遺 構	遺 物
新吉原宿遺跡	44.429	個人住宅建設	6月23日	7月1日	土坑、ピット、井戸、不明遺構	陶磁器・金属製品・木製品
東平遺跡	584.8	共同住宅建設	9月3日	11月7日	溝・ピット・土坑・性格不明遺構	土器（平安時代） 陶磁器（平安時代・中世）
東平遺跡	77.952	個人住宅建設	12月1日	12月8日	溝・ピット	土器（縄文時代・奈良時代・平安時代）
東平遺跡	149.236	宅地分譲	12月10日	12月15日	溝・ピット・土坑	土器（奈良時代）
国久保遺跡	94.954	個人住宅建設	1月7日	1月23日	ピット	土器（奈良時代・平安時代）

イ 埋蔵文化財整理・報告書作成事業

発掘調査が終了した遺跡の出土資料や記録の保存・整理作業を実施し、以下の報告書を刊行した。

報 告 書 名	調査原因	調査年度	所収遺跡	調 査 概 要
富士市内遺跡発掘調査報告書 —令和6年度—	確認調査ほか	令和6	木島遺跡 など	南山大学上峯研究室との連携により実施した木島遺跡の範囲確認調査など、令和6年度に実施した試掘確認調査の調査成果のほか、加藤学園旧蔵資料の整理作業報告を所収。

指定文化財一覧 計 91 件(国指定8件 県指定 12 件 市指定 64 件 国登録7件) 令和 8 年 3 月 31 日現在

	種 別		名 称	員数	所在地	指定年月日
国指定	特別名勝		富士山		大淵ほか他市町村に及ぶ	特名 S27. 11. 22
	史跡					史跡 H23. 2. 7
	重要文化財	建造物	古谿荘 9 棟	9 棟	岩淵	H17. 12. 27
		彫 刻	木造地藏菩薩坐像	1 軀	松岡／瑞林寺	S57. 6. 5
		書 跡	紙本墨書法門百首	1 帖	平垣本町	S13. 7. 4
		工芸品	短刀 銘光包 (名物乱光包)	1 口	(寄託) (財) 日本刀剣美術館	S 8. 7. 25
		絵 画	金地著色春夏山水図 (伝雲谷等顔筆／六曲屏風)	1 双	(寄託) 静岡県立美術館	S25. 8. 29
	史 跡		浅間古墳	1 基	増川	S32. 7. 1
県指定	建造物		旧稲垣家住宅 附棟札(文化元年) 2 枚	1 棟	広見公園	H21. 3. 23
	工芸品		太刀 無銘 (伝左弘安)	1 口	天間	S37. 2. 27
	考古資料	中原第 4 号墳出土遺物		一括	市立博物館	R 3. 12. 27
		東平第 1 号墳出土遺物一括		一括	市立博物館	R 4. 12. 2
	史 跡	琴平古墳		1 基	中里	S33. 9. 2
		伊勢塚古墳		1 基	伝法／玄龍寺	S33. 9. 2
		庚申塚古墳		1 基	東柏原新田	S34. 4. 14
		岩淵の一里塚		1 対	岩淵	S61. 12. 5
	天然記念物	富知六所浅間神社の大クス		1 本	浅間本町	S30. 4. 19
		慶昌院のカヤ		1 本	中里	S46. 3. 19
富士岡地藏堂のイチョウ		1 本	富士岡	S46. 3. 19		
有形民俗文化財		浮島沼周辺の農耕生産用具	152 点	市立歴史民俗資料館	H 2. 3. 20	
市指定	有形文化財	建造物	五輪塔	2 基	市立博物館	S44. 8. 19
			ディアナ号の錨	1 錨	三四軒屋区公会堂南側	H 1. 12. 21
			瑞林寺伽藍	3 棟	松岡／瑞林寺	H 4. 12. 25
			旧松永家住宅	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			樋代官植松家住宅長屋門	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			樋代官植松家住宅	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			原泉舎	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			眺峰館	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			杉浦医院	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			稲葉家住宅	1 棟	岩淵	H22. 5. 19
		彫 刻	實相寺・木造仁王像 (金剛力士像)	1 対	岩本／實相寺	S47. 8. 1
			實相寺・木造一切経蔵 七福神	1 点	岩本／實相寺	S47. 8. 1
			妙善寺観音堂俳句扁額	1 面	原田／妙善寺	S49. 9. 1
			木造広目天・多聞天立像	2 軀	原田／妙善寺	S49. 9. 1
			木造十一面千手観音坐像	1 軀	原田／妙善寺	S55. 9. 1
			木造薬師如来坐像	1 軀	比奈／医王寺	S55. 9. 1
		書籍・ 典籍・ 古文書	紙本墨書 稿本 田子のふるみち	1 帖	(借用) 市立博物館	S59. 12. 24
			紙本墨書 福寿山 瑞林禅寺記	1 帖	松岡／瑞林寺	S59. 12. 24
			紙本墨書 高林山 法田禅寺記	1 卷	(寄託) 市立博物館	S59. 12. 24
			紙本墨書 今泉村往古高拔差邑寶鑑	1 帖	市立博物館	S59. 12. 24
			中村家文書	897 点	(寄託) 市立中央図書館	H 8. 3. 19
			實相寺一切経 宋版 4 卷、天海版 6, 174 卷	合計 6, 178 卷	岩本／實相寺	H21. 4. 21
		歴史資料	大宝印秋山家資料	1, 145 点	市立博物館	R 4. 3. 22
			富士山東泉院関係資料	一括	市立博物館 (一部寄託)	R 7. 7. 22
		考古資料	比奈東坂古墳出土品	一括	市立博物館	S44. 8. 19
			医王寺経塚遺物	一括	比奈／医王寺	S59. 12. 24

	種 別		名 称	員数	所在地	指定年月日
市 指 定	史 跡		千人塚古墳（須津Jー第10号墳）附須津Jー第7・9・12号墳	4基	神谷大塚824-2	S51. 7. 23
			稲荷塚古墳	1基	船津	S51. 7. 23
			実円寺西第1号墳	1基	三ツ沢	S51. 7. 23
			山ノ神古墳	1基	東柏原新田	S51. 7. 23
			金原明善翁ら大規模植林地		桑崎	S53. 9. 1
			雁堤	1箇所	岩本・松岡	S58. 6. 25
			竹採塚	1基	比奈／竹採公園	H1. 12. 21
			白隠禅師の墓	1基	比奈／竹採公園	H1. 12. 21
			善得寺墓群のなかの大勲策禅師の墓	1基	今泉／善得寺公園	H1. 12. 21
			善得寺墓群のなかの太原雪斎の墓	1基	今泉／善得寺公園	H1. 12. 21
	天然記念物		船津浅間神社のクス	1本	船津	S45. 12. 21
			間門浅間神社のシイ	1本	間門	S45. 12. 21
			今宮浅間神社のスギ	1本	今宮	S45. 12. 21
			鵜無ヶ淵神明宮のクス	1本	鵜無ヶ淵	S45. 12. 21
			十王子神社のイチョウ	1本	今泉	S45. 12. 21
			十王子神社のクス	1本	今泉	S45. 12. 21
			水の上のタイサンボク	1本	今泉	S45. 12. 21
			本国寺のボダイジュ	1本	今泉	S45. 12. 21
			曾我寺のカヤ	1本	久沢	S45. 12. 21
			曾我寺のシイ	1本	久沢	S45. 12. 21
			瑞林寺のモッコク	1本	松岡	S45. 12. 21
			瑞林寺のヒイラギ	1本	松岡	S45. 12. 21
			医王寺のマキ	1本	比奈	S49. 9. 1
			一色のカヤ	1本	一色	S49. 9. 1
			八幡穴（溶岩洞穴）	1箇所	久沢	S52. 10. 3
			不動穴（溶岩洞穴）	1箇所	大淵	S52. 10. 3
			厚原風穴（溶岩洞穴）	1箇所	厚原	S54. 3. 15
			本照寺のカヤ	1本	厚原	S56. 8. 1
			白髭神社のヒイラギ	1本	大淵次郎長町	S56. 8. 1
			木之元神社のムクロジ	1本	鈴川	S56. 8. 1
			常盤家のイヌマキ	1本	岩淵	H23. 12. 22
			慈林寺のイヌマキ	1本	中之郷	H23. 12. 22
			横割八幡宮のクスノキ	1本	横割	H24. 4. 23
			浮島ヶ原のサワトラノオ群生地	1箇所	中里	H27. 4. 21
	無形民俗文化財		鵜無ヶ淵神明宮の御神楽		鵜無ヶ淵一丁目	H21. 4. 21
			大北のカワカンジー		北松野	H23. 12. 22
			木島のナゲダイマツ		木島	H23. 12. 22
			岩淵鳥居講		岩淵	H29. 6. 21
国 登 録	有形 文化財	建造物	旧小休本陣「常盤家住宅主屋」	1棟	岩淵	H10. 9. 2
			旧岩淵火の見櫓	1基	南松野	H18. 3. 27
			旧順天堂田中歯科医院診療所兼主屋	1棟	吉原三丁目	H23. 7. 25
			旧加藤酒店店舗兼主屋	1棟	本町	H27. 3. 26
			旧東泉院宝蔵	1棟	吉原公園内（今泉）	H29. 10. 27
			旧六所家門及び堀	1棟	吉原公園内（今泉）	H29. 10. 27
			岳南電車本吉原駅プラットホーム及びホーム上屋	1式	岳南電車本吉原駅	R3. 6. 24

(9) 博物館

① 施設の概要

ア 本館「富士山かぐや姫ミュージアム」

- 開館 昭和 56 年 4 月 25 日
改修落成 平成 28 年 4 月 29 日
- 敷地面積 約 5,758 m²
(付属棟実習室、工芸室、陶芸棟敷地面積含む)
- 延床面積 本館 1,740 m²
付属棟 実習室 200 m²
工芸室 248 m²
陶芸棟 149 m²
- 本館施設・展示室 5・多目的室 1・収蔵庫 2・
講座室 1・ライブラリー・事務室・調査研究室・
空調機械室・機材庫他に防災・警備設備等



富士山かぐや姫ミュージアム
(富士市立博物館本館)

イ 分館「歴史民俗資料館」

- 開館 平成 6 年 11 月 16 日
- 敷地面積 1,665 m²
- 延床面積 歴史民俗資料館 657 m²
収蔵庫 209 m²
- 施設 1 階 展示室・体験コーナー・
事務室・トイレ
2 階 展示室・収蔵庫



富士市立歴史民俗資料館

ウ 分館「屋外展示（広見公園内）」

- 開館 昭和 56 年 4 月 25 日
- 敷地面積 約 39,688 m²
- 延床面積
 - ・樋代官長屋門 69.20 m² (旧植松家表門) 木造平屋建寄棟造茅葺
 - ・原泉舎 74.40 m² (今泉妙延寺土蔵・今泉小学校前身の仮教場) 木造切妻造瓦葺土蔵
 - ・旧松永家住宅 180.37 m² 木造平屋建寄棟造瓦葺、付表門 (薬医門)
 - ・眺峰館 59.01 m² 木造三階建八角尖塔造銅板葺 (洋風建築)
 - ・東平遺跡高床倉庫 18.17 m² 掘立柱高床板倉造切妻式流板葺
 - ・東平遺跡竪穴住居 23.50 m² 竪穴板壁入母屋式茅葺
 - ・横沢古墳 201.00 m² 大淵横沢で発掘調査した円墳
 - ・万葉歌碑 「東歌」『万葉集』巻 14 所収の東歌 1 首「天の原 富士の柴山木の暗の 時移りなば逢はずかもあらむ」
 - ・杉浦医院 138.60 m² 木造二階建寄棟造銅板葺 (洋風建築)
 - ・樋代官植松家住宅 195.00 m² 木造二階建越屋根付瓦葺
 - ・旧独楽荘石倉 33.00 m² 木造切妻造瓦葺石倉
 - ・旧稲垣家住宅 160.39 m² 木造入母屋形式かぶと造茅葺
- 〈その他〉小糸のぶ文学碑、松永末子歌碑、水城孝歌碑、根方街道道しるべ、東海道・大宮街道道しるべ、仁藤春耕道しるべ、一字一石経王塔、室伏半蔵道しるべ、日露友好の碑

エ 分館「富士川民俗資料館」(稲葉家住宅)

- 開館 昭和 47 年 3 月 改修落成 平成 30 年 3 月
- 敷地面積 380.86 m²
- 延床面積 稲葉家住宅 89.40 m²、収蔵庫 33.48 m²
- 構造ほか 木造入母屋造茅葺 市指定有形文化財(平成 22 年)



市指定有形文化財(平成 22 年)
「富士川民俗資料館」



国登録有形文化財(平成 10 年)
「小休本陣常盤家住宅主屋」

オ 博物館管理施設「小休本陣常盤家住宅主屋」

- 公 開 平成 16 年 3 月
- 延床面積 249.13 m²
- 構造ほか 木造平屋切妻造棧瓦葺 国登録有形文化財(平成 10 年)

カ 博物館外部収蔵庫

- 竣 工 平成 27 年 3 月
- 延床面積 428.72 m²
- 構 造 鉄骨造平屋建

② 展示

ア 常設展示

○展示室 1 テーマ「富士に生きる」

富士山南麓の地に生活してきた先人たちの歴史や文化を「富士に生きる」という大きなコンセプトのもと 7 つのジャンルで紹介

- ①富士の舞台＝富士火山・海岸平野のできるまで
- ②富士の黎明＝富士市を代表する天間沢遺跡のジオラマ、旧石器時代から律令時代の市内遺跡出土資料
- ③動乱から泰平の世へ＝鎌倉から室町に至る動乱の時代の資料
- ④街道と宿場のにぎわい＝東海道・吉原宿の変遷
- ⑤水とのたたかい＝富士川治水に功を成した雁堤や浮島沼干拓の歴史
- ⑥富士川舟運と渡船＝富士川と岩淵河岸の歴史
- ⑦富士の災害＝富士火山や水害、地震被害の歴史とロシア軍艦ディアナ号の遭難

○展示室 2 テーマ「富士山の玉手箱」

富士山をモチーフとした名品の数々。「富士山を描く」、「富士山をかたどる」、「富士山を記す」等、富士山にまつわる 6 つのテーマを展示

○展示室 3 テーマ「富士山とかぐや姫」

富士山南麓を舞台としたかぐや姫の伝承に焦点をあて、信仰の山・富士の姿を地域に根ざした視点から紐解く。

- ①竹取物語へのいざない
- ②富士山のかぐや姫
- ③かぐや姫と富士山縁起＝記された富士山のかぐや姫物語（卷子本富士山大縁起）
- ④東泉院と下方五社＝六所家総合調査より（日吉浅間神社並神主六所良邑境内絵図）
- ⑤富士のかぐや姫物語ゆかりの地を歩く＝描かれた富士山のかぐや姫物語
- ⑥富士山の女神
- ⑦富士山登山絵図＝描かれた富士山の信仰空間（富士山禪定図）
- ⑧村山修験の活動＝秋山家寄託資料 密教法具の展示
- ⑨岩淵鳥居講

○展示室 4 テーマ「竹取物語の広がり」

日本各地の竹取物語ゆかりの地や関連グッズの紹介
静岡県世界遺産センターとの連携による富士山世界文化遺産の紹介

イ 特別展示（展示室5・多目的室6）

常設展示以外の特別展、企画展、共催展、テーマ展等の展示会を随時開催している。

展示室5（特別展示室）は気密性の高い特殊な展示ケースを採用。貴重な資料を展示している。

○ライブラリー〈1階〉

県内外の博物館の出版物や富士山に関わる専門書・児童書を揃えている。

図書館にはあまり見られない本を閲覧することができる。また、パソコンにて、館蔵品や貴重な映像資料を検索・閲覧できるデジタルライブラリーが併設されている。

ウ 歴史民俗資料館 テーマ「富士に生きる」

○1階 展示室

富士市域は、駿河湾の海岸から富士川・潤井川等の河川によるなだらかな扇状地と東部の低湿地、富士山・愛鷹山へと続く斜面の間に広がる。

海岸の漁村から最北の山村までの標高差 800mの間、それぞれの地に適したくらしを営んだ人びとの姿を以下の6つのテーマに分けて紹介している。

- ①ハマのくらし（田子浦・元吉原沿岸）＝実物のシラス船や大漁旗、延縄漁用具等
- ②ドブツタのあるくらし（浮島ヶ原周辺）＝ドブツタ（湿田）での田植えのジオラマ等
- ③豊作への願い（浮島ヶ原周辺～加島平野）＝豊作を願う様々な行事
- ④タバシヨのくらし（加島平野）＝タバシヨ（田場所）の田植え用具、スキ等
- ⑤ヤマガのくらし（富士・愛鷹山麓）＝つるべ井戸のジオラマ、木樵、畑作用具等
- ⑥行き来する人々（地域の交流）＝ショイコ（背追子）や梶、秤等人や物の行き来に使う道具

○2階 展示室

富士山南麓の豊富な森林資源や水を利用して発達してきた紙のまち・富士の歴史や学校教育、子どもの遊びや紙のおもちゃ等を展示している。また、近代の戦争と戦時中のくらしについての展示も見ることができる。

「紙のまち」というフィルターを通して、富士市の近代と未来の姿を考える。

- ①手すき和紙＝和紙づくりの道具、原料等
- ②近代製紙の幕開け＝原田製紙1号機模型、佐野熊ナプキン、富士製紙会社関連資料等
- ③紙のまちへのあゆみ＝県製紙工業試験場資料、マードック賞受賞のメダル等
- ④子どもの遊びと学び＝穆清尋常高等小学校棟札、学習掛図（複製）等
- ⑤戦争とくらし＝軍服、青い目の人形メリー（写真展示）等の戦時資料



戦争とくらし

③ 事業（令和7年度）

ア 企画展等

- ①春のテーマ展「浮世絵版画の世界」
- ②夏のテーマ展「江戸時代の出版事情」
- ③秋のテーマ展「うめはらまん絵本原画展」
- ④冬のテーマ展「東泉院の明治維新～六所良邑とその時代～」
- ⑤春のテーマ展「浮世絵版画の世界」
- ⑥第62回企画展「縄文のまじない～ふしぎな道具はなぜ作られた？！～」
- ⑦富士山の玉手箱特集展示「武田弘氏寄贈富士山コレクション 扇子に描かれた富士山」
- ⑧富士山の玉手箱特集展示「徳力富吉郎 富士三十六景」
- ⑨富士山の玉手箱特集展示「曾我兄弟！」
- ⑩富士山の玉手箱特集展示「武田弘氏寄贈富士山コレクション 藍を纏い白を彩る」

イ 講座・体験学習等

博物館陶芸室や染色室、実習室、旧稲垣家住宅等を会場に、各種講座・体験学習を行い、先人の知恵や技術を知り、生活体験に触れる機会を設けた。

富士山ネットワーク推進委員会の事業では、第23回目となる「富士山ぐるりんコンテスト」を実施した。

ウ 六所家総合調査

令和2年度末に刊行した一般向け概説書「富士山東泉院の歴史」をもって近世までの調査については一定の成果をみたが、令和4年度から引き続き近代資料の調査を実施した。

エ 富士市立博物館ボランティアの活動

令和7年度末で活動19年目となる。令和7年度の登録メンバーは35名。主な活動として、博物館主催事業や体験学習での指導・補助、館収蔵資料の整理、展示補助等、多岐に渡る博物館業務で活動している。

④ 出版物（平成25年度以降）

年度	出版物名	種別、判型等
平成 25	第52回企画展『縄文の美～土器の文様と飾り～』 富士山世界文化遺産登録記念特別展『鳥の目で見た富士～鳥瞰図の世界～』 『六所家総合調査報告書 古文書①』	企画展解説書 A4 16P 特別展解説書 A4 30P 報告書 A4 184P
平成 26	春のテーマ展『富士山×絵葉書 平川コレクションに見る富士の姿』 第53回企画展『富士山の下に灰を雨らす 富士の噴火と古墳時代後期の幕開け』 『六所家総合調査報告書 書画』 『六所家総合調査報告書 聖教』	展示会解説書 A4 23P 企画展解説書 A4 49P 報告書 A4 120P 報告書 A4 450P
平成 27	『六所家総合調査報告書 古文書②』 リニューアルオープン記念展『富士のある風景』	報告書 A4 520P 企画展解説書 変形 35P
平成 28	第54回企画展『東洋美術史の父 大村西崖』 六所家総合調査だより特別号①「護持院隆光と東泉院精海」	企画展解説書 A4 60P 調査だより A4 32P
平成 29	リニューアルオープン1周年記念展『富士登山列伝 頂に挑むということ』 『富士山かぐや姫ミュージアム 常設展示総合ガイドブック』 第55回企画展『産業の種蒔く人―伝法中原4号墳と古代のエンジニアたち』 『六所家総合調査報告書 古文書③』 六所家総合調査だより特別号②「東泉院の神道資料」	記念展解説書 A5 32P 概説書 A5 変形 92P 企画展解説書 A5 20P 報告書 A4 520P 調査だより A4 37P
平成 30	富士山世界遺産登録5周年記念展『かぐや姫の里と白隠さん』 第56回企画展『富士が見守る交流の道―古代東海道と富士山ジャンクション―』	記念展解説書 A4 24P 企画展解説書 A5 変形 40P
令和元	第57回企画展『東海の軍を発す―伝法 東平1号墳とヒミツの武器』	企画展解説書 A5 変形 30P
令和2	六所家総合調査「富士山東泉院の歴史」	概説書 A4 140P
令和3	第58回企画展『トイレの紙さま～おしりふきふき いまむかし～』	企画展解説書 A5 変形 29P
令和4	第59回企画展『河東をめぐる戦国時代』	企画展解説書 A4 20P
令和5	第60回企画展『東海道にかける富士の橋』	企画展解説書 A4 40P
令和6	第61回企画展『将軍綱吉の時代と富士』	企画展解説書 A4 40P
令和7	第62回企画展『縄文のまじない～ふしぎな道具はなぜ作られた？！～』	企画展解説書 A4 40p

⑤ 利用状況（令和7年度）

ア 博物館施設利用状況

年間開館日数	301 日
年間利用者数	68,549 人
一日平均利用者数	245 人
利用者累計(昭和 56 年度～)	2,099,660 人



イ 令和7年度 事業別利用者数

(7) 自主展観事業

第 62 回企画展「縄文のまじない」

事業名	開催期間	人数(入館者数)
春のテーマ展「浮世絵版画の世界」	2月1日～4月13日	8,358 人
夏のテーマ展「江戸時代の出版事情 富士山かぐや姫ミュージアム・富士市立富士文庫コレクション展」	4月26日～8月17日	13,951 人
秋のテーマ展「うめはらまんな絵本原画展」	8月30日～11月9日	11,813 人
冬のテーマ展「東泉院の明治維新～六所良邑とその時代～」	11月22日～1月25日	4,623 人
第 62 回企画展「縄文のまじない～ふしぎな道具はなぜ作られた？！～」	2月7日～4月12日	10,062 人

(イ) 各種講座等教育普及活動

講座・教室名	開催日	回数	人数
古代人の暮らし -古代の知恵に学ぶ-	7月27日、2月11日、3月15日	3回	88 人
たんけん！はくぶつかん！	4月29日	1回	77 人
博物館館長講座	6月15日	1回	30 人
戦時中の食事	8月6日	1回	10 人
かまど飯を食べよう!!	9月15日	1回	16 人
お月見お供え団子作り	10月4日	1回	11 人
富士の型染体験	10月5日	1回	16 人
富士川の歴史と文化	11月23日	1回	20 人
かまどでご飯と差し茅交流会	11月9日	1回	11 人
博物館講座「はじめての曾我兄弟 ～富士川合戦の話もあるよ～」	1月12日	1回	29 人
オリジナルだるま作り	1月25日	1回	14 人

(ウ) その他の事業

イベント名	開催日	人数
博物館の日(手すきハガキづくり、火おこし体験、博物館クイズ 他)	4月、5月、9月、11月、3月の第1日曜日に実施	1,053人
かやぶき農家の工芸まつり	5月10日～6月1日の週末、博物館利用団体の作品展示、販売・体験を実施	1,029人
かやぶき農家の癒しのおんがく会	4月、5月、10月、11月に実施	458人

(エ) 幼稚園・保育園・小中学校等との連携による体験学習への支援

小・中学校

支援内容	施設数	延回数・延人数・点数
見学対応	21校	23回 1,522人
紙すき体験	1校	1回 6人
縄文土器作り等古代体験(火おこし体験、勾玉含む)	1校	1回 107人
むかしのくらし体験(かまど体験等)	1校	1回 81人
資料貸出(火おこしセット、日常生活用品等)	2校	2回 29点
出前講座・講演会等	18校	22回 1,615人

幼稚園・保育園

支援内容	施設数	延回数・延人数
見学対応	2園	2回 89人
古代体験(土玉ペンダント出前)	1園	1回 25人

高等学校・大学

支援内容	施設数	延回数・延人数
見学対応	4校	4回 141人
古代体験(出土資料の整理・調査)	0校	0回 0人

その他施設

支援内容	施設数	延回数・延人数
見学対応	7か所	7回 132人
紙すき体験	4か所	4回 43人
古代体験(ミニミニ埴輪づくり、勾玉づくり)	2か所	2回 56人
むかしのくらし体験(かまど体験等)	1か所	1回 55人
その他体験(和綴じ本づくり、博物館の日参加ほか)	2か所	2回 27人
出前講座(紙すき・ミニミニ埴輪)・講演会等	11か所	12回 345人

⑥ 資料・図書収集状況（令和7年度末現在）

収蔵資料総合計数 ※視聴覚資料の数には委託制作ビデオを含む。

	館所蔵				寄託	借用	合計
	寄贈	購入	収集	移管			
民俗	14,130	89	0	2,091	86	3	16,399
美術工芸	5,979	1,033	0	96	69	15	7,192
歴史	24,044	623	0	1,481	1,173	6	27,327
考古	3,223	3	0	4,214	2	711	8,153
紙関係	1,882	394	0	61	1	22	2,360
自然	25	0	0	98	1	0	124
視聴覚	345	106	204	11	0	0	666
その他	8,061	1	0	0	142	0	8,204
合計	57,689	2,249	204	8,052	1,474	757	70,425

※六所家関係資料、山崎家関係資料、森家関係資料は、整理中のため未計上

※武田氏関係資料（富士山コレクション）は、寄贈分類「その他」で受入れ、今後整理作業を進め、
正式な分類に振り分ける予定

(10) 教育文化スポーツ奨励賞

教育、文化及びスポーツの振興に寄与する市民等の活動を奨励するため、教育、文化及びスポーツの振興に優れた業績をあげているもので、将来一層の発展が望まれる市内の個人又は団体を表彰する。

令和7年度受賞者

◆河野 豊（文化・音楽）

長年、音楽の分野で文化芸術の普及に貢献している。市総合文化祭等でのトロンボーンの演奏や、市内中学校吹奏楽部での指導を通じて音楽の魅力発信や後進の育成に努めている。また、令和7年4月にオープンした北里アリーナ富士のチャイムの編曲を行った。

◆鈴木 真紀子（鳳苑）（文化・書道）

長年、書道の分野で文化芸術の普及に貢献している。子どもから大人まで幅広い世代に書道の楽しさを伝えるとともに、自らも日々の鍛錬を欠かさず、市展をはじめ様々な展覧会への出展など、書道の普及に尽力している。現在、市書道連盟事務局長などの要職を務めるなど、今後も活躍が大いに期待される。

◆山本 みちの（文化・華道）

長年、華道を通じて文化芸術の振興に貢献している。市総合文化祭などへの出展を通じて、生け花の魅力を発信するとともに、幅広い世代への指導により、華道の普及に尽力している。日々自己研鑽も続けるなど、華道への変わらぬ情熱により、今後も活躍が大いに期待される。

◆（一社）茶道裏千家淡交会富士支部（文化・茶道）

設立後56年にわたり、裏千家茶道の振興及び普及に努め、様々なイベントでの呈茶や小中学校及び高等学校などでの指導など、茶道文化の伝承やお茶を親しむ取組などを進めている。また、会員の技術向上のため、定期的に研究会を開催し、研鑽を積んでいる。今後も活躍が大いに期待される。

◆富士市スキー協会（スポーツ・スキー）

長年、スポーツの振興に貢献している。設立から55年間にわたり、スキーの振興及び普及に尽力し、市民スキー教室を通じてスキーの楽しさを伝えるとともに、競技力を高めるための研鑽も積み、県民スポーツ祭の優勝や、インターハイや国体出場選手を輩出している。今後も活躍が大いに期待される。

V 資料編

1 富士市教育行政のあゆみ（略記）

令和8年5月1日現在

年	月	日	事 項
昭和21	3	5	米国陸軍省から派遣された教育使節団一行 27 名が来日 （日本教育制度の基本改革を行うべく諸項目の勧告）
	12	27	教育使節団に協力するため教育刷新委員会が設けられ第一回建議を行う市町村及び府県に一般地方行政から独立して教育行政を行う公選による教育委員会を置き、府県間の教育行政の不均衡の是正を行うことを勧告
	22	3	31 「教育基本法」「学校教育法」が公布
	4	1	新制度による小・中学校の六・三制が発足
23	4	1	吉原市誕生（小学校 3 校・吉原、今泉、伝法、中学校 1 校・吉原）
	7	15	「教育委員会法」が公布
24	1	12	「教育公務員特例法」が公布
	6	10	「社会教育法」が公布
25	4	30	「図書館法」が公布
	5	30	「文化財保護法」が公布
	12	1	吉原市に教育委員会が置かれ、事務局に 1 室 3 課を置く 同時に公選による教育委員が就任
26	12	1	「博物館法」が公布
	12	6	富士公民館開館
27	4	1	昭和幼稚園、原田幼稚園、岩松幼稚園を開園
	10	1	富士町、鷹岡町、田子浦村、岩松村に教育委員会が置かれ、それぞれ公選による教育委員が就任
	11	1	教育委員会法の全面的実施により全国の市町村にもれなく教育委員会が設置される
28	1	10	教育制度の基本及び教育・学術・文化関係の基本的重要施策を調査審議する機関として中央教育審議会が発足
	4	1	田子浦幼稚園、元吉原幼稚園を開園
29	3	31	富士市誕生 富士町、田子浦村、岩松村が合併 小学校 4 校：富士第一、富士第二、田子浦、岩松、中学校 3 校：富士、田子浦、岩松
	10	1	富士市公選による教育委員が就任
30	2	11	元吉原、須津、吉永、原田の各村が吉原市に合併 幼稚園 3 園：元吉原、昭和、原田 小学校 9 校：吉原、今泉、伝法、神戸、元吉原、須津、吉永第一、吉永第二、原田 中学校 6 校：吉原第一、吉原第二、穆清、原田、元吉原、須津 大淵村が吉原市に合併（幼稚園 3 園、小学校 11 校、中学校 7 校）
	4	1	大淵第二小学校を開設（児童数・124 名）
	4	3	（大淵小学校より独立、大淵第二小学校となる）
	4	15	大淵幼稚園を開園

年	月	日	事 項
昭和	31	4 1	浮島村西部三区（船津、西船津、境）が吉原市に合併
		2	吉原市立吉原東小学校を創立、同小学校、須津中学校へ編入
		6 30	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」公布
	10	1	教育委員が任命制となり、各市町村に長の任命する教育委員が就任 （富士：井上俊夫、滝川武司、初見五郎、田杉豊作、涌田隆一） （鷹岡：石川軍治、西村寿、村上勝次郎、都築千代治、山本英彦） （吉原：佐野熊次郎、林玄嗣、渡辺仙太郎、水野精一、大石英）
		10 3	
		34 12 28	公民館の設置及び運営に関する基準が告示
	35	4 1	吉原第三中学校を開校 （吉原市：穆清、原田両中学校を統合して創立 生徒数・929 名）
		10 1	田子浦公民館、岩松公民館を開館
		36 4 1	富士南中学校を開校（生徒数 1 年生・273 名）
	37	6 16	「スポーツ振興法」が公布
		4 1	吉原東中学校を開校（生徒数 2 年生・56 名、1 年生 74 名）
		4 10	吉原市立商業高等学校を開校（新入生・244 名）
		9 1	静岡県立吉原林間学園が開設 児童福祉法に基づく情緒障害児短期治療施設。同時に特殊学級として治療学級を大淵第一小学校に併設
		39 2 11	吉原市立図書館を開館（41. 4. 1 富士市立中央図書館に改称）
		41 7 1	鷹岡公民館を開館
		7 11	吉原市立青少年の家を開設
		11 1	富士市誕生 吉原、富士、鷹岡 2 市 1 町合併 幼稚園 7 園、小学校 17 校、中学校 12 校、商業高校 1 校
		42 4 1	青少年補導センターを開設
	43	6 1	「富士市立公民館の設置及び管理等に関する条例」制定
		9 26	「富士市立公民館の設置及び管理等に関する条例施行規則」制定
	44	5 31	田子浦公民館を改築竣工
	45	1 1	南幼稚園を開園 （25. 5. 5 私立東芝幼稚園として創立されたものが富士市に移管）
		11 1	須津公民館、原田公民館、大淵公民館、吉永公民館を開館 広見小学校を開校（児童数・954 名）
		12 1	元吉原公民館を開館、
	46	4 1	浜幼稚園を開園
	47	4 1	天間幼稚園を開園
	48	1 13	東公民館を開館（東小学校体育館に併設）
		4 1	丘小学校を開校（児童数・504 名） 伝法公民館、今泉公民館を開館
		6 1	市民プールを開設（敷地面積 11, 935 m ² 、プール水面積 2, 235 m ² ）
	49	4 1	岳陽中学校を開校（生徒数・236 名） 富士駅南公民館を開館
		10 1	少年自然の家を開設

年	月	日	事 項
昭和51	4	1	神戸公民館を開館
52	7	11	野球場を開設（敷地面積 25,000 m ² 、収容人員 13,400 人）
53	4	1	富士見台小学校を開校（児童数 433 名、学級 12 学級、教職員 22 名）
	4	1	勤労者体育センターを開設（敷地面積 5,329 m ² 、建物面積 2,174 m ² ）
			富士南小学校を開設（児童数 1,116 名、学級 28 学級、教職員 42 名）
			県立富士東高等学校が開校
			広見公民館を開館
54	4	1	天間小学校を開校（児童数 716 名、学級 19 学級、教職員 23 名）
55	11	1	西図書館を開館
56	3	25	樋代官長屋門、原泉舎移築復原竣工
	3	31	吉永第二小学校・吉原第三中学校の勢子辻分校を閉校 （明治 39 年 2 月 10 日鶴無ヶ淵尋常小学校・穆清中学校の勢子辻分校として創立。昭和 56 年 3 月児童生徒数は 7 名）
	4	1	吉原北中学校を開校（生徒数 401 名、学級 10 学級、教職員 23 名）
			機構改革により文化振興課を設置（体育保健課をスポーツ振興課に改称）
			事務局 5 課、1 出先機関並びに教育機関として公民館 15 館、図書館 2 館、博物館、少年自然の家、青少年補導センター及び商業高校、幼稚園 9 園、小学校 22 校、中学校 14 校となる
			富士南公民館を開館
		25	富士市立博物館を開館
57	2	1	吉原公民館を開館
	4	1	富士市教育文化奨励賞授与要綱制定
	6	1	陸上競技場開設 公認 3 種陸上競技場 陸上競技場全体面積 25,000 m ²
58	2	8	横沢古墳移築復原竣工
	3	25	富士市教育文化奨励賞授与規則制定（57 年制定同要綱廃止）
	4	1	富士見台公民館を開館
			視聴覚ライブラリーを開設（社会教育課内）
59	4	1	丘公民館、天間公民館を開館
			庭球場開設（全体面積 15,000 m ² ）
			機構改革により青少年課を新設（富士市勤労青少年ホームも所管）、スポーツ振興課、文化振興課を統合して文化体育課を設置（市民会館、体育館等も所管）及び青少年補導センターを青少年相談所に改称
59	4	1	事務局 5 課、教育機関として公民館 20 館、図書館 2 館、博物館、少年自然の家及び青少年相談所並びに商業高校、幼稚園 9 園、小学校 22 校、中学校 14 校となる
	7	22	第 1 回富士市青少年の船が三宅島を寄港地として実施（研修生 74 名スタッフ 16 名、計 90 名）
61	4	1	青少年センター開設（富士市勤労青少年ホーム廃止）
	6	27	弓道場開設（全体面積 1,500 m ² ）
			総合運動公園内に運動広場開設（全体面積 9,900 m ² ）
62	3	10	東公民館移転新築（東小学校より独立）

年	月	日	事 項
昭和62	3	30	博物館工芸室、常設展示替
平成元	4	1	東図書館を開館（吉永公民館改築併設）
	4	1	岩松北小学校を開校（児童数 581 名、学級数 17 学級、教職員 31 名）
2			温水プール開設（全体面積 2,114.43 m ² ）
3	4	18	富士文庫を開館（鷹岡市民プラザ併設）
	3	1	富士市立体育館改築竣工
	4	1	機構改革により文化体育課を分離し、文化振興課と体育振興課を設置 事務局 6 課、教育機関として公民館 20 館、図書館 4 館、博物館、少年自然 の家及び青少年相談所並びに商業高校、幼稚園 9 園、小学校 23 校、中学校
4			14 校となる
5	4	1	吉永北公民館を開館
	3	1	吉原商業高等学校新校舎竣工
6	4	25	富士中央小学校を開校（児童数 469 名、学級数 15 学級、教職員 29 名）
	4	16	3 歳児保育を開始（昭和幼稚園、浜幼稚園）
7	11	1	富士市立歴史民俗資料館開館
8	10	4	新富士市立中央図書館を開館
9	6	15	砂山公園プールオープン 愛称名「富士マリンプール」
	3	25	富士市歴史民俗資料館収蔵庫新築竣工
10	4	1	富士市生涯学習推進プラン「ふじトゥモロウスクール」発刊
12	4	1	青葉台小学校を開校（児童数 434 名、学級数 12 学級、教職員数 26 名）
	4	1	機構改革により社会教育課、青少年課を統合し、生涯学習課を設置 事務局 5 課、教育機関として公民館 22 館、図書館 4 館、博物館、少年自然 の家、青少年相談所及び青少年センター並びに商業高校、幼稚園 9 園、小 学校 25 校、中学校 14 校となる
		16	中央図書館今泉分室開館
13	8	10	中央図書館分館開館
	4	1	機構改革により文化振興課、体育振興課を統合し、文化スポーツ課を設置 事務局 4 課、教育機関として公民館 23 館、図書館 4 館、博物館、少年自然 の家、青少年相談所及び青少年センター並びに商業高校、幼稚園 9 園、小 学校 25 校、中学校 14 校となる
14			青葉台公民館を開館
15	4	1	富士北公民館を開館
	3	20	田子浦公民館を増築し、「中央図書館田子浦分室」を設置
16	12	10	「スポーツ振興計画」実施計画を作成
	4	1	教育総務課総務担当を企画総務担当に改編 機構改革により文化スポーツ課を分離し、文化振興課とスポーツ振興課を 設置 事務局 5 課、教育機関として公民館 24 館、図書館 4 館、博物館、少 年自然の家、青少年相談所及び青少年センター並びに商業高校、幼稚園 9 園、小学校 25 校、中学校 14 校となる
18			
19	2	1	「富士市子ども読書活動推進計画」策定
	9	28	「富士市まちづくりセンター条例」制定

年	月	日	事 項
平成20	4	1	機構改革により公民館がまちづくりセンターの名称に変わり、市民部まちづくり課へ、幼稚園が福祉部こども保育課へ移管。それに伴い、生涯学習課が社会教育課に改編。また、学校教育課に教育指導室を設置
		4	西図書館を富士市交流プラザ内に移転開館
		20	中央図書館大淵分室開館
	11	1	富士川町との合併により、富士川体育館、富士川河川敷憩いの広場運動施設、富士川学校給食センターを設置。また、小学校 27 校、中学校 16 校、幼稚園 10 園となる。
	11	5	中央図書館富士川分室開館
22	3	31	「スポーツ振興計画」の第二期計画書（計画期間：平成23年度～平成32年度）を作成
23	3	22	「富士市教育振興基本計画」を策定
	4	1	「第二次富士市子ども読書活動推進計画」を策定
			伝法小学校に肢体不自由特別支援学級を開設
			富士市立高等学校を開校（吉原商業高等学校から学科改編、開校式 4/7）
	6	24	「スポーツ振興法」が全部改正され「スポーツ基本法」が公布
	8	1	学校OA化推進事業により校務システム開始
24	4	1	電話相談「青少年相談ふじ」の愛称を「ほっとテレフォン・ふじ」とする。
	8	5	「第29回富士市青少年の船」実施→平成25年度以降の開催の中止を決定
25	11	1	「富士市文化振興基本計画」を策定
	12	23	全日本大学女子選抜駅伝競走（富士山女子駅伝）開催
26	8	11	第1回青少年体験交流事業「キズナ無限∞の島」開催（研修生 136 名、スタッフ 38 名）
27	2	18	富士川第二小学校をコミュニティ・スクールに指定
	3	11	富士市立博物館屋外収蔵庫竣工
		31	青少年センターを閉館
	4	1	機構改革により学務課を新設
			富士市教育プラザを開所（落成式典 4/6）
			教育プラザ内に教育研修センター、特別支援教育センター、青少年教育センター、青少年相談センターを開設
		28	教育プラザに若者相談窓口を設置
28	2	22	「富士市教育振興基本計画 後期実施計画」を策定
	4	1	少年自然の家・青少年の家を指定管理へ
		29	富士山かぐや姫ミュージアム落成記念式典
	8	1	学校OA化推進事業により校務システム更新
	11	1	富士市文化会館にふじ・紙のアートミュージアムを開設
29	6	21	吉原小学校、伝法小学校、富士第二小学校、吉原第一中学校及び富士川第二中学校に学校運営協議会を設置
	8	5	中学校英語科教員を米国オーシャンサイド市へ研修派遣
30	1	22	富士市いじめ防止基本方針策定
	2	21	富士市小中連携・一貫教育基本方針策定
	4	1	富士見台小学校に外国人児童生徒支援のための国際教室を開設
	8	11	小学校教員 1 人、中学校英語科教員 1 人を米国オーシャンサイド市へ研修派遣

年	月	日	事 項
平成31	10	1	学校図書システム及び小中学校 I C T 機器等の更新
		4	23 須津小学校、田子浦小学校、鷹岡小学校及び富士見台小学校に学校運営協議会を設置
令和元	8	10	小学校教員 1 人、中学校英語科教員 1 人を米国オーシャンサイド市へ研修派遣
		3	3 新型コロナウイルス感染症予防のため、3 月 19 日まで市立小・中学校の臨時休業措置実施
2	3	4	4 新型コロナウイルス感染症予防のため、3 月 19 日まで市立高校の臨時休業措置実施
		3	31 浜幼稚園、元吉原幼稚園を閉園
4	4	1	神戸小学校、元吉原小学校、東小学校、大淵第一小学校、富士第一小学校、富士南小学校、天間小学校、富士川第一小学校に学校運営協議会を設置
		4	9 新型コロナウイルス感染症予防のため、5 月 21 日まで市立小・中学校及び市立高校の臨時休業措置実施
5	5	17	新型コロナウイルス感染症予防のため、市立高校において在宅生徒とのオンラインを介したホームルームや授業形式の学習などを開始
		5	22 新型コロナウイルス感染症予防のため、5 月 29 日まで市立小・中学校の分散登校実施
5	5	22	市立高校の通常登校開始
		6	1 市立小・中学校の通常登校開始
6	6	22	富士市立小中学校適正規模・適正配置基本方針策定
		12	25 GIGA スクール構想用タブレット整備（中学校整備完了）
3	3	25	GIGA スクール構想用タブレット・大型提示装置整備（小学校整備完了）
		4	1 まちづくりセンター講座を、市民部まちづくり課による補助執行から社会教育課の直接執行へと改める。
8	8	25	広見小学校、丘小学校、富士中央小学校に学校運営協議会を設置
		9	1 新型コロナウイルス感染症予防のため、8 月 31 日まで市立小・中学校の夏季休業を延長
9	9	1	1 新型コロナウイルス感染症予防のため、9 月 10 日まで市立小・中学校の時差式分散登校実施（緊急事態宣言中）
		10	1 大型提示装置整備（中学校整備完了）
4	1	21	第二次富士市教育振興基本計画策定
		3	31 大淵幼稚園、南幼稚園を閉園
4	4	1	機構改革により、市民部文化振興課から分離した文化財課、及び博物館の所管を開始
		6	15 富士市立富士川第二小学校、及び富士市立富士川第二中学校による施設一体型小中一貫校「富士川第二小中一貫校 松野学園」を開校
5	5	6	15 今泉小学校、吉永第一小学校、吉永第二小学校、原田小学校、大淵第二小学校、岩松小学校、岩松北小学校、青葉台小学校に学校運営協議会を設置
		7	22 「富士市文化財保存活用地域計画」を策定
5	5	8	30 GIGA スクール構想用タブレット追加整備（小学校 1・2 年生用）
		2	1 移動図書館「ふじ号」を旧車両から更新、軽自動車 2 台体制での運行開始

年	月	日	事 項
令和5	2	1	タブレットを活用した「ほっとデジタル相談・ふじ」を開設
	3	31	GIGA スクール構想用タブレット整備（市立高校整備完了） 田子浦小学校に外国人児童生徒支援のための国際教室を新設 原田幼稚園を閉園
	4	1	学校給食公会計化開始 大淵第二小学校を大淵第一小学校に編入統合 （明治37年4月1日大淵尋常高等小学校に大坂分教場として創立。令和4年度末の児童数は23人） 元吉原中学校、須津中学校、富士中学校、田子浦中学校、富士南中学校、鷹岡中学校に学校運営協議会を設置 富士市立中学校部活動地域移行検討懇話会を設置
	8	11	青少年体験交流事業「キズナ無限∞の島」をリニューアルし、「無限∞のキズナ」として研修地を変更して実施（研修生83人、スタッフ19人）
	6	4	1 吉原東中学校を吉原第三中学校に編入統合 （昭和37年4月1日に吉原第三中学校から分離独立して誕生。令和5年度末の生徒数は99人） 市内全ての公立小・中学校が中学校併設型小学校及び小学校併設型中学校とし、全中学校区で小中一貫教育を開始 吉原第二中学校、吉原第三中学校、大淵中学校、岩松中学校、岳陽中学校、吉原北中学校に学校運営協議会を設置し、全ての公立小・中学校がコミュニティ・スクールとしての学校運営を開始 富士市立中学校部活動地域移行協議会を設置
	7	3	31 富士川第一幼稚園を閉園、岩淵保育園を閉園
	4	1	富士川こども園が開園 富士市青少年問題協議会を廃止し、富士市子ども・若者支援協議会に集約 社会福祉センター広見荘の閉所に伴い、陶芸室を博物館の所管とする。 富士市立博物館（工芸室・実習室・陶芸室）の有料化 旧大淵第二小学校の跡利用の開始 富士第二小学校に校内教育支援センターを設置
	9		児童生徒用 GIGA タブレット端末更新
	11	1	富士市指定史跡「千人塚古墳」供用開始
	8	3	27 「富士市部活動地域連携・地域展開推進に関する基本方針」を制定
	3	31	相談ニーズの変化と利用件数の減少により、「ほっとテレフォン・ふじ」を廃止
	4	1	機構改革により教育総務課内に学校適正配置推進室を設置 学務課の学事担当及び保健関連事業を学校教育課に移管し、学事保健担当を設置 学校管理課を新設 教育総務課が所管する小・中学校の経理及び施設管理の事業、学務課が所管する給食運営の事業を学校管理課に移管し、経理給食担当と施設担当を設置 これに伴い学務課を廃止 吉原小学校と青葉台小学校に校内教育支援センターを設置

2 富士市教育委員会委嘱の各種名簿

- ※時点を記載していないものについては、令和8年6月1日現在の名簿となります。
- ※任期途中で人事異動等により就任した委員の任期は、前任者の残任期を引き継いでいます。
- ※各種名簿の備考欄に記載されている役職等については、委員就任時の役職等を記載しています。

(1) 富士市教育委員会自己点検・評価に関する外部評価検討会委員名簿

任期 自 令和7年4月1日
至 令和9年3月31日

No.	氏 名	備 考
1	島 田 桂 吾	静岡大学大学院教育学研究科准教授
2	鈴 木 幸 人	富士教育会館館長 元富士市校長会会長
3	工藤 千麻琴	青少年教育指導者 元富士市立高等学校学校運営協議会委員
4	内 田 祐 子	令和7年度富士商工会議所青年部会長

(2) 富士市教育振興基本計画策定委員会委員名簿

任期 自 令和8年6月1日
至 令和9年3月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	濱 嶋 祐 樹	富士市PTA連絡協議会	7	佐 野 浩 士	公募委員
2	田 辺 敬 子	富士市文化連盟	8	島 田 桂 吾	静岡大学 教育学部 准教授
3	佐 野 弘 美	富士市スポーツ協会	9	酒 井 郷 平	常葉大学教育学部 学校教育課程 准教授
4	妻 木 崇 雄	富士市子ども会世話人連絡協議会	10	藤 森 三 奈	富士市校長会 (富士見台小学校校長)
5	松 本 美 保	公募委員	11	三 上 聡	富士市校長会 (大淵中学校校長)
6	幕 田 聡 子	公募委員	12	市 川 里 江 子	幼稚園保育園関係者 (天間幼稚園園長)

(3) 富士市立中学校部活動地域展開協議会委員名簿

任期 自 令和8年6月1日
至 令和10年5月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	橋 本 仁	富士市PTA連絡協議会会長	6	村 田 真 一	学識経験者
2	濱 嶋 祐 樹	富士市PTA連絡協議会副会長	7	今 村 利 信	富士市中学校体育連盟会長 (鷹岡中学校校長)
3	佐 野 弘 美	富士市スポーツ協会会長	8	齋 藤 章 治	富士市中学校体育連盟理事長 (鷹岡中学校教諭)
4	辻 村 典 枝	富士市文化連盟会長	9	堤 幸 士	静岡県中学校文化連盟理事 (田子浦中学校校長)
5	赤 松 智 美	公募委員	10	神 尾 充 浩	富士市校長会 (富士南中学校校長)

(4) 富士市立高校在り方審議会

任期 自 令和8年6月1日
至 令和10年3月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	工藤 千麻琴	富士商工会議所	6	杉 山 禎	学識経験者 (静岡産業大学 大学事務局 教務課 教職センター長)
2	野 田 純 生	富士市まちづくり協議会連合会副会長	7	佐 野 文 子	学識経験者 (静岡県総合教育センター主任)
3	鈴 木 伸 彦	学識経験者 (静岡県公立高等学校 PTA連合会 事務局長)	8	堤 幸 士	富士市校長会 (田子浦中学校校長)
4	鈴 木 広 隆	学識経験者 (元県立高等学校の校長)	9	工 藤 大 輔	富士市校長会 (須津中学校校長)
5	堀 井 啓 幸	学識経験者 (常葉大学教育学部名誉教授)			

(5) 富士市立小中学校再編計画等策定委員会委員名簿

任期 自 令和8年1月20日
至 令和10年3月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	橋 本 仁	富士市PTA連絡協議会	6	武 井 敦 史	学識経験者
2	濱 嶋 祐 樹	富士市PTA連絡協議会	7	齊 藤 清 隆	富士市まちづくり協議会連合会会長
3	中山 聡一郎	未就学児保護者の代表	8	千 葉 辰 夫	富士市町内会連合会会長
4	中山 早由里	公募委員	9	若 林 努	富士市校長会 (富士中学校校長)
5	本多 佐和子	公募委員	10	山 本 真 人	富士市校長会 (富士第一小学校校長)

(6) 富士市いじめ問題対策推進委員会委員名簿

任期 自 令和7年4月1日
至 令和9年3月31日

No.	氏 名	備 考
1	永 房 典 之	大学教授
2	里 和 唯	弁護士
3	高 木 啓	医師
4	鈴 木 隆 広	臨床心理士
5	齋 藤 朝 子	社会福祉士

(7) 富士市いじめ問題対策連絡協議会委員名簿

任期 自 令和7年7月1日
至 令和9年6月30日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	山 本 真 人	富士市校長会会長 (富士第一小学校校長)	9	伊 藤 真 也	こども未来部こども未来課長
2	前 島 純 司	富士市教育研究推進会小中学校生徒指導部部長 (須津小学校校長)	10	沓 澤 真 弓	こども未来部こども家庭課長
3	高 野 剛	富士市教育研究推進会中学校生徒指導部部長 (富士川第一中学校校長)	11	味 岡 俊 雄	教育次長
4	川 口 一 弘	静岡県方法務局富士支局長	12	渡 辺 哲 成	社会教育課長兼青少年教育センター所長
5	小松 千鶴子	静岡県富士児童相談所育成課長	13	松 永 正 之	青少年相談センター所長
6	山 田 仁 志	富士警察署生活安全課長	14	櫻 井 祥 行	富士市立高等学校校長
7	橋 本 仁	富士市PTA連絡協議会会長	15	野 村 直 樹	学校教育課長
8	高 木 豊	富士市福祉部障害福祉課長			

(8) 富士市学校結核対策委員会委員名簿

任期 自 令和8年4月1日
至 令和9年3月31日

No.	氏 名	備 考
1	永井 しづか	静岡県富士保健所長
2	日 向 真 一	富士市医師会代表 (ひなたクリニック)
3	西 島 一 典	富士市学校医代表 (田子浦クリニック)
4	遠 藤 繁	結核専門医 (遠藤内科医院)
5	望 月 和 洋	富士市校長会 (富士市立吉原小学校長)
6	小板橋 詩子	養護教諭代表 (富士市立富士川第二中学校養護教諭)

(9) 富士市学校給食運営審議会委員名簿

任期 自 令和8年4月1日
至 令和10年3月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	橋 本 仁	富士市PTA連絡協議会会長	6	大 村 倫 生	学識経験者 (富士市薬剤師会代表)
2	星 屋 未 来	富士市PTA連絡協議会副会長	7	能登路 哲也	学識経験者 (公認会計士)
3	小 櫛 和 子	富士市学校給食等地場産品導入協議会会長	8	清 澤 多 笑	静岡県富士保健所管理栄養士
4	松 本 美 保	公募委員	9	畔 柳 加 奈 子	富士市校長会 (富士市立東小学校長)
5	本多 佐和子	公募委員	10	三 上 聡	富士市校長会 (富士市立大淵中学校長)

(10) 富士市社会教育委員名簿

任期 自 令和8年6月1日
至 令和10年5月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	杉 山 幸 弘	富士市校長会 (今泉小学校校長)	9	山 本 哲 也	富士市立高等学校 教頭
2	中 村 隆 洋	富士市校長会 (富士川第二小中一貫校校長)	10	猿 田 真 嗣	学識経験者
3	齋 藤 清 隆	富士市まちづくり協議会連合会 会長	11	菅 井 良 美	学識経験者
4	辻 村 典 枝	富士市文化連盟 会長	12	太 田 眞 弓	学識経験者
5	佐 野 弘 美	富士市スポーツ協会 会長	13	渡 辺 美 恵 子	学識経験者
6	中 澤 公 一	富士市子ども会世話人連絡協議会 会長	14	武 内 美 貴 乃	学識経験者
7	橋 本 仁	富士市PTA連絡協議会 会長	15	佐 野 智 恵 子	学識経験者
8	横 田 貞 子	日本ボーイスカウト日本連盟 トレーニングチームリーダー・トレーナー			

(11) 富士市図書館協議会委員名簿

任期 自 令和7年6月1日
至 令和9年5月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	小 泉 京 子	富士市校長会 (岩松北小学校校長)	5	大 内 義 文	富士市PTA連絡協議会顧問
2	佐 野 大 介	きらり交流会議副委員長	6	鈴 木 守	常葉大学教育学部 生涯学習学科教授
3	小 林 陽 子	富士市立図書館音訳ボランティア顧問	7	佐 久 間 恵	公募委員
4	戸 塚 雅 子	富士・子どもの本を学ぶ連絡会	8	松 永 卓 也	公募委員

(12) 富士市子ども読書活動推進協議会委員名簿

任期 自 令和7年7月1日
至 令和9年6月30日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	狩 野 窪 高 江	富士・子どもの本を学ぶ連絡会	7	安 田 慶 子	公募委員
2	服 部 英 之	富士市PTA連絡協議会会長	8	大 胡 田 雄 亮	公募委員
3	植 田 美 津 子	富士地区私立幼稚園協会 (ゆきよし幼稚園園長)	9	鎌 塚 優 子	静岡大学教育学部学部長
4	村 瀬 一 久	富士市民間保育園連盟 (蓮沼保育園園長)	10	田 中 尚 志	富士市校長会 (広見小学校校長)
5	鈴 木 秀 世	公立保育園・幼稚園長会 (第二保育園園長)	11	伊 藤 誠	富士市立高等学校教諭
6	松 本 美 保	公募委員	12	山 田 美 保 子	静岡県立富士特別支援学校 文化芸術課長

(令和8年3月31日現在)

(13) 富士市青少年相談センター運営協議会委員名簿

任期 自 令和7年6月1日
至 令和9年5月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	田 中 数 将	富士市青少年指導委員	7	渡 邊 有 紗	公募による市民
2	丸 山 陽 一	富士市社会福祉協議会 主査	8	遠 藤 啓 之	学識経験者
3	秋 田 考 治	富士市PTA連絡協議会副会長	9	山 田 仁 志	富士警察署生活安全課長
4	遠 藤 清 嗣	富士市まちづくり協議会連合会副会長	10	櫻 井 祥 行	富士市立高等学校校長
5	吉 川 智 子	富士市民生委員児童委員協議会 (富士北地区 主任児童委員)	11	前 島 純 司	富士市立小・中学校校長会代表 (須津小学校校長)
6	森園 友希子	公募による市民	12	沓 澤 真 弓	こども未来部 こども家庭課長

(14) 富士市子ども・若者支援協議会委員名簿

(令和7年度委員)

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	味 岡 俊 雄	教育次長	10	櫻 井 祥 行	富士市立高等学校校長
2	玉 舟 正 弥	福祉部福祉総務課長	11	太 田 眞 弓	富士市社会教育委員
3	遠 藤 弘 夫	福祉部生活支援課長	12	宮 川 弘 美	富士地区保護司会
4	高 木 豊	福祉部障害福祉課長	13	坂 田 和 枝	富士公共職業安定所長
5	沓 澤 真 弓	こども未来部こども家庭課長	14	鈴 木 淳	静岡県富士児童相談所長
6	伴 野 晃 仁	保健部健康政策課長	15	三 門 好 史	静岡県富士健康福祉センター福祉課長
7	若 田 泰 一	学校教育課長	16	朝 比 奈 俊 充	富士警察署生活安全課長
8	渡 辺 哲 成	社会教育課長	17	石 川 伸 宏	富士市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長
9	田 中 亘	青少年相談センター所長	18	内 山 玲 子	富士市民生委員児童委員協議会

(15) 富士市教育文化スポーツ奨励賞選考委員会委員名簿

(令和7年度委員)

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	太 田 桂	富士市教育長	5	檜 木 小重美	富士市校長会(吉原一中校長)
2	佐 野 弘 美	富士市スポーツ協会会長	6	松 本 玲 子	学識経験者
3	菅 井 良 美	富士市社会教育委員長	7	森 田 嘉 幸	学識経験者(前富士市教育長)
4	辻 村 典 枝	富士市文化連盟会長	8	山 本 秀 和	富士市スポーツ推進委員会委員長

(16) 富士市文化財保護審議会委員名簿

任期 自 令和7年5月1日
至 令和9年4月30日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	池 谷 初 恵	伊豆の国市企画財政部企画課内 歴史・文化拠点施設整備室学芸員	6	菊 池 邦 彦	東京都立産業技術高等専 門学校名誉教授
2	大 高 康 正	静岡県富士山世界遺産センター教授	7	田 島 整	上原美術館上席学芸員
3	小 澤 緑	富士自然観察の会会長	8	新 妻 淳 子	静岡文化芸術大学准教授
4	金 指 と も 子	駿河郷土史研究会役員	9	松 田 香 代 子	愛知大学非常勤講師 日本民俗学会員
5	河 内 え り 子	佐野美術館学芸グループ長	10	山 本 玄 珠	東海大学客員研究員 日本地質学会員、静岡県地学会員

(17) 富士市立博物館協議会委員名簿

任期 自 令和7年6月1日
至 令和9年5月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	田 中 尚 志	広見小学校校長	6	高 井 忠 満	富士市介護保険事業者 連絡協議会副部長
2	若 田 泰 一	丘小学校校長	7	外 立 ま す み	日本民具学会会員
3	小 澤 緑	富士自然観察の会会長	8	渡 邊 康 弘	日本考古学協会会員
4	林 直 輝	日本人形文化研究所所長	9	加 藤 直 子	公募委員
5	田 中 伸 佳	静岡県工業技術研究所富士 工業技術支援センター長	10	下 田 和 奏	公募委員

(18) 富士市文化財保存活用地域計画推進協議会委員名簿

任期 自 令和7年7月1日
至 令和9年6月30日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	武 内 充 則	瑞林寺副住職	6	勝 又 妃 花	公募委員
2	木 村 可 純	富士市商工会 本所・鷹岡 事務所 経営支援員	7	滝 沢 誠	筑波大学 人文社会系 教授
3	鈴 木 誠 典	富士山観光交流ビューロー 主査	8	加 藤 昭 夫	駿河郷土史研究会 顧問
4	齋 藤 清 隆	富士市まちづくり協議会連合会会長	9	田 村 隆 太 郎	静岡県スポーツ・文化観光部 文化財課文化活用班 班長
5	望 月 佳 奈	公募委員			

(19) 富士市史跡保存整備推進委員会委員名簿

任期 自 令和7年7月1日
至 令和9年6月30日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	半 田 育 子	須津地区まちづくり協議会副会長	6	高 橋 知 奈 津	奈良文化財研究所 文化遺産部 遺跡研究室 室長
2	池 谷 初 恵	富士市文化財保護審議委員	7	原 田 昌 浩	南山大学人文学部講師
3	滝 沢 誠	筑波大学 人文社会系 教授	8	田 中 成 人	富士市立須津小学校 校長
4	禰 亘 田 佳 男	大阪府立弥生文化博物館 館長 元文化庁主任調査官	9	森 清 一	浅間神社氏子総代
5	若 狭 徹	明治大学文学部 教授			

(令和8年3月31日現在)

3 富士市の社会教育関係団体一覧表

団 体 名 代 表 者 名	加入団体数 会員数	所 管 課 事 務 局 所 在 地	電 話
富士市 P T A 連絡協議会 会 長 橋本 仁	40 16,883 人	学校教育課 〒417-8601 富士市永田町 1 丁目 100 番地	51-0123 内 2539
富士市子ども会世話人連絡協議会 会 長 中澤 公一	18 2,314 人	社会教育課 〒417-0024 富士市八代町 1 番 1 号	55-0560
ボーイスカウト富士地区協議会 協議会長 小長井 義正	7 259 人	社会教育課 〒417-0024 富士市八代町 1 番 1 号	55-0560
カールスカウト富士地区連絡協議会 代 表 米田 容子	3 46 人	社会教育課 〒417-0024 富士市八代町 1 番 1 号	55-0560
富士市文化連盟 会 長 辻村 典枝	108 2,762 人	文化スポーツ課 〒417-8601 富士市永田町 1 丁目 100 番地	51-0123 内 2588
富士市民俗芸能連絡協議会 会 長 齊藤 剛	7 164 人	文化財課 〒417-0061 富士市伝法 66 番地の 2	30-7850
富士市スポーツ協会 会 長 佐野 弘美	38 17,653 人	文化スポーツ課 〒417-0041 富士市御幸町 8 番 1 号	53-6045(スポーツ協会)
富士市スポーツ少年団 本部長 伊藤 幸雄	50 1,138 人	文化スポーツ課 〒417-8601 富士市永田町 1 丁目 100 番地	51-0123 内 2548

ふじの教育

令和8年度版

令和8年6月発行

編集・発行 富士市教育委員会

富士市行政資料登録番号

R 8 － 1 2